

# 官報

號外 昭和十五年三月三日

## 第七十五回衆議院議事速記第十九號

帝國議會

昭和十五年三月二日(土曜日)

午後一時十七分開議

議事日程 第十八號

昭和十五年三月二日

午後一時開議

第一 (第一號)昭和十五年度歳入歳出

總豫算追加案

第二 (特第一號)昭和十五年度各特別

會計歳入歳出豫算追加案

第三 裁判所構成法中改正法律案(政

府提出)

第四 金華山軌道株式會社及朝倉軌道

株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對ス

ル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案

(政府提出)

第五 樺太地方鐵道補助法中改正法律

案(政府提出)

第六 恩給法中改正法律案(政府提出)

第七 損害保險國營再保險法案(政府

提出)

第八 有機合成專業法案(政府提出)

第九 自動車交通專業法中改正法律案

(政府提出)

第一讀會

第十 昭和十五年度一般會計歳出ノ財

源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律

案(政府提出)

第十一 昭和十二年法律第八十四號中

改正法律案(支那事變ニ關スル臨時

軍事費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件)

(政府提出)

第十二 職員健康保險特別會計法案

(政府提出)

第十三 作業會計法中改正法律案(政

府提出)

第十四 造幣局東京出張所ノ廳舎、工

場其ノ他ノ建物及其ノ附屬設備ノ新

營擴張ニ要スル經費ニ關スル法律案

(政府提出)

第十五 昭和十三年法律第五十三號中

改正法律案(印刷局据置運轉資本補

足ニ關スル件)(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

恩給法中改正法律案

損害保險國營再保險法案

有機合成專業法案

自動車交通專業法中改正法律案

(以上三月一日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

愛國航空獎券發行ニ關スル法律案

提出者

安藤 孝三君

長野 綱良君

日本古代文化研究所ノ設立ニ關スル建議案

提出者

添田敬一郎君

小柳 牧衛君

(以上二月二十九日提出)

史蹟顯彰ニ關スル建議案

提出者

農業水利調整ニ關スル法令制定ニ關スル

建議案

提出者

石井徳久次君

地方自治體財政調整中央金庫設置ニ關ス

ル建議案

提出者

大野 伴陸君

(以上三月一日提出)

一去二十九日米内閣總理大臣ヨリ左ノ通

發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

厚生書記官 會我 梶松

第七十五回帝國議會厚生省所管事務政府

委員被仰付

一去二十九日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル

常任委員左ノ如シ

第三部選出決算委員

第九部選出請願委員

一去二十九日常任委員理事補選學ノ結果

左ノ如シ

豫算委員

理事 増永 元也君(理事肥田琢司君

去二十一日員委辭任ニ付其ノ

補闕)

一去二十九日常任委員補選學ノ結果左ノ

如シ

第七部選出

豫算委員 三木 武夫君(小山亮君補

闕)

第八部選出

豫算委員 木暮武太夫君(篠原義政君

補闕)

第七部選出

請願委員 杉山元治郎君(川俣清音君

補闕)

一去二十九日議長ニ於テ選定シタル委員左

ノ如シ

會計檢査院法中改正法律案(政府提出)

委員

古屋 慶隆君

木原 七郎君

眞鍋 勝君

村瀬 武男君

金井 正夫君

木村作次郎君

庄司 一郎君

古屋 慶隆君

松井 郡治君

清水徳太郎君

南雲 正朝君

泉 國三郎君

服部 岩吉君

淺井 茂猪君

明治二十五年三月三十一日  
第三號郵便物認可

菊地養之輔君 中原 謹司君  
永山 忠則君 松村 光三君

一去二十九日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

輸出資金及輸出品製造資金融通損失補償法案(政府提出)委員

辭任多田 滿長君 補闕最上 政三君

辭任綾部健太郎君 補闕世耕 弘一君

船員保險特別會計法案(政府提出)外四件委員

辭任依光 好秋君 補闕石坂 豐一君

一昨一日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ  
會計検査院法中改正法律案(政府提出)委員

委員長 古屋 慶隆君  
理事

松井 郡治君 木原 七郎君  
金澤 正雄君 淺井 茂猪君

一昨一日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ

第三部選出

決算委員 內藤 守正君 (鈴木憲太郎君補闕)

第九部選出

請願委員 齋藤 直橋君 (長井源君補闕)

一昨一日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ  
會計検査院法中改正法律案(政府提出)委員

辭任永山 忠則君 補闕小田 榮君

○議長(小山松壽君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、日程第一及ビ第二ハ豫算案デアリマス

カラ、一括議題ト爲スニ御異議アリマセウカ

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、日程第一、(第一號)昭和十五年度歲入歲出總豫算追加案、日程第二、(特第一號)昭和十五年度各特別會計歲入歲出豫算追加案、右兩案ヲ一括シテ議題ト致シマス、豫算委員長ノ報告ヲ求メマス、豫算委員長

三土忠造君

第一 (第一號) 昭和十五年度歲入歲出總豫算追加案

第二 (特第一號) 昭和十五年度各特別會計歲入歲出豫算追加案

報告書

一(第一號) 昭和十五年度歲入歲出總豫算追加案

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十五年三月一日

豫算委員長 三土 忠造

衆議院議長 小山松壽殿

報告書

一(特第一號) 昭和十五年度各特別會計歲入歲出豫算追加案

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十五年三月一日

豫算委員長 三土 忠造

衆議院議長 小山松壽殿

(「三土忠造君登壇」)

○三土忠造君 只今議題トナリマシタル豫算各案ニ付キマシテ、豫算委員會ニ於ケル審議ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、

昭和十五年度歲入歲出總豫算追加第一號ハ、歲入歲出共ニ五千七百六十餘萬圓デアリマシテ、其ノ歲出追加額ノ内譯ハ、經常部四千六百二十餘萬圓、臨時部千四百四十餘萬圓デアリマス、而シテ此ノ歲出ノ中、金額ニ於テ大部分ヲ占メルモノハ、大藏省所管ニ屬スル國債整理基金繰入ノ増加四千六百二十餘萬圓デアリマス、其ノ他、農林、

内務、厚生及ビ文部ノ各省所管ニ屬スル中國、四國其ノ他ニ於ケル旱害ニ關スル經費總額九百五十餘萬圓、農林省所管ニ屬スル九州地方並ニ北陸地方、其ノ他ノ風水害及ビ雪害應急及ビ復舊施設ニ要スル經費百九十餘萬圓デアリマス、即チ災害應急對策ニ屬スル經費デアリマシテ、之ヲ支辨スベキ財源ハ、普通歲入ニ屬スルモノガ僅ニ六十餘萬圓デアリマス、残り五千七百餘萬圓ハ公債金ノ收入ニ依ルノデアリマス、右歲出追加額ノ中、國債整理基金繰入ノ増加ハ、

去ル二月二十二日本院ニ於テ可決セラレマシタ臨時軍事費追加豫算ノ財源タル支那事變公債ノ發行等ニ伴フモノデアリ、又中國、四國地方其ノ他ニ於ケル旱害ニ關スル經費ハ、曩ニ本議會ノ協賛ヲ經マシテ昭和十四年度追加豫算ニ依ル諸施設ノ中、引續キ昭和十五年度ニ於テモ之ヲ實施スル經費デアリマス、尙ホ昭和十五年度各特別會計歲入歲出總豫算追加第一號ノ中、國債整理基金

及ビ公債金ノ兩特別會計ニ屬スルモノハ、所謂通抜勘定ニ外ナラナイノデアリマス、又朝鮮總督府特別會計ニ屬スルモノハ、曩ニ本議會ノ協賛ヲ經マシテ昭和十四年度追加豫算ニ依ル中、朝鮮地方ニ於ケル旱害對策施設ニ要スル經費、其ノ昭和十五年度ニ於テ要スル經費九百八十餘萬圓ヲ計上シ、其ノ歲入ハ前年度剩餘金繰入ニ依ルノデアリマス

昨年ノ中國、四國地方ヲ中心トスル大旱魃ハ、其ノ被害ノ甚大ナルコト、實ニ百年以來未聞ノコトデアリマシテ、災害當時ニ於キマシテ目撃者ノ言ニ依リマスト、涙ナシニハ見ラレナカッタ程ノ慘害デアツタノデアリマス、其ノ被害ガ如何ニ大キナモノデアツタカト云フコトヲ、政府ノ調査ニ依リマスト、農作物ノ被害金額ハ、水稻ニ於テ二億九千餘萬圓、桑園ニ於テ、繭ガ三千五百餘萬圓、桑ガ一千九百餘萬圓、畑地ニ於テハ、陸稻、甘藷等ヲ合セマシテ五千三百餘萬圓、尙ホ此ノ外耕地ノ龜裂等ニ因ル損害ニ付テハ、耕地ノ復舊ヲ要スルモノ二萬六千九百餘町歩、水路ノ復舊ヲ要スルモノ五十一萬七千餘間、溜池ノ復舊ヲ要スルモノ二萬一千餘箇所ニ上ツテ居リマシテ、其ノ被害金額モ亦頗ル巨額ニ上ルノデアリマスルガ、是ハ算盤ヲ算出スル譯ニ參リマセウ、而シテ是ガ應急對策トシテ、政府ハ旱害地方ニ道路、河川、港灣等ノ一般土木事業、耕地改良、造林、林道開設及ビ牧野改良等ノ農業土木事業ヲ起シテ、地方ニ勞銀ヲ撒布シ、以テ農民ノ窮境ヲ緩和スルコ

トトシ、又被害耕地其ノ他ノ復舊、旱害地  
兒童ノ就學獎勵、醫療救護、子女保育施設  
ノ整備充實等、各種ノ應急及ビ復舊施設ヲ  
講ジタノデアリマシテ、是ガ爲既ニ支出致  
シマシタ金額ハ、一般會計ニ於キマシテハ、

既定豫算ノ節約額ノ復活及ビ第二豫備金、  
合セマシテ千六百九十餘萬圓、國庫剩餘金  
五百五十餘萬圓、合計二千二百四十餘萬圓  
トナリマス、之ニ先般本議會ニ於テ協賛ヲ  
經マシタ昭和十四年度追加豫算ニ計上シテ  
アリマスル旱害關係ノ經費一千五十餘萬  
圓、及ビ今回ノ此ノ追加豫算ニ計上シテア  
リマスル旱害關係經費九百五十餘萬圓、是  
等ヲ合計致シマス、旱害ニ關スル應急對  
策ノミノ經費總額ハ、四千二百五十餘萬圓  
ニ達スル譯デアリマス、尙ホ朝鮮ニ於ケル  
旱害モ、亦殆ド前古未會有トモ言フベキ悲  
慘ヲ極メタモノデアリマシテ、朝鮮總督府  
特別會計ニ於テ、昭和十四年度第二豫備金  
支出、國庫剩餘金支出、及ビ追加豫算ヲ以  
テ、既ニ三千四百二十餘萬圓支出致シテ居  
リマス、又今回ノ昭和十五年度追加豫算ヲ  
以テ九百八十餘萬圓ヲ追加シ、合計四千四  
百十餘萬圓ヲ支出スルコトニナル譯デアリ  
マス

委員會ニ於キマシテハ、大旱魃ニ因ル被  
害ノ狀況、政府ニ於ケル應急對策施設ノ内  
容、今後ニ於ケル恆久對策等ニ付キマシテ、  
詳細且ツ熱心ニ討議ガ行ハレタノデアリマ  
シテ、之ニ對シ政府ヨリモ詳細ナル説明ガ  
アリマシタ、又旱害恆久對策ニ付キマシテ  
モ、相當考慮シタキ旨ノ答辯ガアツタノデ

アリマス、尙ホ念ノ爲ニ附加ヘテ申シテ置  
キマスルガ、以上申上ゲマシタノハ應急對  
策ノミデアリマシテ、恆久對策ニ屬スルモ  
ノハ、遠カラズ更ニ追加豫算トシテ本院ニ  
提出サレル筈デアリマス

昨日質問ヲ終了シ、討論ニ入りマシテ、  
中村三之丞君、山本芳治君、石坂豊一君、水  
谷長三郎君、三木武夫君、小田榮君、此ノ  
六君ヨリ何レモ簡單ニ贊成ノ意見ヲ述ベラ  
レマシタ、採決ノ結果全員一致ヲ以テ可決  
致シマシタ、此ノ段御報告ヲ申上ゲマス(拍  
手)

○議長(小山松壽君) 採決致シマス、兩案  
ノ委員長報告ハ孰レモ可決デアリマス、兩  
案ヲ一括シテ委員長報告ノ通り決スルニ贊  
成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

(總員起立)  
○議長(小山松壽君) 起立總員  
(拍手起立)

○議長(小山松壽君) 仍テ兩案共委員長報  
告ノ通り全會一致可決確定致シマシタ(拍手)

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ  
提出致シマス、即チ此ノ際日程第十乃至第  
十五ヲ繰上ゲ一括上程シ、其ノ審議ヲ進メ  
ラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異  
議アリマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認め  
マス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシ  
タ——日程第十、昭和十五年度一般會計歲

出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律  
案、日程第十一、昭和十二年法律第八十四  
號中改正法律案、日程第十二、職員健康保險  
特別會計法案、日程第十三、作業會計法中改  
正法律案、日程第十四、造幣局東京出張所  
ノ廳舎、工場其ノ他ノ建物及其ノ附屬設備  
ノ新營擴張ニ要スル經費ニ關スル法律案、  
日程第十五、昭和十三年法律第五十三號中  
改正法律案、右六案ヲ一括シテ第一讀會  
續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス  
委員長紫安新九郎君

第十 昭和十五年度一般會計歲出ノ財  
源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律  
案(政府提出)  
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十一 昭和十二年法律第八十四號中  
改正法律案(支那事變ニ關スル臨時  
軍事費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件)  
(政府提出)  
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十二 職員健康保險特別會計法案  
(政府提出)  
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十三 作業會計法中改正法律案(政  
府提出)  
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十四 造幣局東京出張所ノ廳舎、工  
場其ノ他ノ建物及其ノ附屬設備ノ新  
營擴張ニ要スル經費ニ關スル法律案  
(政府提出)  
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十五 昭和十三年法律第五十三號中  
改正法律案(印刷局据置運轉資本補  
足ニ關スル件)(政府提出)  
第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書  
一 昭和十五年度一般會計歲出ノ財源ニ充  
ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府  
提出)  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也  
昭和十五年三月一日  
委員長 紫安新九郎

報告書  
衆議院議長小山松壽殿  
一 昭和十二年法律第八十四號中改正法律  
案(支那事變ニ關スル臨時軍事費支辨  
ノ爲公債發行ニ關スル件)(政府提出)  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也  
昭和十五年三月一日  
委員長 紫安新九郎

報告書  
衆議院議長小山松壽殿  
一 職員健康保險特別會計法案(政府提出)  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也  
昭和十五年三月一日  
委員長 紫安新九郎

報告書  
衆議院議長小山松壽殿  
一 作業會計法中改正法律案(政府提出)  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也  
昭和十五年三月一日  
委員長 紫安新九郎

報告書  
衆議院議長小山松壽殿  
一 造幣局東京出張所ノ廳舎、工場其ノ他ノ  
建物及其ノ附屬設備ノ新營擴張ニ要スル  
經費ニ關スル法律案(政府提出)  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也  
昭和十五年三月一日  
委員長 紫安新九郎

報告書  
衆議院議長小山松壽殿  
一 印刷局据置運轉資本補足ニ關スル件  
(政府提出)  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也  
昭和十五年三月一日  
委員長 紫安新九郎

報告書

一 作業會計法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十五年三月一日

委員長 紫安新九郎

衆議院議長小山松壽殿

報告書

一 造幣局東京出張所ノ廳舎、工場其ノ他ノ建物及其ノ附屬設備ノ新營擴張ニ要スル經費ニ關スル法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十五年三月一日

委員長 紫安新九郎

衆議院議長小山松壽殿

報告書

一 昭和十三年法律第五十三號中改正法律案(印刷局据置運轉資本補足ニ關スル件)(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十五年三月一日

委員長 紫安新九郎

衆議院議長小山松壽殿

(紫安新九郎君登壇)

○紫安新九郎君 只今上程セラレタル昭和十五年一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外五件ノ委員會ニ於ケル經過竝ニ結果ヲ御報告致シマス  
昭和十五年一般會計ノ歳出總額ハ今回

提出セラレタル追加第一號豫算分ヲ加ヘテ、五十八億八千六百餘萬圓ニ對シ、普通歳入四十億七千七百四十餘萬圓、竝ニ前年度剩餘金七千五百萬圓ヲ充當シテ、尙ホ不足スル十七億二千八百十餘萬圓ハ、之ヲ公債財源ニ依ルノ必要アリトシ、此ノ中現行ノ公債法ニ依リテ調達爲シ得ル震災善後公債分二百五十餘萬圓及ビ道路公債分千三百六十餘萬圓ヲ差引キ、十七億二千二百十萬圓ヲ起債セントスルモノデアリマス

次ニ昭和十二年法律第八十四號中改正法律案ハ、臨時軍事費四十四億六千萬圓ヲ追加計上ヲ必要トシ、其ノ所要財源中七億八千六百十餘萬圓ハ、一般會計及ビ各特別會計ヨリ、繰入金、軍事費納金等ヲ以テ充當シ、三十六億七千三百八十餘萬圓ヲ公債財源ニ依ラントスルモノデアリマス

○議長(小山松壽君) 紫安君、朗讀ノ形ニナラヌヤウニ御注意願ヒマス  
○紫安新九郎君(續) 何分數字ノコトデアリマスカラ、正確ヲ期スル爲ニ讀ンデ居リマスガ、議長ノ注意諒承致シマシタ  
次ニ職員健康保險特別會計法案ハ、讀ンデ字ノ通り職員健康保險法ノ規定ニ依リ、本事業ノ經營ニ關スル政府ノ歳入歳出ハ、他ノ政府ノ經營スル保險事業ノ場合ニ於ケルト同様、之ヲ一般會計ト區分經理セントスルノデアリマス

次ニ作業會計法中改正法律案ハ、海軍燃料廠ノ据置運轉資本二百萬圓ヲ、同廠諸設備ノ整備擴充ニ伴ヒ、法定價ヲ六百萬圓ニ増額シ、其ノ不足額ハ事業ノ狀況ニ應ジ、漸次一般會計ヨリ之ヲ繰入レントスルモノデアリマス

次ニ造幣局東京出張所ノ廳舎、工場其ノ他ノ建物及其ノ附屬設備ノ新營擴張ニ要スル經費ニ關スル法律案、次ニ昭和十三年法律第五十三號中改正法律案、後者ハ印刷局据置運轉資本補足ニ關スル件デアリマス、委員會ニ於テハ多クノ質問ト應答ガアリマシタガ、ソレハ委員會ノ速記ニ依リテ御承知ヲ願ヒマス、委員會ハ全會一致ヲ以テ右六案ヲ可決致シマシタ、此ノ段御報告致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 六案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ  
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ六案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ  
○服部崎市君 直チニ六案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通リ可決セラレントコトヲ望ミマス  
○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ  
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ六案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス  
昭和十五年一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案(支那事變ニ關スル臨時軍事費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件)  
第二讀會(確定議)  
職員健康保險特別會計法案  
第二讀會(確定議)  
作業會計法中改正法律案  
第二讀會(確定議)  
造幣局東京出張所ノ廳舎、工場其ノ他ノ建物及其ノ附屬設備ノ新營擴張ニ要スル經費ニ關スル法律案  
第二讀會(確定議)  
昭和十三年法律第五十三號中改正法律案(印刷局据置運轉資本補足ニ關スル件)  
第二讀會(確定議)

○議長(小山松壽君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、六案トモ委員長報告通リ可決確定致シマシタ(拍手)  
日程第三、裁判所構成法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——木村司法大臣

第三 裁判所構成法中改正法律案(政府提出)  
第一讀會  
裁判所構成法中改正法律案  
裁判所構成法中左ノ通改正ス  
第八十六條第一項中「地方裁判所檢事局ノ書記課ニ」ノ下ニ「書記長又ハ」ヲ加フ  
(國務大臣木村尚達君登壇)

○國務大臣(木村尚達君) 只今議題トナリマシタ裁判所構成法中改正法律案ニ付キマシテ、其ノ提案ノ趣旨ヲ御説明申上ゲタイト存ジマス

昭和十五年一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案  
第二讀會(確定議)

現在地方裁判所及び同檢事局ノ監督書記ハ、總テ判任官デゴザイマスルガ、書記課ノ事務ノ現狀ニ鑑ミマシテ、又裁判所書記ノ地位ノ向上ノ爲ニ、地方裁判所及同檢事局ニモ、奏任官タル書記長ヲ置クノ途ヲ開クノ必要ガアルノデゴザイマス、仍テ其ノ趣旨ノ改正ヲ致サントスルノガ即チ本案デゴザイマス、其ノ詳細ニ付キマシテハ、他ノ機會ニ十分ニ御説明申上ゲタイト存ジマスルガ、何卒御審議ノ上本案ニ對シ御協贊ヲ與ヘラレンコトヲ切望致ス次第デアリマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、會計檢査院法中改正法律案委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第四、金華山軌道株式會社及朝倉軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——松野鐵道大臣

第四 金華山軌道株式會社及朝倉軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案 (政府提出) 第一讀會

金華山軌道株式會社及朝倉軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案

政府ハ左ノ軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲之ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

一金華山軌道株式會社所屬軌道

一朝倉軌道株式會社所屬軌道

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣松野鶴平君登壇〕

○國務大臣(松野鶴平君) 只今上程サレマシタ法律案ノ提案理由ヲ簡單ニ申上ゲマス、今同提案致シマシタ法律案ハ、軌道營業廢止補償ノ爲公債發行ニ關スルモノデゴザイマス、補償セントスル軌道ハ、宮城縣ノ金華山軌道ト福岡縣ノ朝倉軌道デゴザイマス、是等ハ何レモ國有鐵道ガ接近並行シテ敷設セラレマシタ結果、其ノ影響ヲ受ケマシテ、營業ヲ繼續スルコトガ出來ナクナリマシタ、今回其ノ營業廢止ニ依ツテ生ズル損失ヲ補償セントスル次第デゴザイマス、何卒御審議ノ上御協贊アラントヲ希望致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——大石倫治君

〔大石倫治君登壇〕

○大石倫治君 只今上程ニ相成リマシタ金華山軌道、朝倉軌道ノ兩會社ニ對スル補償ノ問題ハ、甚ダ簡單デアリマス、宮城縣石巻ヨリ女川ニ達スル金華山軌道ハ十三軒八分、又福岡縣朝倉軌道會社ハ、鹿兒島本線二日

市町ヨリ朝倉郡木村ニ至ル三十二軒二分、僅カノモノデアリマスガ、是等ノ小軌道ヲ經營致シマスニハ、地方ハ少カラザル犠牲ヲ拂ヒマシテ、地方交通事業ノ爲ニ貢獻致シテ居ツタノデアリマス、殊ニ金華山軌道株式會社ハ非常ナル經營困難ニ陥リマシテ、經營者竝ニ此ノ株式ヲ所有致シテ居リマス者ハ、非常ナ犠牲ニナツテ居ルコトヲ私ハ聞イテ居リマスガ、金華山軌道ハ、女川國有鐵道ノ開設ニ依リマシテ、全ク營業不可能ノ狀態ニ陥リ、遂ニ營業廢止ノ許可ヲ受クルニ至ツタノデアリマス、朝倉軌道會社モ同様ノ狀態ニ在ルヤウデアリマスガ、是等ノ軌道會社ニ對シテノ補償ハ、現金ヲ以テ支拂ハレルノデアリマセウカ、全部公債ニ依ルノデアリマセウカ、其ノ一點ヲ御伺致シタイ

又ソレ等ノ軌道會社ニ從事シテ居リマシタ所ノ従業員ノ始末ハ、如何ニ相成ルノデゴザイマセウカ、簡單ナガラ此ノ二點ヲ御伺致シタイト思ヒマス

尙ホ此ノ機會ニ於キマシテ、私ハ東北方面ニ於キマスル鐵道ノ建設改良等ニ關シテ、御伺ヲ致シテ見タイト存ズルノデアリマス、先般本壇上ヨリ他ノ問題ニ關聯シテ申上ゲテ置イタノデアリマスガ、東北方面ニ於ケル振興ハ、多年ノ要望デアリマスケレドモ、此ノ東北ノ振興ノ動脈ヲ成スモノハ鐵道デナケレバナラヌト思フノデアリマス、然ルニ東北方面ニ於ケル鐵道ハ、建設改良甚ダ遅々トシテ進シテ居リマセヌ、上野青森間ハ我ガ本州ニ於ケル所ノ大動脈デアアルニ拘ラズ、未ダ單線ヲ以テ運轉セラレテ、其

ノ輸送力ニ於キマシテ非常ナ不足ヲ告ゲテ居ルノデアリマス、又近年北海道、樺太、滿洲方面トノ交通關係ガ、頻繁ニナツテ居ルノデアリマスカラ、ヤハリ東海道線同様ノ待遇ヲセラルベキ筈デアルト思フノデアリマス、然ルニ單線ニ加フルニ、運轉スル列車ニ當テハアツタ一等車ノ連結モ之ヲ廢止シテ居ル、斯様ナ差別待遇ハ洵ニ殘念ナコトデアルト信ズルノデアリマス、故ニ上野青森間ハ一日モ速ニ複線工事ヲ施行セラレンコトヲ切望スルノデアリマス、時局柄資材ノ缺乏其ノ關係デ容易ニ出來ナイダラウト思ヒマスケレドモ、之ニ對スル方針ニ付テ御説明ヲ願ヒタイト存ズルノデアリマス、又其ノ他各私線ニ對スル建設或ハ改良ノ點ニ於キマシテモ、未ダ十分ナリト申スコトハ出來ナイ、先般來關係地方ヨリ鐵道省ニ申請促進ヲ願ツテ居リマスル、秋田縣十文字町ヨリ宮城縣鳴子驛ニ達シマスル鐵道建設ノ如キハ、經濟的ニ見マシテモ、觀光上カラ見マシテモ、軍事上カラ見マシテモ、最モ重要ナル線デアアルノデアリマス、若シ此ノ線ガ建設セラレテ居ルトスルナラバ、先般ノ木炭飢饉ノ如キハ、恐ラクナカツタラウト存ズルノデアリマス……

○議長(小山松壽君) 大石君ニ御注意申上ゲマス、議題ノ範圍外ニ互ラスヤウニ御注意願ヒマス

〔贊成々々〕名議長ト呼フ者アリ

○大石倫治君(續) 故ニ私ハ此ノ機會ニ於キマシテ、東北方面ニ於ケル交通ヲ完備スルコトガ、國策ニ應ズル物資ノ配給等ヲ圓

滑ナラシメ、又地方資源ノ開發ヲ行フ上ニモ、目下適切ナル事柄デアラウト存ジマス、只今申シマシタ路線ニ於ケル鬼首村ノ如キハ、木炭ガ一萬俵以上モ滞貨シテ、雪ノ爲ニ搬出ガ出來ナイ、若シ鐵道ガ開設シテアリマスナラバ、其ノ搬出ハ容易ニ出來ルノデゴザイマス、一箇村ニ一萬俵ノ木炭ガ滞貨シテ居ル状態カラ推定致シマシタナラバ、全國デハ非常ニ多イ、此ノ木炭ノ輸送力ニ付テモ、或ハ米又ハ木材ノ輸送ニ付キマシテモ、或ハ東北ニ於ケル天然資源ノ開發ニモ、鐵道ノ建設竝ニ改良ハ、最モ緊急ヲ要スルコトト存ズルノデアリマスカラ、之ニ對シテ鐵道大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイト存ジマス、餘リ多岐ニ互リマス、議長カラ御注意ヲ受ケマスカラ、此ノ邊テ終リマス(笑聲、拍手)

○國務大臣松野鶴平君登壇(大石君ノ御質疑ニ御答申上ゲマス) 此ノ兩軌道ハ既ニ營業ヲ停止シテ居リマスカラ、從事員ノ問題ハ、會社ト從事員ノ間ニ於キマシテ、適當ニ解決致スト信ジテ居リマス、ソレカラ現金デ渡スカ公債デ渡スカ、斯ウ云フ御質疑デアリマスガ、是ハ全部公債デ以テ支給致シマス

ソレカラ東北本線ニ對スル輸送ノ強化ヲ圖ル爲ニ、複線工事ヲドウ云フヤウニ考ヘテ居ルカト云フコトデアリマスガ、是ハ目下調査致シテ居リマス、尙ホ東北地方ニ對シテハ、東北地方ノ産業開發ノ上カラ申シマシテ、出來ル限り鐵道建設ニ對シテハ考

慮致シテ居リマスカラ、財源資材ノ都合ヲ能ク考ヘマシテ、出來ル限り建設ニ努力シタイト考ヘテ居リマス

○議長(小山松壽君) 是ニテ質疑ハ終了致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託サレシコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

日程第五、樺太地方鐵道補助法中改正法律案 松岡拓務政務次官

第五 樺太地方鐵道補助法中改正法律案(政府提出) 第一讀會 樺太地方鐵道補助法中改正法律案 樺太地方鐵道補助法中左ノ通改正ス 第一條第一項中「十五年ヲ限リ」ノ下ニ「豫算ノ範圍内ニ於テ」ヲ加フ 第二條 前條ノ補助金ハ每營業年度ニ於ケル建設費ニ對シ年五分ノ割合ニ相當スル金額ヲ限度トス但シ每營業年度ニ於ケル益金カ建設費ニ對シ年一分ノ割合ニ相當スル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ補助金額ヨリ控除ス 第五條 削除 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法

施行ノ際現ニ補助ヲ受ケル鐵道ニ對スル補助ニ付テハ各現在ノ補助期間満了ノ日ノ屬スル營業年度ノ末日迄ハ改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

〔政府委員松岡俊三君登壇〕

○政府委員(松岡俊三君) 只今議題トナリマシタ樺太地方鐵道補助法中改正法律案提出ノ理由ヲ説明致シマス

樺太ニ於ケル地方鐵道ニ對スル補助方法ハ、現行法ニ依リマス、補助基本期間中ニアルモノニ對シテハ補助率年六分、益金留保率年一分、伸長期間中ニアルモノニ對シテハ補助率年五分、益金留保率年一分五厘トナツテ居ルノデアリマスガ、金利ノ著シク低下致シマシタ現下經濟界ノ趨勢ニ鑑ミ、又朝鮮及ビ臺灣ノ私設鐵道補助法トノ均衡ヲモ考慮致シマス、現行率ヲ繼續スルコトハ適當デナイノデ、此ノ際之ヲ改正シ、補助率及ビ益金留保率ヲソレノ適當ニ引下ゲルコトト致シマシタ、何卒御審議ノ上御協賛アラシコトヲ希望致シマス

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、船員保險特別會計法外四件委員ニ併セ付託サレシコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

日程第六、恩給法中改正法律案(政府提出) 第一讀會 恩給法中改正法律案 恩給法中左ノ通改正ス 第六條ノ二 第七十四條ノ二 第一項ノ扶助料及同條第二項ノ一時扶助料ニ付テハ第五條ニ規定スル期間ハ戶籍届出ノ受理ノ日ヨリ進行ス 第十七條ニ左ノ一項ヲ加フ 前條第四號ニ掲ケル公務員ニ一時恩給ヲ給スル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ他ノ經濟ニ對シ一時恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得 第十八條第三項ヲ左ノ如ク改ム 内地ニ於ケル道府縣立以外ノ公立ノ小學校、青年學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員ニ恩給ヲ給スル經濟ニ對シテハ國庫ハ其ノ教育職員ノ俸給ノ二百分ノ一ニ相當スル金額ヲ交付ス 第三十二條第一項第三號中「一月半」ヲ「一月」ニ改ム 第三十五條中「一月半」ヲ「一月」ニ改ム 第三十七條ノ二 戰車乘員タル公務員其ノ職務ヲ以テ戰車ニ搭乘シ戰車勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付半月以內ヲ加算ス 第三十八條第一項中「一年以上服務シタ

六、恩給法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——廣瀨法制局長官



ル「六月以上服務シタル」ニ改ム

第五十八條第一項第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 之ヲ受クル者三十歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ四分ノ一、三十歳以上

三十五歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ六分ノ一、三十五歳以上四十歳ニ滿

ツル月迄ハ普通恩給ノ八分ノ一ヲ停止ス但シ増加恩給又ハ傷病年金ト併

給セララルル場合ニハ之ヲ停止セス

同條同項第四號ヲ左ノ如ク改ム

四 恩給年額千圓以上ニシテ其ノ恩給

外ノ所得ノ年額四千圓ヲ超ユルトキ

(イ)ハ 恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額

トノ合計額カ六千圓以下ナルトキ

ハ五千圓ヲ超ユル金額ノ一割五分

ノ金額ニ相當スル金額ヲ停止ス但

シ恩給ノ支給額ハ年額千圓ヲ下ラ

シムルコトナシ

(ロ) 恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額

トノ合計額カ六千圓ヲ超ユルコト

以下ナルトキハ五千圓ヲ超ユルコト

以下ノ金額ノ一割五分ノ金額ト六千

圓ヲ超ユル金額ノ一割ノ金額トノ合

計額ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ

恩給ノ支給額ハ年額千圓ヲ下ラシ

ムルコトナク其ノ停止年額ハ恩給

年額ノ二割ヲ超ユルコトナシ

(ハ) 恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額

トノ合計額カ八千圓ヲ超ユルコト

千圓以下ナルトキハ五千圓ヲ超ユ

ルコトナシ

六千圓以下ノ金額ノ一割五分ノ金

額ト六千圓ヲ超ユルコトナシ

額ノ二割ノ金額ト八千圓ヲ超ユル

金額ノ二割五分ノ金額トノ合計額

ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ恩給

ノ支給額ハ年額千圓ヲ下ラシムル

コトナク其ノ停止年額ハ恩給年額

ノ二割五分ヲ超ユルコトナシ

(ニ) 恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額

トノ合計額カ一萬一千圓ヲ超ユル

トキハ五千圓ヲ超ユルコトナシ

金額ノ一割五分ノ金額ト六千圓ヲ

超ユルコトナシ

額ト八千圓ヲ超ユルコトナシ

ノ金額ノ二割五分ノ金額ト一萬一

千圓ヲ超ユル金額ノ三割ノ金額ト

ノ合計額ニ相當スル金額ヲ停止ス

但シ恩給ノ支給額ハ年額千圓ヲ下

ラシムルコトナク其ノ停止年額ハ

恩給年額ノ三割ヲ超ユルコトナシ

第七十二條ニ左ノ一項ヲ加フ

戶籍届出ノ委託ヲ爲シタル後届出人死

亡シ其ノ死亡後委託ニ基ク届出カ受理

セラレ又ハ戶籍届書ヲ郵送シタル後届

出人死亡シ其ノ死亡後届書カ受理セラ

レタルトキ其ノ届出カ他ノ法令ニ依リ

届出人死亡ノ時ニ爲サレタルモノト看

做サルル場合ニ於テハ其ノ届出ニ因リ

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ト同一戶籍

内ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子

又ハ兄弟姉妹ト爲ル者ハ第一項ノ規定

ノ適用ニ付テハ當該届出カ届出人ノ死

亡後二年内ニ受理セラレタルトキニ限

リ届出人ノ死亡ノ時ヨリ公務員又ハ

之ニ準スヘキ者ノ祖父、祖母、父、母

夫、妻、子又ハ兄弟姉妹トシテ之ト同

一戶籍内ニ在リタルモノト看做ス

第七十三條第四項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第七十二條第三項ノ規定ニ依リ公

務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ト看做

サル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十四條ノ二 第七十二條第三項ノ規

定ニ依リ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ

遺族ト看做サレタル者ニ給スル扶助料

ハ委託又ハ郵便ニ依ル戶籍届出ノ受理

ノ日ヨリ之ヲ給ス

第七十二條第三項ノ規定ニ依リ公務員

又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ト看做サレ

タル者ニ給スル一時扶助料ハ公務員又

ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ時ニ於テ他

ニ其ノ一時扶助料ヲ受クヘキ權利ヲ有

スル者ナキトキニ限リ之ヲ給ス

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ時

ニ於テ扶助料ヲ受クヘキ權利ヲ有シタ

ル者カ第七十二條第三項ノ規定ニ依リ

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ト看

做サルル者ノ生シタルカ爲扶助料ヲ受

クルノ權利ヲ有セザリシコトナル場

合ニ於テモ其ノ者ハ同條ニ規定スル戶籍

届出ノ受理ノ時迄ノ分ニ付當該扶助料

ヲ受クルノ權利ヲ有スルモノト看做ス

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ時

ニ於テ一時扶助料ヲ受クヘキ權利ヲ有

シタル者カ第七十二條第三項ノ規定ニ

依リ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族

ト看做サルル者ノ生シタルカ爲一時扶

助料ヲ受クルノ權利ヲ有セザリシコト

トナル場合ニ於テモ其ノ者ハ當該一時

扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スルモノト

看做ス

第九十一條第一項中「半月」ヲ「半月以内」

ニ改ム

第九十二條第一項ヲ左ノ如ク改ム

公務員其ノ職務ヲ以テ帝國若ハ滿洲國

ノ國境警備又ハ理養ノ爲危險地域内ニ

勤務シタルトキハ當分ノ内在勤期間ノ一

月ニ付二月以内ヲ加算ス

附則

第一條 本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ

之ヲ施行ス

第二條 本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ

計算スル場合ニ於テ其ノ加算年ニ付テ

ハ仍從前ノ規定ニ依ル

第三條 恩給法第五十八條第一項第三號

ノ改正規定ハ本法施行前普通恩給ヲ受

クルノ權利ヲ生ジタル者及本法施行ノ

際現ニ在職シ本法施行後退職シテ普通

恩給ヲ受クルノ權利ヲ生ズル者ニハ之

ヲ適用セズ

前項ニ規定スル者本法施行後再就職シ

其ノ普通恩給ヲ改定セララルル場合ニハ

其ノ改定ニ因ル増額分ニ付恩給法第五

十八條第一項第三號ノ改正規定ヲ適用

ス

第四條 恩給法第七十二條第三項ノ改正

規定ハ届出人ガ昭和十二年七月七日以

後ニ死亡シタル場合ニ限リ之ヲ適用ス

恩給法第七十二條第三項ノ改正規定ハ本法施行前戸籍届出ノ受理セラレタル場合ニ付テモ之ヲ適用ス

第五條 届出人ノ死亡後委託ニ基キ爲サレタル戸籍届出ガ其ノ受理セラレタル後他ノ法令ノ定ムル所ニ依リ裁判所ノ確認ヲ經タル場合ニ限リ届出人死亡ノ時ニ遡リ其ノ届出アリタルモノト看做サルモノナル場合ニ於テハ恩給法第七十二條第三項ノ改正規定ノ適用ニ付テハ同項中届出人ノ死亡後二年内ニ受理セラレタルトキトアルハ當該法令ノ施行後二年内ニ確認ノ裁判ノ確定シタルトキトシ恩給法第七十四條ノ第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ同項中戸籍届出ノ受理ノ日トアルハ確認ノ裁判確定ノ日トス

届出人ノ生存中郵送シタル戸籍ノ届書ガ届出人ノ死亡後本法施行前受理セラレタル場合ニ於テハ恩給法第七十四條ノ第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ同項中戸籍届出ノ受理ノ日トアルハ本法施行ノ日トス

第六條 恩給法第五條ニ規定スル期間ハ前條第一項ノ規定ノ適用セラルル場合ニ於ケル扶助料及一時扶助料ニ付テハ確認ノ裁判確定ノ日ヨリ、同條第二項ノ規定ノ適用セラルル場合ニ於ケル扶助料及一時扶助料ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ進行ス

第七條 恩給法第七十二條第三項ノ改正規定中死亡後二年内トアルハ届出人ガ

本法施行前ニ死亡シ戸籍届出ガ本法施行後ニ受理セラルル場合ニ於テハ之ヲ本法施行後二年内トス

前項ニ規定スル期間ガ第五條ニ規定スル期間ト異ナル場合ニ於テハ第五條ニ規定スル期間ニ依ル

〔政府委員廣瀬久忠君登壇〕

○政府委員(廣瀬久忠君) 此ノ度提案シマシタ恩給法中改正法律案ニ付テ提案理由ヲ申上ゲマス

改正ノ主ナル點ハ三ツアリマス、其ノ第一ハ現行法ノ加算年ノ規定ノ改正デアリマス、即チ恩給法ニ規定シテ居リマス戦地外戰務加算、外國鎮戍加算及ビ外地ノ在勤加算ノ加算年ノ割合ハ、今日ノ事情ヨリ致シマシテ、必ズシモ適當デナイト考ヘラレマスノデ、是等ノ加算年ノ割合ハ、之ヲ或ル程度低減スルコトト致シマシタ、又一方各般ノ情勢ノ推移ニ伴ヒマシテ、新シイ加算ヲ設ケル必要モアリマシテ、滿洲國ノ國境警備加算及ビ戰車加算ヲ設ケルコトニ致シマシタ

改正ノ第二ノ點ハ普通恩給ノ停止デアリマス、是ハ現行法デハ四十歳未満ノ者ノ恩給ヲ、一部停止スルコトニナツテ居リマスガ、今回ハ三十歳未満ノ若年者ニ對シ、其ノ停止ノ割合ヲ増加スルコトト致シマシタ、又恩給以外デ多額ノ所得アル者ニ付キマシテハ、現在デモ或ル程度恩給ヲ停止シテ居ルノデアリマスガ、今回ハ其ノ範圍ヲ擴張スルト共ニ、其ノ停止ノ割合ヲ増加致シマシタ

改正第三ノ點ハ、扶助料ヲ受ケマス遺族ノ範圍ヲ擴張シタコトデアリマス、現在デハ公務員ノ死亡當時、是ト同一戸籍内ニ居ラナイ者ハ、假令公務員ノ死亡後入籍シマシテモ、遺族ト認メナイノデアリマスガ、今回別途御協賛ヲ御願シテ居リマス特別法デ、委託又ハ郵便ニ依リ戸籍届出ノ效力ガ認メラレマスコトニナリマスノデ、恩給法デモ同様ナ者ヲ一定ノ條件デ遺族トシテ取扱フコトガ、銃後施設トシテ肝要デアルト信ジマシテ、之ニ伴フ必要ナ改正ヲ致スコトニシタノデアリマス、之ニ依リマシテ公務員死亡後入籍シマシタ妻ヤ子、即チ從來問題トナリマシタ者ハ、大體救済サレルト考ヘルノデアリマス

以上ノ諸點ノ外、恩給法ノ規定整理等ノ爲ニ、二三點恩給法中ノ改正ヲ要スルコトトナツタノデアリマス、以上ガ本案ヲ提出スルニ至リマシタ理由デアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛アラント御願致ス次第デゴザイマス

○議長(小山松壽君) 質疑ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許シマス——川崎巳之太郎君

〔川崎巳之太郎君登壇〕

○川崎巳之太郎君 只今上程セラレマシタ恩給法中改正法律案ハ、改正ノ點ガ多岐ニ互ツテ居リ、且ツ何レモ細カイ節々ニ觸レテ居リマスノデ、其ノ節々ニ互ツテ御尋スルコトハ、委員會其ノ他別ノ機會デスベキコトデ、本會議デスベキコトデナイト考ヘテ居リマス、ソコデ細カイ問題ヲ避ケマシテ、本會議ニ於テ提案ヲセラレタル内閣ニ向ツ

テ御尋シタイノハ、極メテ粗ツボイ大筋ノ二點ダケヲ御伺シタイト思フノデアリマス、ソレハ特ニエライ新發明ノ問題ヲ考ヘテ居ルノデモ何デモゴザイマセス、世間ノ常識ニアリ觸レタ、當局者ガ恩給ヲ改正スベキ時ニハ、斯様ナモノニスベキモノダト言ツテ、殆ド輿論ニナツテ居ル問題ガアルノデス、ソレノ組込ミ方ガナイヤウニ拜見致シマスノデ、ソレヲ一ツ御伺致シマス

第一ノ點ハ、細カシイ條文ハ姑ク措キマシテ、今社會通念トナツテ居リマスノハ、恩給ヲ與ヘル年齢ガ餘リ早過ギル、若隱居ヲ作り過ギル、是ガ世間中デ評判ヲシテ居ル問題デゴザイマス、勿論國家ノ功勞者ニ取ツテ、文官タルト武官タルト、或ハ其ノ外ノ公務員タルトフ間ハズ、功勞アル者ニ恩給ヲ與ヘテ、老後ヲ安全ニ保障スルト云フコトハ、國家トシテ必要ナコトデゴザイマス、併シナガラソレハ老後ニ限ル、若年寄ヲ拵ヘルト云フ意味デハ決シテナイノデゴザイマス、ソコデ若クモ永年骨ヲ折ツタ者ハ恩給ヲ與ヘテモ宜イデヤナイカ、斯ウ云フ御説モアリマセウケレドモ、私ハ金ヲ吝ム爲ニソレヲ言フノデハナク、折角文官ナリ武官ナリ、或ハ之ニ準ズル公務員ニ就テ、業務ヲヤツト覺エ掛ケテ、是カラ練達シテ、其ノ業務ニ漸ク耐ヘルト云フ者ヲ、恩給法ノ爲ニ恩給ガ掛ルヤウニナツタカラ自發的ニ退職スル、若クハモウオ前ハ辭メテ後進ノ爲ニ道ヲ開ダ、斯様ナコトデドンノ辭メタリ、若クハ辭メサセタリスル、其ノ弊害ヲ當局ハ何



ト御覽ニナルカ存ジマセヌガ、實ニ是ハ堪ヘナイモノガアルノデス、只今ノ恩給法ニ依ルマスト、段々ト年限ガ延ビマシタケレドモ、在職十七年以上ノ者ハ、是レノ普通恩給ヲ給與ス、斯ウゴザイマス、ソレカラ下士官デ、是レノ満十二年以上勤續シタ者ハ、是レノト云フコトニナツテ居リマス、其ノ他戰地ニ勤務シ、或ハ朝鮮ノ國境ノ警備ニ任ジ、或ハソノ滿國境ノ警備ニ任ズル者ハ、警察官タルト何タルヲ問ハズ、大層年限ヲ早メルヤウニナツテ居リマス、デゴザイマスカラ、十二年ト申シマテモ、十二年經タナイ者ガアルノデゴザイマス、二十歳カラ十二年ニスレバ三十二歳ダシ、二十五歳カラ十二年ニスレバ三十七歳デゴザイマス、三十七歳ハ世間ニ立ツテカラ、其ノ事務ニ漸ク慣レ、ソコデ技術ヲ發揮スベキ所デゴザイマス、殊ニ判檢事ノ如キ複雑ナル世ノ中ノ事務ヲ裁ク者ハ、青二才デハ駄目デス、學校驅出シノ者デハ迷惑千萬デアリマス、其ノ非常識ノ爲ニ社會ガ非常ニ害ヲ蒙ル、ソコデ三十歳、四十歳ニナツテ漸ク明クナツテ來タノニ、退ケバ恩給ガ入ルト云フコトデハ、折角國家ノ力ヲ以テ、一人ノ學生ニ對シテ國家ガ二百万圓モ年ニ負擔ラシ、大學ヲ卒業ラサセ、高等文官其ノ他ノ役目ニシタ者ヲ、三十歳四十歳デ以テドシ、左様ナララセラレテシマツテハ、實ニ人物不經濟是ヨリ甚シイモノハナイト思フノデゴザイマス、ソコデ國家總動員トカ、何ヤラ彼ニヤラ非常ニ計畫ヲスル此ノ時節ニ際シマシテ、人物經濟ノ

意味カラ、恩給ニアリツク年限ヲ二年ナリ、三年ナリ、出來レバ五年ナリ、モウ少シ先ヘ延バス意思ハナイカ、此ノ點ヲ第一ニ御伺シタイノデゴザイマス、小學教員モ何モミシナ左様デゴザイマス、殊ニ小學教員ノ如キハ四十歳ヲ越エタ頃ガ、其ノ土地ノ形勢ニモ通ジテ來、自分デ子供モ産ンデ、小學生若クハ中學生ニ育テテ見テ、初メテ教育者タル完全ナル資格ヲ體驗上カラ得テ來ル、其ノ頃ニナルト悉ク恩給ヲ貰ツテ若隱居ヲサセラレル、若クハ爲シ得ル年限ニ達スルト云フノハ、教育ヲ盛ニスル點カラ考ヘテモ、甚ダ國家ニ取ツテ勿體ナイ話デアルト思ヒマス、當局ハ此ノ點ニ付テ如何ニ御考デアルカラ、第一ニ伺ヒタイノデゴザイマス

之ニ付テハ慎重ナル御考慮ヲ願ハナケレバナラスノデゴザイマス、茲ニ私ガ實例トシテ申上ゲタイノハ、軍隊ノ囑託デアリマス、所謂軍屬ト稱スルモノデゴザイマス、戰フスルニハ、我ガ忠勇ナル將軍及ビ兵卒ガ共ニ働イテ戰フスルノデゴザイマスガ、ソレバカリデハ戰ハ出來テ居ナイ、現ニ戰地ヘ行ツテ御覽ナサイ、通譯ガ澤山居リマス、宣撫班ガ澤山居リマス、新聞記者ガ澤山居リマス、「カメラマン」ガ澤山居ルノデス、是ガ相倚リ相扶ケテ居ル、其ノ他ニモ色々アリマセウ、從軍僧モ居リマセウ、是デヤウノ戰ヲシテ居ル、忠勇ナ將兵ガ非常ニ献身ノ精神デ戰フセラレル其ノ事、其ノ手柄其ノ骨折ハ感謝ニ堪ヘナイノデ、其ノ手柄ヲ割引シヨウトスルモノデハ決シテナイケレドモ、實際ノ問題トシテ、是等ニ附屬シテ居ル所謂軍屬ガ居ナケレバ、二進モ三進モ行カナイノデゴザイマス、此ノ軍屬待遇法ニ於テ、今マデハ甚ダ不行届ノアルコトヲ、遺憾ナガラ感ゼザルヲ得ナイ、殊ニ茲ニ申上ゲタイノハ、「シベリヤ」出兵ノ際、大正三年カラ八九年頃マデ、數箇年掛ツテ行ハレタ日本ノ大キナ軍事行動ニ於テ、其ノ頃露西亞語ノ分ル人ガ要ツタ、所ガ内地ニ於テ露西亞語ヲ學ブ者ハ、英語、佛蘭西語、獨逸語等ヲ學ブ者ヨリモ非常ニ少イ、軍隊ノ大勢ヲ動カスニ必要ナモノトシテハ、餘リニ少ナ過ギル程露西亞語ノ通譯ガ少カツタ、茲ニ秋田縣ノ方デ、北洋漁業ニ從ウテ居ツタ瀨谷和一同云フ方ガ居リマス、此ノ人ハ浦鹽方面ニ出掛ケテ、其ノ

事情モ分リ、且ツ露語ニ通ジテ居ルト云フカラ、是ハ良イ通譯ダト云フノデ、他ノ何百人カ採用スル通譯ト共ニ此ノ人ヲ連レテ行ツタ、アチラニ著イタノガ大正七年ノ十一月、極ク寒イ時分ニ著イタ、「チタ」方面ノ軍司令部ヘ此ノ人ヲ連レテ行ツタ、サウシテ通譯ヲサセタ、又其ノ頃非常ニ幅濶シタル事務ノ一切合切ニ付テ、其ノ司令部デハ瀨谷ダケニサセタ、ドウ云フコトガアルト云フト、荷物ノ檢査ガアル、出ル汽車、入ル汽車、ソレノ人間ヲ檢査スル、又荷物ヲ檢査スル、ソレカラ民家、或ハ個人ト占領軍トノ間ニ色々問題ガ起ル、サウストト一々此ノ人ヲ連レテ行ツテ通譯ヲサセテ居ル内ニ、角膜炎ヲ患ウテ眼ガ痛ンデ堪ラナクナツタ、ケレドモ、休暇ヲ與ヘナイ、與ヘタイノデハゴザイマシタラウケレドモ、與ヘル餘裕ガ其ノ當時ニ於テナイ、益、惡クナツテ仕樣ガナイカラ、陸軍ノ病院ヘ體ヲ擔ギ込シタ、其ノ處ヘ殆ド無理押シラヌルヤウニ、色々手紙ヲ持ツテ行ツテ、是ハドウ云フ文句ダ、是ハ一方デモ宜イカラ、片側ダケデモ宜イカラ讀ンデ呉レ、鉛筆デデモ書イテ呉レ、斯ウ云フヤウニ癡テ居ル處ニマデ、殆ド強制的ニ事務ヲ御依頼ニナツタ、サウシテ居ル中ニ其ノ目ガ潰レテシマツタ、一眼ガ潰レテシマツタノデ、ドウモ困ルカラト云フノ内デハ後送サセテ、内地ノ陸軍病院デソレヲ療養サセタ、ケレドモ片方潰レテモ構ヒハセヌ、片方ノ目ガ惡クナツテモ構ハヌカラ、瀨谷ニ限ルト云フコトヲ知ツテ居ル部隊長ノ御命令デ再ビ「シベリヤ」ニ

引張り出サレタ、喜ンデ勤務シテ居リマシタガ、又其ノ劇務ノ爲ニ片側ノ眼モ失明シテシマツタ、ソレニ付テハ其ノ時ノ元浦鹽派遣軍第三兵站司令官陸軍歩兵大佐佐々木榮次郎ト云フ部隊長初メ四人ノ部隊長ガ、其ノ事實ヲ證明シテゴザル其ノ長イ證明書ガアリマス、病院長ガ病氣ノ成行ヲ證明シタモノモ此處ニアルノデアリマス、其ノ證明書ノ中ニハ、此ノ場合ニ瀨谷通譯ナカリセバ、此ノ大事ヲ吾々ノ任務ガ完全ニ運ビ得タカ分ラナイト云フ言葉ガ、此ノ證明書ノ中ニアル、其ノ派遣軍ニ取ツテノ恩人デゴザイマス、然ル中ニ其ノ片側ノ眼モ潰レテシマウテ、サア盲ニナツタ、用ガナイト捨テタ譯デモアリマスマイガ、除隊ニナツタラシイノデス、爾來茲ニ二十年間、其ノ通譯ハ恩給モ何モ受ケナイデ、病妻ヲ携ヘテ——其ノ病妻ハ昨今ニ於テハ膽囊炎デ大分重態ニ陥ツテ居ル、兩眼ガ潰レテ家中ノヲ歩クニモ手ヲ取ラナケレバ歩ケナイ、陸軍カラ立派ナ證明書ハ附イテ居ル、ソコデ洵ニ困ルカラ、恩給法カ若クハ他ノ方法カデ、何トカシテ戴ケマイカト云フ哀訴歎願ニ陸軍當局ニ出マシタ所ガ、茲ニ陸軍當局ガ返事ヲシタ手紙ガゴザイマス、昭和七年六月十八日ノ其ノ手紙ノ終リノ方ニ曰ク「前述ノ如キ事由ニテ恩給ノ給與ハ現行制度上全然其ノ途無之候ニ付目下別途ノ方策ニ依リ御慰恤方折角考究中ニ有之候間御承知相成度候右不取敢御返事申上置候」トアル、斯ウ云フ御返事ガ、陸軍省人事局恩賞課ノ名前デ、瀨谷和ニ宛テタ昭和七

年六月十八日ニ發給サレテ居ルノデアリマス、ソコデ陸軍ガ其ノ證明書ヲ信ジテ、左様ナ事實ヲ認メテ、善意ノ考慮ヲ加ヘルダラウト思ツテ、其ノ一家眷族ハ待ツテ——待チ抜イテ、茲ニ八年經チマシタ、諸君、八年ノ間ニハ日清戰爭ハ二年、日露戰爭ハ二年、今度ノ日支事變ハ二年半、之ヲ殘ラズ合セテシマウテ、尙ホ餘リアル程ノ歲月ガアルノデス、此ノ一個人ヲ救フコトガ出來ナイデ見殺シニシテ、此ノ八年間放ツテ置イタノハ、陸軍省ノ人事局デゴザイマス（拍手）ソコデ何故ニ恩賞ニ掛ラナイカト申シマスルト、當局ノ説明ニ曰ク、是ハ大正十二年十月一日以後恩給法ヲ施行スルノダカラ、オ前ハ其ノ前ニ辭メタノダカラ入ラナイ、斯ウ云フ話デス、ケレドモ、立法ハソコニ實體ガアツテ、ソレヲ對象トシテ作ルノデアラウ、誰ノ爲ニ恩給法ヲ作ルカト云ヘバ、アノ數年間數億ノ國帑ヲ費シテ、數万若クハ十數万ノ我が兵勇ガ、アノ廣イ「シベリヤ」ノ曠野ニ轉戰致シタノデアツテ、其ノ兵勇ノ爲ニ恩給其ノ他ノ手當ヲ考ヘルノハ、是ハ當然デアアル、ケレドモ將兵ニ附屬シテ、將兵ガ此ノ人ガナクテハ、私等ノ仕事ハ出來ナカツタトシテ、證明スル者ノ恩給ヲ放ツテ置クト云フコトハ何事デアアル、是ハ陸軍當局ニ私ハ聽キタイノデアリマス（拍手）ソコデ其ノ時ノ方ガ、例ヘバ少佐カ大佐デ居ラツシヤツタナラバ、今満足デ普通ニ出世シテ居ラツシヤレバ、將官ニナツテ居ラツシヤルデセウ、恩賞課長モ多分モウ將官位ニナツテ居ラツシヤル頃デハナイ

カ、此ノ事變ヲ控ヘテ居ルノデアリマスカラ、勳功ヲ立テテ昇進ラシテ居ルト思フ、コンナ手紙ヲ御出シニナツテモ、俺等ハ出世シテシマヘバ、オ前等ハ困ラウガ知ラスト言フノガ、陸軍ノヤリ方デアアルカノヤウニ誤解サレテハ、大變ダト思フノデアリマス、陸軍ノ恩召ハ決シテ斯様ナ無告ノ民ヲ作ラレルノデハナカラウト思フケレドモ、八年越シ考ヘテ一人ノ人間——證明ノアル者ヲ、ドノ方法デモ救フコトガ出來ナイト云フコトハ、法ノ不備カ、ソレヲ運用スル者ノ手落カ、或ハ人事局ノ代々ノ方ノ不誠意ノ致ス所デナイカト、世間ノ人ガ疑ツテ怨シデモ仕様ガアルマイト思フガ、如何ナモノデアリマセウカ（拍手）ソコデ左様ナル——丁度今ノ状態デ見マスルト、ナニ鱷ヲ鍋ノ中ヘ入レタノダ、酒モ入レテ下カラ瓦斯ガプツプツボレルカラ、ジタバタシテモ今ニ死ンデシマフダラウ、斯ウ云フコトハ民間ニヨクアル話デゴザイマスガ、殊ニ大正十二年前ノ恩給位ハ、アツタ所ガ知レタモノダラウ、其ノ中ニハ大抵死ンデシマウテ、文句ヲ言フ奴モナクナルダラウト、鱷同様ニ思ツテ居ラレルモノトハ決シテ思ヒマセヌケレドモ、左様ナ感ヲ國民ニ與ヘルノハ、此ノ事實ヲ解決シナケレバイカスノデハナイカト私ハ思ヒマス（ヒヤ）「拍手」デゴザイマスルカラ、左様ナ實際話ニナラナイ所ノ問題ヲ突付ケラレテ——ソレガ議員ノ所ヘ手紙ヲ出シテ、爾來二十年病妻ヲ擁シテ死ニモ勝ル悲惨ナ生活ヲ送ツテ、斯ク——ト云フ手紙ヲ突付ケラレタ、吾々ハ勘定拂

ヒノ汚イ、若クハ氣ツツノ惡イ友人ト一緒ニ旅行シタヤウナ感ジガスルノデゴザイマス、斯様ナ手紙ヲ突付ケラレテハ、是ハ聖代ノ御世ニ於テ甚ダ遺憾ダト思ヒマスルシ、只今ハ内閣ガ國民ニ呼掛ケテ、國民ノ總協カヲ求メル時代デアリマスルシ、殊ニ我が陸軍ハ百万カ二百カ知レマセヌガ、殆ド全國ノ津々浦々カラ兵勇ヲ召出シテ居ツテ、其ノ心ノ底カラノ同情ト感激トヲ負ウテ、サウシテ聖戰ヲ進メテ行クト云フノデアアルカラ、内ヲ願レバコンナ穴グラケノモノヲ拵ヘテ放ツテ置イテ、サア先ノ方ヘ行カウト云フノハ、是ハ甚ダ困ルノデハナイカト思ヒマス（拍手）

最後ニ畏多イ次第デゴザイマスルガ、米内總理大臣ガ此ノ席ニ於テ、又ハ豫算總會等ニ於テ度々仰シヤラレタコト、及ビ文部大臣ノ仰シヤラレタ八紘一宇ノ解釋、所謂皇室ノ御仁慈ヲ世界中ニ推シ及ボスト云フノガ八紘一宇ノ解釋ト云フノデ、洵ニ敬服シテ居ル、他ノ内閣ナラ何モコンナコトヲ述ベマセヌガ、左様ナ内閣デアリ、殊ニ米内總理大臣ハ、國體明微ヲ頻リニ此處デ高調力説サレタノデゴザイマスカラ、其ノ總理大臣ノ下ニアツテ、内閣ガ主トナツテ御出シ下サル恩給法ノコトデゴザイマスカラ、大正十二年十月以前ノモノハ澤山ハナイデセウカラ、左様ナ打漏ラサレタ不幸ナ人間ヲ、ドウカ救ヒ出ス方法ヲ講ジテ貰ヒタイ、但書ヲ何カ入レテ、施行令カ何カノ運用デ、誠意サヘアレバ何トカ出來サウナモノデハナイカト思フノデゴザイマス、ソコデ國體

明徴ノ御好キデア内閣デアリマスルノデ、私ハ明治元年三月十四日五箇條ノ御誓文ノアリマシタ時ニ、明治天皇ノ賜ヒマシタ御勅語ノ一節ヲ茲ニ捧讀シタイト思ヒマス、「今般 朝政一新ノ時ニ膺リ天下億兆一人モ其處ヲ得サル時ハ皆 朕カ罪ナレハ」云々ト云フ、勿體ナイ御言葉ヲ賜ツタノデゴザイマス、天下一人デモデハナイ、打漏ラサレタ何十人、何百人ト云フ人ガ處ヲ得テ居ナイデ、コンナ風ニ叫ンデ居ル、ソレヲ公沙汰ニシテ、尊イ所マデ御聽エ申スト云フヤウナコトニナツテハ、洵ニ私共ハ相濟マヌコトダト思ヒマス、「皆 朕カ罪ナレハ」ト云フ御言葉ガアルノデゴザイマス、ソコデ其ノ先ニ參リマスルト、「朕自身骨ヲ勞シ心志ヲ苦メ艱難ノ先ニ立古 列祖ノ盡サセ給ヒシ蹤ヲ履ミ治蹟ヲ勤メテコソ始テ 天職ヲ奉シテ億兆ノ君タル所ニ背カサルヘシ」斯ウ結ンデ居ラツシヤル、サウスルト「天下億兆一人モ其處ヲ得サル時ハ皆朕ガ罪ナレハ」ト云フコトハ、明治天皇ノ御發明デアツタトハ、明治天皇ニハ仰シヤツテ居ラレナイノデス、「古 列祖ノ盡サセ給ヒシ蹤ヲ履ミ」古 列祖ガ皆斯ウデアツタト仰シヤルノデス、列祖ト云フノハ、ズツト以前ノ御先祖ノコトデス、ソレカラ後モ皇室ハ大體其ノ思召デアラダラウト思フノデス、之ヲ否認スルナリ、此ノ意味ヲ狭メテ解釋スルナリスレバ、此ノ頃問題ニナツテ居ル其氏ノ演説ヤ、其ノ思想ヨリハ、モツト甚シイ大變ナ話デアアル、我が内閣ニ於テハ左様ナコトハ決シテゴザイマスマイ

ト察シテ居ル者デゴザイマス、デゴザイマスカラ、「一人モ其處ヲ得サル時ハ皆 朕ガ罪ナレハ」ト云フ勿體ナイ御言葉ヲ、上御一人ヨリ承ルト云フ、畏多イコトヲ敢テセズ——一人ドコロデナク、五百人モ八百人モ其ノ處ヲ得ザル者ヲ、其ノ儘抛ツテ置クノハ、何事デアアルカト存ジマスノデ、何トカ其ノ適用範圍ヲ廣メテ、アナタ方ガ机上デ鉛筆デ少シ書ケバ、ドウカナルコトデゴザイマスルカラ（笑聲）ドウカ此ノ汚政ヲ刷新スル誠意ガ、此ノ興亞ノ大事業ヲ背負ツテ立ツ内閣ノ諸公ニアルカドウカ、此ノ點ヲ一ツ御答願ヒタイト思フノデアリマス、私ノ演説ハ是デ終リマス（拍手）

〔政府委員廣瀨久忠君登壇〕

○政府委員（廣瀨久忠君） 川崎君ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、先づ第一ハ恩給ヲ餘リ早クヤル爲ニ、若イ人ガ恩給ヲ得テ辭メテシマフ、是等ノ事情ノ爲ニ、折角是カラ御國ノ爲ニ働クト云フ若イ時ニ辭メテシマフト云フノハ、甚ダ人物經濟上適當デナイト云フヤウニ考ヘル、モツト恩給ノ年限ヲ延バス考ハナイカト云フヤウニ承リマシタガ、大體今日ノ恩給ノ制度ヲ見マスト、一般官吏ハ御承知ノヤウニ十七年、ソレカラ警察官ハ勤務ノ性質上、是ハ十七年ヨリ短ク十二年ニ相成ツテ居リマスガ、大體斯ウ云フコトニナツテ居リマシテ、十七年、十二年、十二年ノ方ハ勤務ノ性質上、ヤハリ短クシテヤラナケレバナラヌカト思ヒマス、政府ノ現在ノ考ハ、恩給年限ヲ延バスト云フ考ハ持ツテ居リマセヌ、但シ御注意ノ點

デアリマスル、若クテ仕事ヲ辭メ、人物經濟上國家ノ爲ニナラヌ、斯ウ云フ點ニ付キマシテハ、サウ云フヤウナ弊害ニ陥ツテハナラヌト思ヒマス、是ハ十分注意致シマシテ、ヤハリ恩給ヲ得タラ辭メルトカ、或ハ恩給ヲ得ル年齢ニナツタラ辭メサセルト云フコトノ弊害ノナイヤウニ致シマシテ、國家ノ爲ニ不利益ノナイヤウニ、人物經濟上不利益ノナイヤウニ致シタイト思ツテ居リマス

ソレカラ第二ノ問題ハ、洵ニ御氣ノ毒ナ軍ニ勤務ヲ致シテ居ツタ通譯ニ關スル御話デアリマス、恩給法ニ於キマシテハ、囑託デアルトカ、雇アルトカ云フヤウナ身分ノ人ニ、恩給ヲ與ヘルベキモノヤ否ヤト云フコトニ付テ、從來モ屢、研究ヲ致シタノデアリマスルガ、ドウモヤハリ勤務ノ性質ガ、官吏或ハ軍人等ト自ラ違フ點ガアリマスノデ、是ハ恩給ヲ與ヘナイト云フコトニ、今以テナツテ居ル譯デアリマス、只今御話ノ軍ノ通譯ハ、洵ニ御氣ノ毒ナ事情ニアルヤウデアリマスガ、此ノ問題ニ付テハ、或ハ當カト思ヒマスガ、恩給法ノ性質上、法ノ施行前ノ人ニ對シテハ、新シイ法律ヲ適用シテ恩給ヲ與ヘルコトガ出來ナイ建前ニナツテ居リマスノデ、如何トモ致シ難イノデアリマス、併シ是ハ軍ニ於キマシテ別ノ手段、軍人援護——是ハ一般ニ今日軍人援護ノ仕事ヲヤツテ居リマスガ、此ノ方面デ出來得ル限りノ方法ヲ執リタイト云フコトニ相成ツテ居リマスカラ、左様御承知ヲ願ヒ

タイト思ヒマス（拍手）

〔富吉榮一君登壇〕

○富吉榮一君 只今上程ニナリマシタ恩給法中改正法律案ニ關シマシテ、二三ノ質疑ヲ致シタイト思フノデアリマス

既ニ御説明ニアツタ如ク、此ノ改正ハ三點カラ成ツテ居ル、即チ外地ニ勤務致シテ居リマスル恩給ノ加算率ノ縮減、第二ハ、高級所得者及ビ若年受恩給者ノ恩給ノ一部停止ノ範圍ヲ擴大スル、第三ハ、内縁ノ妻ニ遺族扶助料ヲ認メデヤル、此ノ三點ニ要約サレルト思フノデアリマス、申スマデモ一ナク時局ハ極メテ重大デゴザイマス、國民ノ一部ノ所謂股販產業ニ從事致シマスル資本家ヲ除キマシテハ、國民ノ悉クガソレノ相當ノ犠牲ヲ拂ツテ居ルノデゴザイマス、此ノ場合ニ於キマシテ、官吏モ亦ソレ相當ノ犠牲ヲ忍ンデ貰ハナケレバナラヌト思フノデアリマス、忍ンデ貰ハナケレバナラヌコトハ申スマデモナイノデアリマスルガ、今日ノ官吏、殊ニ下級官吏ニ對スル今日ノ待遇ハ、必ズシモ相當シテ居ルトハ思ハレマセヌ、非常ニ薄給デアルトカ、待遇ガ劣惡デアルトカ云フコトハ世間屢、聞ク所ノ事實デアリマス、然ルニ此ノ薄給ニ甘ンジテ實ニ能ク働キマスル所以ノモノハ、固ヨリ所謂國家ノ中堅タルヲ以テ自ラ任ズル所ノ吏道ニ徹シテ居ルカラデアアルコトハ言フマデモアリマセヌガ、モウ一ツ見逃シテナラナイコトハ、外ノ會社員ヤ勞働者ト云フモノニハ恩給制度ガナイガ、官吏ニハソレゾレノ恩給ガアル、此ノ恩給ヲ唯一ノ樂

ミニシテ、サウシテ苦シイ生活ニモ耐ヘテ居ル、私ハ斯ウ云フ點ハ見逃シテハナラナイ問題デアルト思フデアリマス、今日ノ情勢ヲ考ヘテ見マスト、一方ニ軍需産業、般賑産業ガ頻リニ人ヲ要求致シテ居リマス、有能ナル者ニ對シマシテハ、相當ノ待遇ヲ以テ之ヲ招カウト致シテ居リマス、現ニ警察官吏ノ如キハ、非常ニ辭メル者ガ多イノデアリマスガ、此ノ時此ノ際斯ウシタ改正ヲ、單獨ニ恩給ノ加算率ヲ縮減スルト云フヤウナ方法ヲ採ラレテ、果シテ外地ニ於ケル勤務者ニ及ボス心理的影響ハ、ドンナモデアラウカト云フコトヲ私ハ心配スル一人デアアル、政府ハ是ガ立案制定ニ當ツテ、是等ノ考慮ヲ拂ハレタカ、而シテ之ニハ何等ノ心配ハナイト云フ御確信ガアルノデアアルカ、先ヅ此ノ一點ヲ御伺致シタイノデアアル

次ニ私共ノ考デハ、恩給ト云フモノハ官吏ノ所謂待遇デアルト思ヒマスガ、今日ノ行政機構全體、或ハ官吏制度ノ問題、サウ云フ問題ト俸給令ノ改正ト云フ問題ト關聯セシメテ、私ハ恩給制度ト云フモノハ考ヘラルベキモノデアツテ、恩給ソレ自體ヲ單獨ニ考ヘルコトハ、效果ヲ擧ゲ得ル所以デナイト云フ考ヲ持ツテ居ル、諸君、御承知ノ通りコト數年間ニ於ケル我國ノ役人ノ數ガ殖エタコトハ、先刻來屢々承ツタ所デアリ、吾々モ目撃シテ居ル事實デアリマスガ、此ノ増加シタル所以ニ付テハ、私共是ハ認メテヤラナケレバナラナイト思フケレドモ、數ノ増加ガ必ズシモ能率ヲ擧ゲ、直チニ官廳ノ事務ヲ促進スル所以デナイト私ハ考ヘルノ

デアリマス、私共ガ最モ遺憾ニ思ツテ居リマスルコトハ、日本ノ現在ノ政治ハ、事實ヤ現狀ニ引摺ラレテ、非常ニ立遅レテ致シテ居ルコトデアアル、即チ一貫セル方針ガ缺ケテ居ルト思フ、優秀ナル創意ト科學的ナ分析、研究、調査等ヲ綜合シテ企畫ニ乏シイト云フコトヲ、私ハ考ヘテ居ル一人デアアル、何等ノ用意ト準備トガナクシテ、戰爭ガ始ツタカラ已ムヲ得ナイト云フノデ、役所ヲ擴ゲ、人ヲ殖スノダ、統制經濟ヲヤルノダト云フ工合ニ、ドウモ總テガ泥繩式デアルト思フノデアアル、而モ各省ガバラ／＼デアアル、綜合性ガナイ、斯ウ云フ屋上屋下重ネルガ如キモノデアリマシテハ、決シテ國家ノ機能ヲ十二分ニ發揮セシメル所以デナイト私ハ考ヘルノデアアル、次カラ次ニ家ヲ拵ヘルヤウニ、附足シテ致シマス、アツチニ窓ヲ拵ヘ、コツチニ硝子ヲ嵌メル、アツチニ離レヲ拵ヘ、コツチニ庇ヲ掛ケルト云フヤウナヤリ方デ、終ヒニナツテ來ルト、何處ガ母屋ダカ、何處ガ玄関ダカ、譯ガ分ラナイコトニナリマシテ、國民ハ非常ニ戸惑ヒヨスルト思フ、丁度今ノ税制ガ非常ニ複雑多岐ニ互ツテ居ルノデ、之ヲ改革シナケレバナラヌト云フノガ、今度ノ税制改革デアリマスルガ、此ノ税制改革ヲヤルノト同ジ意味ニ於キマシテ、行政機構ヲ改革シテ、相當人間ノ節約ヨスルコトガ出來ルト私ハ思フ、サウシテ人間ヲ節約シテ、殘ル官吏ニ對シテハ相當ノ待遇ヲシテヤラナケレバナラス、所謂行政機構ノ改革、官吏制度ノ改革ト云フモノト睨ミ合セテノ恩給法ノ改

正デナケレバ、唯ボツト恩給法ダケヲ改正スルト云フヤウナヤリ方ハ、私共ドウモ效果ガ擧ラナイト考ヘルノデアアルガ、政府ガ茲ニ唯之ヲボツト御出シニナツタ理由ハ、ドウモハツキリ分リマセヌ、一體此ノコトニ依ツテ二百万圓ノ金ヲ節約スルト云フノガ目的デアアルカ、或ハサウ云フヤウナ財政上ノコトハ全然考ヘナイデオヤリニナツタノデアアルカ、狙ヒ所ガ何處デアアルカ、甚ダ不徹底デハナイカ、此點ニ付テノ當局ノ御意向ヲ承リタイノデアアル

ソレト簡單ニ申上ゲマスルガ、此ノ勅任官以上ノ者デ、更ニ會社ノ重役、或ハ此ノ頃流行ノ國策會社ニ勤メマスル者ハ、相當高祿ヲ食ンデ居ルノデアリマス、ソレニ多額ノ恩給ヲ支給スルコトハ私ノ考カラ致シマスト相當デヤナイ、其ノ就職期間中ハ恩給ヲ停止シテモ差支ナイト云フ考ヲ私ハ持つテ居ル、今日ノ政府ハ幾分其ノ方向ニ向ツテ多少ノ制限ヲ致シテ居ルヤウデアアル、五千圓ヲ四千圓ニ引下ゲルトカ、サウ云フヤウナ所謂姑息ナ改正ニ依ツテハ、眞ニ私ハ國民ノ納得ヲ得ル所以デハナイト思フノデアアルガ、政府ハ近ク一大決心ヲ以テ、サウ云フ勅任官以上ノ者ニシテ營利會社ニ勤メ、高給ヲ食ム者ニ對シマシテハ、此ノ恩給ヲ停止スルト云フ考ガアルカナイカ、斯ウ云フ點ヲハツキリ御答ヲ願ヒタイト思フノデアアル

次ニ私ハ此ノ場合、恩給制度ト極メテ密接不可分ナ關係ニアリマスル、所謂官吏制度ノ問題ニ付テ、當局ノ御意見ヲ承リタイト思フノデアリマス、豫メ首相ノ御出席ヲ

求メテ置イタノデアリマスガ、貴族院ノ方ニオ出デニナツテ居ラレル關係上、コチラニ見エラレナイト云フコトハ、甚ダ遺憾デアリマスルガ、輔弼ノ責ニ任ジマスル厚生大臣モ御見エニナツテ居リマスカラ、ドウカアナタノ所デハツキリ御答ガ願ヘレバ結構、若シ御答ガ出來ナケレバ、速記ヲ見テ、後デ首相カラ此ノ點ニ付テ御答辯ヲ願ヒタイト思フ、新聞ノ傳フル所ニ依リマスルト、政府ハ近ク官吏制度全般ニ關シテ、相當ノ改革ヲヤルト云フコトヲ御洩シニナツテ居リマスガ、若シ事實デアレバ、私ハ此ノ内閣ニシテハ洵ニ出來過ギタコトダト敬意ヲ表スル、果シテサウ云フ意圖ガアルカ、或ハサウ云フコトヲ相當考慮シテ、本議會ニ提出シ得ル運ビニナリ得ルカ、マダ此處デ別ニ此ノ案ガドウ斯ウト云フコトハ發表ハ出來マイガ、少クトモ提案スルカシナイカ、斯ウ云フ點ニ付テ御洩シガ願ヘレバ結果ダト思フ、新聞ノコトデアリマスカラ、本當カ嘘カハ分リマセヌガ、此ノ改正ノ要綱ノ内容ハ、高等試驗令ノ改正、或ハ文官任用令ノ改正、官等俸給令ノ改正、滿洲國へ出向スル官吏ノ身分取扱、各省並ニ日滿支ヲ通ズル人事ノ交流、内閣ニ人事局ヲ設置スルコト、是ハ何レモ喫緊且ツ必要ナ問題ニ一應ハ私ハ觸レテ居ルト思フノデアリマス、併シナガラ物ハ肚ガナイトヤレマセヌ、何カ事ヲヤラウトシテ、下ノ方ガザワ／＼ザワツイタカラト云フノデ、直グ取止メテシマフヤウナコトデハ、迎モ解決ハ付キマセヌ、其ノ點ハツキリ肚

ノ中ニ入レテ、斯ウ云フ改革ニ御進ミガ願ヒタイト思フノデアリマス、是ニ於テ私ハ當局ガ案ヲ御作リニナル參考ノ一助トシテ、私共ノ考ヘテ居ル點ガアリマスカラ此ノ點ニ少シク觸レテ見タイト思フノデアリマス、抑、日本ノ現在ノ官吏制度ト申シマス、官等ト云フモノト俸給ト云フモノトガ並行シテ居ル、詰リ官等ガ高クナラナケレバ俸給ガ上ラナイ、斯ウ云フ仕組ニナツテ居ル、成程是ハ一面ノ理窟ハアリマスケレドモ、實際上ノ問題トシテ、其ノ爲ニ官吏ノ能率ヲ阻害シテ居ル事實ヲ、餘リニ多ク知り過ギテ居ルノデアリマス、御承知ノ通り官吏ト云ヒマシテモ、親任官アリ、勅任官モアリ、委任官、判任官、斯ウ云フヤウニゴザイマスガ、今日ノ此ノ判任官以下ノ生活ニ至リマシテハ、洵ニ慘メナモノガ多イノデアリマス、是ハ少シク目ヲ開イテ實情ヲ御覽ニナレバ、政府ノ高位高官ノ諸君ノ御使ヒニナツテ居ルオ役所ニ、非常ニサウ云フ事實ガ多イノデアリマス、詰リ高等文官試験ニ合格シタ者ハ二十七ハニシテ高等官七等、六等ト云フ工合ニナリマシテ、是ガ大體四十位ニナリマス、相當シツカリシタ者ハ勅任官ニナレル、俸給モ相當ノ所マデ行ク、所ガ不幸ニシテ大學教育ヲ受ケルコトガ出來ナクテ、アタラ秀才デアリナガラ、今日ノ教育制度ノ下ニ打挫ガレテ、中等學校位ヲ出タ者ガ役人トナリマシテ、實ニ慘メデアアル、中學ヲ卒業致シマシテ二十箇年勤務シ、而モ直グ任官ヲ致シタ者ニシテ、今日僅ニ六級俸デ七十五圓ト云フ、

氣ノ毒ナ月給ヲ貰ツテ居ルノガ多イ、本省ハ多少其ノ昇進ハ、人事ノ更迭モアリマスカラ宜シウゴザイマスケレドモ、地方、殊ニ司法省ノ關係、先程ノ行政法ノ改革デモ申シマシタガ、司法省ノ關係ト、ソレカラ餘リ今マデ大臣ガ威張レナカツタ農林省、此ノ農林省ノ中デモ、營林署ナント云フ所ノ俸給ト云ツテ實際成ツテハ居ナイ、ドンナニ生レガ良クテ頭ガ良イ者デモ、殆ド呼吸作用ヲ營ムニ足ルダケデハ、進歩モ發達テ炭酸瓦斯ヲ吐出スダケデハ、進歩モ發達モ向上モアリマセヌ、終ヒニハ馬鹿ニナツテシマツテ、唯恩給ノ額ヲ數ヘルダケニナツテシマフ、所デ今日ノ役所ト云フモノハ、サウ申シテハ、甚ダ何デアリマスガ、高等官ノ力ニ負フヨリモ、此ノ判任官諸君ガ殆ド官廳ノ仕事ノ中堅ニナツテ居リマス（拍手）此ノ判任官諸君ハ政府委員室ニモ出ラレナイデ、書類ヲ本省カラ持ツテ來テ、課長ガ下手ナ答辯ヲシナイヤウニ、大臣ガ間違ヒヲ起サナイヤウニト云ツテ、吾々ノ所ニドウ云フ質問ヲ誰ガスルカト云フコトヲ聽キニ來テ、サウシテ答辯ノ資料ヲ拵ヘル、此ノ屬諸君ト云フ者ハ、實ニ能ク働イテ居リマス、ソレガ一級俸ニナリマスト百五十圓、二級俸デ百三十五圓、此ノ中當分何トカト云フノガ附イテ居リマスガ、殆ド二十年致々營々トシテ四級俸ノ百圓ニモ及バナイト云フノガ、今日ノ實情デゴザイマス、ソコデ高等官ノ方ニ至リマス、私共ハ知ツテ居リマスルガ、縣廳アタリノ連中モ二箇月、三箇月警務課長ヲヤツテ居ルト、

特高課長ニナリ、或ハ保安課長ニナル、警察關係ダケ飛ンデ歩ケバ宜イガ、ソレガ水産課長、學務課長ニナリ、矢鱈飛歩イテ居ル中ニ、從何位高等官何等トナツテ、恩給モ立派ニ附クノデアリマス、私ハ敢テ高等官ノ待遇ガ今日好過ギルトハ思ヒマセヌガ、併シナガラ今日役所ノ仕事ノ大部分ヲヤツテ居ル判任官及ビ判任官以下、殊ニ警察官ト刑務署ノ看守ニ至ツテハ、私共ハ實際甚ダ申上テハドウカト思ヒマスガ、孫子ノ末マデヤラセタクナイノデアリマス、恐ラク今日政府ノ役人諸君デモ、自分ノ息子ヲサウ云フ所ニヤリタイト思フ人ハナイト思ヒマス、斯ウ云フ生活ニ甘ンゼシメテ、之ニ改正ヲ加ヘナイト云フコトハ、甚シク片手落ちダト思フ、ソコデ私ハ先ツ官等ヲ五十等位ニシテシマツテ、高等官ト判任官ノ身分上ノ差別ヲ撤廢シタラドウカト云フ思切ツタ案ヲ持ツテ居ル、サウシテ勉強次第デグンノ上ツテ行ケルヤウニシテヤル、尤モ今日特別任用令トカ何トカ云フモノガアリマスケレドモ、アレハ墓標ノ銘ヲ刻ム爲ノモノデアリマス、警察官ガ五十歳位マデモ勤メテ、漸ク署長ニナツテ鹹ラレル、其ノ辭メ際ノ墓標ノ銘ヲ刻ム爲ノモノデアリマス、アアデナシニ、良イ者ハグンノ上ゲテヤル、サウシテ最低ノ所中學卒業生ハ大體五十等カラ行ク、大學卒業生ハ四十分力三十五等位カラ始メテ行ク、成績ノ良クナイ者ハ少シツツ上ゲテ行ケバ宜イ、成績ノヒドク良イ者ハ三階モ四階モ飛越エテ行クト云フ工合ニスル、俸給ノ方ハドウスル

カト云フト、俸給ノ方ハ百等、二百等デモ宜イ、兎ニ角澤山ナ級ニ分ケテ置ク、サウシテ成績ノ良イ者ハ引上ゲル、是ハ米國アタリデモヤツテ居ルコトデ、能ク皆様御承知デアリマスルガ、諸君御承知ノ通り米國アタリニ於キマシテハ、同ジ「ポスト」デ長イ間コツノ働イテ居ルト、年功ガ重ツテ俸給ガ多クナル、極端ナ例ヲ取りマス、郵便配達夫ガ一月二百五十弗貰ツテ居ル、サウスルト郵便局長ハ、成程官等ハ高イケレドモ俸給ハ百五十弗、斯ウ云フ工合ニ俸給ト地位トハ必ズシモ一致シナイヤウニシナケレバ、官吏ハ本當ニ働ケナイト思フ、今地方廳ニ於ケル地方官ノ異動時期ニナレバ、ヤレ誰ソレハ大學時代同ジダツタガ、彼奴ガ課長ニナツタ、部長ニナツタ、イヤ書記官ニナツタト云フコトバカリ言ツテ居ル、ト云フノハ椅子ヲドソノ變ヘテ行カナイト給料ガ上ツテ行カナイ、斯様ナ仕組ニナツテ居ル、デスカラ譯モ分ラズニ盲判ヲ捺シテ居ルト、其ノ中ニ勅任官ニナツテシマフト云フヤウナ組織、ソレデハ私ハイケナイカラ、本當ニシツカリシタ「ポスト」ニ、二十年デモ三十年デモ心魂ヲ打込ンデヤツテ行ケルヤウナ組織ニスルニハ、此ノ官吏制度ノ改革ニ付テハ、徹底的ニオヤリニナラナイデ、唯其處此處ホジクツテ置イテ、ソレデ能事足レリトスルヤウナ姑息ナ手段デハ、斷ジテ折角改革シタ其ノ目的ニ到達シ得ナイト云フコトヲ私ハ申上ゲルモノデアアル（拍手）政府ハ之ニ對シテ如何ニ御考ニナリマスカ

モウ一ツ看過シテナラヌコトハ、ドウモ技術官ノ待遇ガ著シク惠マレテ居ラナイト思フノデアリマス、是ハ何モ技師ヤ技手諸君カラ頼マレタノデアアリマセヌ、私ハチヤント日常ノ生活ニ於テ彼等ノ生活ヲ見テ居リマスルガ、ドウモ重要ナ「ポスト」ニハ現在ノ法科擧龍、之ニ付テ政府ハ相當改革ヲシサウナ風ヲ仄カシテ居リマスルガ、此ノ點ニ付テハ十分考慮ヲシテ戴カナケレバイケナイ、今日獨逸ニ致シマシテモ、或ハ例ヲ引クト兎角嫌ハレマスケレドモ、「ソビエト」露西亞ニ致シマシテモ、技術官ト云フモノノ非常ニ重視致シテ居リマスル國柄ニ於キマシテハ、産業ノ發達目覺シキモノガアルト云フコトヲ御考ニナリマスナラバ、強チ法科ヲ出タ者ダケガ立案スルカラト云フ意味ニ於テ、技術官ヲ差別シ若クハ低位ニ置カシメルト云フコトハ、不都合千萬デアルト考ヘルノデアリマス、此ノ技術官優遇問題ニ對シテ政府ハドウ御考ニナルカ

モウ一ツ御伺致シタイコトハ身分保障令ノ問題デアリマス、是ハ成程身分保障令ヲ御作リニナツタ時ノ事情ハ私能ク分ル、是ハ無理ハナカツタと思フケレドモ、制度ト云フモノハ時代ト共ニ變ツテ行カナイト、却テ害ヲ爲ス場合ガアル、十五ノ時ニ作ツタ着物ノ柄柄ユキ丈ガ好クテモ、三十ニナツタ者ニハ是ハ着セラレナイ(拍手)兎ニ角日本ノ一切ノ政治、經濟、社會全般ニ互ツテ、著シク好ムト好マザルニ拘ラズ、變ツテ居リマス今日ニ於テ、依然トシテ斯ノ如キ法律ヲ存在セシメテ、官吏ノミガ倫安ヲ貪

ルガ如キコトアリトスルナラバ、國家ノ不幸是ヨリ甚シキモノハナイと思フ、今日何モ其ノ故バカリデハアリマスマイガ、官僚獨善ダトカ、或ハ統制經濟ニ於テ、官僚ノチグハグ統制ダトカ、兎ニ角此ノ頃官吏ハ評判ガ宜シクアリマセヌ、是ハ決シテ官吏ガ無能デアル所以デアアリマセヌ、甚ダ優秀ナル諸君デアラレマスルガ、遺憾ナガラ今日ノ制度下ニ於テハ、其ノ能力ヲ十分ニ發揮シ得ルヤウニナツテ居ラナイノデアリマス、政府ハ口ヲ開ケバ直チニ制度ノ改革ヨリモ運用ノ妙ニアリ、運用ノ妙ト云フコトハ、洵ニ妙ナル言葉デアリマス、ヤラナイデ置イテモ運用ノ妙ニアリト云ツテ居レバソレデ宜イ、少シ手ヲ染メレバ貿易省問題ト云フヤウナコトニナルカラ、ヤラナイデ置イテ運用ノ妙、是ハ現狀維持派ノ常用ヒル常套語デアリマス、併シ運用ノ妙デノソリノヤツテ居ルト、平沼内閣ノ如ク變テコトデ辭メナケレバナラヌコトニナル、思ヒ切ツテヤラナケレバナラヌ、國民ニハ何ノ身分保障令モナクテ、官吏ダケ身分ノ保障令ヲ持ツテ得々トシテ居ルト云フヤウナ疑ノアルヤウナ法律ハ、先ヅ自ラ撤廢シテ、サウシテ國民諸君サア來イト協力ヲ求ムルト云フナラバ聞エマスガ、自分ハ樂ナ所ニ居ツテ、國民ニノミ協力ヲ強ヒルト云フヤウナ風ノ誤解ヲ受ケテハ、甚ダ宜シクナイと思フ、地方ニ於キマシテハ大分サウ云フ聲ガ高イノデアアル、サウシテ先刻申上デマシタヤウニ、所謂出身違ヒデアルトカ、地方「ブロック」デアルトカ云ツテ、此ノ統

制經濟ニ於テ物ガ足ラナイト云フノニ、縣知事等ガ、俺ノ縣カラハ米ヲ出サナイト云フ、ソコデ此ノ前ノ阿部内閣ニ於テハ、態々地方官ヲ呼付ケテ居ル、私ハ或ル知事ト一緒ニナツタカラ、何處ニ行クノダト云ツタラ、祕密ダケレドモ實ハ斯ウシテ呼付ケラレテ來タ、米ノ問題ラシイト言フ、ドウモ幾ラ何ト云ツテモ、自分ノ縣カラハ出サナイト云ツテ居タ、馬鹿ニ此ノ頃ノ地方長官ハ鼻息ガ荒イノデス、是ハ身分保障法ニ依ルモノデ、實ニ弊害ガ伴フノデアアル(拍手)大體禪ノ締メ工合ガ違ツテ來ル、或ル新聞ニ出テ居ツタガ、商工次官ノ自動車ガ待合デ盜ラレタト、スルコトガ國民思想ニ及ボス影響極メテ大ナルモノガアルと思フ、事實ノ有無ハ存ジマセヌ、新聞ガサウ傳ヘテ居ル、政府カラ別ニ御取消ガナカツタヤウデアリマスルガ、是ナドハ禪ガ緩ンデ居ルカラ斯ウ云フコトニナル、斯ウ云フコトハ自肅自戒シテ、國民ニ範ヲ示スト云フ態度ニ出テラレナケレバナラヌと思フノデアアル、官界ニ於キマシテ殊ニ吾々ガ最モ遺憾ニ堪ヘナイコトハ學閥ノ爭デアアル、東京帝國大學ノ法學部ヲ出ナケレバ、殆ド出世ガ出來ナイト云フノデ、日本ノ二十數校ノ高等學校ノ卒業生モ、出來得ベクンバ東大ニト云フノデ、ワンサノト押掛ケテ來テ、相當地方ノ高等學校デ成績ノ良イ者マデモ、一回デハ試験ガ受カラナイノデ、二年モ三年モ遊ンデ居ル「カフエ」遊ビト同時ニ受験勉強ヲ致シテ居ル、斯ノ如キコトハ洵ニ國家ノ人物經濟上宜シクナイ、是ハ當

然今日ノ時代ニ於ケル所謂學閥爭ナルモノガ、斯クセシメタ所以デアルト思フノデアアル、私ハ統計モ色々持ツテ居リマスルガ、サウ云フコトヲ言フノガ目的デアリマセヌカラ申上ゲマセヌ、ドウカ是等ニ付テハ思切ツテ、虚心坦懷ニ弊風ヲ改メルト云フコトニオヤリニナリマセヌト、トンデモナイ問題デス、東洋ノ平和ヲ確立シ、新秩序ヲ作り、支那人ト共ニ手ヲ握ツテ行ク、八紘一宇ダ、斯ウ云フコトヲ言フガ、其ノ一番御説教ヲナサル諸君ガ、アイツハ京都大學デアアル、アイツハ私立大學出ダト、人ヲ馬鹿ニシテ押ヘ付ケテ居ルヤウデハ、何時ノ日ニカ東洋永遠ノ平和アリヤ、民族ガ協和シテ行ク時代ガアリヤト聽キタイ、此ノ點ニ於テ身分保障令等ハ早ク撤廢シテシマハナケレバナラヌ、是ハ實際盲腸ミタイナモノデ、アレバ禍ヲスル、アレバ却テ禍ヲスルナラ、早ク手術シテ切ツテ無クシタガ、今日ハ宜シイト思フノデアリマスルガ、政府ノ之ニ對スル所見如何



タコトヲ私共ハ甚ダ結構デアルト思ツテ居  
ル、御承知ノ通り我國ハ一民族ヲ以テ一國  
家ヲ形成シテ居ル、兄弟ダト仰シヤル、大  
家族ダト仰シヤル、私ハ結構ダト思フ、サ  
ウシテ畏多イ話デアリマスルガ、皇室ヲ中  
心トシ奉ツテ、吾々國民ガ其ノ子デアアル、  
サウ云フ工合ノ所謂大家族主義デヤツテ居  
ル、洵ニ結構ナ話デアアル、所ガ此ノ一等國  
デアル大家族主義デアアル所ノ國ニ於キマシ  
テハ、國家的ノ規模ニ於ケル所ノ養老年金  
制ト云フガ如キモノガナイノデアアル、個人  
主義デアリ、自由主義デアアル、自分サヘ宜  
ケレバ宜イト云フ思想ヲ持ツテ居ルノダ  
ト、アナタ方ガ御説明ニナリマスル所ノ歐  
米諸國ノ例ヲ釋ネマスナラバ、英國ニ於キ  
マシテハ千九百八十八年カラ、佛蘭西ニ於テハ  
既ニ千九百十年カラ、若クハ丁抹ニ於テハ  
夙ニ千八百九十一年カラ、歐洲諸國ニ於キ  
マシテハ千八百九十八年カラ千九百年ノ間  
ニ、チャント斯ウ云フヤウナ養老年金制或  
ハ癡疾保障制ト云フヤウナモノガ設ケラレ  
テ居ル、獨逸ニ於キマシテハ實ニ千八百八  
十九年カラ斯ウ云フ事ガ行ハレテ居ルト云  
フコトハ、私共ヨリモ歐洲ノ事情ニ通ゼラ  
ルル政府當局ノ能ク御承知デアアル、自由主  
義デアリ個人主義デアルト言ツタ所ノ向フ  
ノ方ガ、却テ制度ハ早く布カレテ居ル、家  
族主義ダ、一大家族ダ、一民族一國家ダト  
言ツテ居ル日本ニ於テハ其ノ制度ガナイ、  
サウシテ貧乏人デモ、或ハ難澁ヲシテ、苦  
勞ヲシテ、怪我ヲシタ者ハ、勝手ニ死ンデ  
行ケト云フヤウナコトデハ、國家トシテ宜

シクナイト思フ(拍手)最モ此ノ問題ニ付キ  
マシテモ、文獻ニ依リマスルト、明治二十  
八年ニ福本日南氏デアリマスルトカ、花  
井卓藏氏デアリマスルトカ云フヤウナ人々  
ノ努力ニ依ツテ養老法ガ此ノ衆議院ニモ提  
案致サレテ居リマスルガ、政府ノ反對ニ依  
ツテ潰レテ居ルノデアアル、爾後既ニ年ヲ閱  
スルコト四十餘年、其ノ間ニ於テ何等是等  
ニ向ツテ政府ガ積極的ニ手ヲ染メテ居ナイ  
ト云フコトハ、私共不可解ニ思フ、今ヤ國  
ヲ舉ゲテ自由主義、所謂自分サヘ宜ケレバ  
宜イト云フ思想觀念デハイケナイトカ、國  
民ハ戰爭ノ犧牲ヲ一緒ニ皆負擔シナケレバ  
ナラナイトカ、斯ウ云フ時ニコソ斯ウ云フ  
法案ヲ御出シニナツテ呼掛ケルニハ、千載一  
遇ノ機會デアアル、多少反ノ對ハアリマシテ  
モ、堂々ト政府ガ所信ヲ披瀝スルナラバ、  
何人カ之ニ反對シヨウゾ、斷ジテ是ハ實  
行出來ルノデアアルニモ拘ラズ、今日マデ一  
向ニ御提案ニナラヌ理由ハ一體何處ニア  
ルカ、何處ニ御遠慮ナサツテ居ルノカ、又サ  
ウ云フコトヲスレバ、ドウ云フ弊害ガアル  
ト御考ニナルノカ、勿論總テノ制度ノ改革  
ト云フモノハ、一應ハ弊害ノ伴ハナイモノ  
ハゴザイマセヌ、多少ノ弊害ガ伴フカラト  
云ツテ、アレニモ手ヲ著ケズ、之ニモ手ヲ著  
ケナイト云ツタ日ニハ、全クソレ自體民族の  
發展ノ破壞デ、國家的躍進ノ障礙ト云フコト  
ニナリマスルガ故ニ、政府ハ思切ツテ是等  
ノ制度ヲ官吏制度ト睨ミ合セテ、御制定ニ  
ナル意思アリヤ否ヤ、セヌト云フナラバナ  
ゼセヌカ、其ノ譯ヲハツキリ御聞カセ願ヒタ

イノデアアル  
私ハ色々質問致シタイコトガアリマスル  
ガ、是ハ委員會等適當ナ機會ニ讓リマシテ、  
先ツ此ノ大綱ニ付テ質問致シマシテ、私ノ  
質疑ヲ終ルコトニ致シマス(拍手)  
(國務大臣吉田茂君登壇)  
○國務大臣(吉田茂君) 御名指デアリマス  
ノデ、富吉君ノ御質問中、官吏制度ニ關シ  
マシテ種々述ベラレマシタ點ニ付テ私ヨリ  
御答ヲ致シマス、官吏制度ニ付テ改革ヲシ、  
其ノ案ヲ此ノ議會ニ提案スル意思ガアルカ  
ナイカト云フ最初ノ御尋デゴザイマスガ、官  
吏制度ニ付キマシテハ、他ノ機會ニ於テ總  
理大臣ヨリ明ニセラレマシタ如ク、官吏制  
度ノ各般ノ方面ニ互リマシテ、今日ノ重大  
時局ニ際會シテ、官吏ガ其ノ職分ヲ果ス上  
ニ遺憾ナキヤウナ趣旨ニ於テ、何處ニ弊害  
ガアリ、ソレヲ如何ニ改ムベキカト云フコ  
トニ付キマシテ考究ヲ致シ、速ニ成案ヲ得  
タイト云フ心構ヘノ下ニ、目下研究ヲ致シ  
テ居ルノデアリマス、無論最後ニ御尋ニナ  
リマシタ身分保障ノ問題等モ、其ノ中ニ含  
マレテ來ルコトト思ハレルノデアリマス、  
御質問中ニモ仰セラレマシタ通り、色々各  
種ノ制度ニ付キマシテ利弊モアルコトデア  
リマス、其ノ利弊ニ付テ十分ナル見透シト  
肚ヲ決メマシテ、是モ御話ニアリマシタ通  
リニ、肚ヲ決メテ左様ナコトノ實行ニ著手  
スルノデナケレバ、唯一様ノ考ダト云フコ  
トデハ、御役ニ立タヌコトト考ヘマスノデ、  
十分ナ肚ヲ以テ此ノ問題ヲ處理致シタイト  
考ヘテ居リマス次第デアリマス(拍手)尙ホ

御質問中ニアリマシタヤウナ、下級官吏ヨ  
リノ拔擢ニ付テノ一ツノ御考案ト云フモノ  
ハ、洵ニ有益ニ承リマシタ、御精神ニ於テハ  
私共全然御共鳴スルノデアリマス、唯方  
法ガ御指摘ニナリマシタヤウナ方法デ宜イ  
カドウカト云フコトハ、能ク考ヘネバナラ  
ヌノデアリマスガ、御趣意ノ存スル所ハ、  
十分ニ此ノ問題ヲ處理スルニ付キマシテ、  
參考トスベキコトデアアルト考ヘルノデア  
リマス、技術官ノ優遇ト云フコトニ付キマシ  
テモ同様デアリマス  
尙ホ最後ニ國民生活ノ保障トシテノ養老  
年金ト云フコトニ付テ、未ダニ提案シナイ  
ノハドウ云フ譯デアアルカ、或ハ提案スルノ  
カシナイノカト云フ御尋デゴザイマシタ、  
是亦他ノ機會ニ於キマシテ御答ヲ申上ガタ  
コトガアルカト思フノデアリマスルガ、此  
ノ養老癡疾年金ト云フヤウナコトハ、今日  
ノ時局下ニ於キマシテ、特ニ考慮セネバナ  
ラヌ重大ナル問題ト考ヘマスルノデ、只今  
當局ニ於キマシテ、各種ノ資料ニ依リマシ  
テ、其ノ檢討ヲ進メテ居ルノデアリマス、  
是亦出來ル限リ速ニ結論ヲ得ルヤウニ致シ  
タイト思フノデアリマス、今日マデ提案ノ  
運ビニ至リマセヌコトハ、資料ノ整備、並  
ニ之ヲ一ツノ年金制度ト申シマスレバ、ヤ  
ハリ一ツノ纏ツタ經濟ニ組立テネバナリマ  
セヌ、其ノ方法ニ付テノ技術的ナ考慮ト云  
フモノニハ、相當ナ困難ヲ伴フ次第デアリ  
マス、併シ困難デアリマシテモ、何トカシ  
テ至急ニソレ等ノ點ニ關シマシテノ結論ヲ  
得タイト云フヤウナ考ヲ以テ、研究ヲ進メ

テ居ルノゴザイマス、左様ニ御諒承願ヒ  
タイト思ヒマス、他ノ恩給制度等ニ關スル  
コトニ付キマシテハ、主管ノ法制局長官カ  
ラ御答ガアルサウデゴザイマス(拍手)

〔政府委員廣瀬久忠君登壇〕

○政府委員(廣瀬久忠君) 御質問ノ第一ノ  
點デアリマスル恩給ノ外地加算ノ問題デアリ  
マス、外地ノ加算ヲ減額致シテ居ルガ、  
是ハ支障ハナイカト云フ御質問デアリマス  
ガ、現在行ハレテ居リマス法律ガ、外地ニ對  
シマシテ一般ニ加算ヲ附スルコトニ致シタ  
其ノ當時ノ事情ト、今日ノ外地ノ事情トハ  
餘程變ツテ居リマス、外地ノ文化ノ發展、交  
通衛生狀態等ノ改善ハ著シイモノガアルト  
思ヒマスノデ、ヤハリ今日ニ於テハ或ル程  
度ノ加算ノ減額ヲ致シマスコトガ適當デア  
ル、是ガ却テ均衡ヲ得ル所以デアルト云フ  
具合ニ考ヘルノデアリマス、隨ヒマシテ是  
ノ減額ニ依ツテ動搖ヲ來スガ如キ憂ハ、全  
然ナイモノト私共ハ信ジテ居リマス

次ニ第二點ニ付キマシテハ、今回ノ法改  
正ノ目的ハ何處ニアルカ、是ハ現在事情ノ變  
化ニ依ツテ新シイ必要ヲ生ジマシテ、之ニ  
對シテ加算ノ制度ヲ新ニ設ケナケレバナラ  
ヌト云フ點ガ數點アル、是等ノ新シイ必要  
ニ應ズルト云フコト、又事情ノ變化ニ依リ  
マシテ、公平ナ點カラ見マシテ、改正ヲシ  
テ均衡ヲ得セシメナケレバナラス點ガ數點  
アル、斯ウ云フ點ガ中心デアリマス  
ソレカラ尙ホ御尋ノ高額所得者ニ關スル  
停止ノ問題デアリマスガ、是ハ今回ノ改正  
ニ依リマシテ、多額ノ所得者ニ對シテ停止

ノ程度ヲ強メテ居リマス、今回ノ改正ヲ以  
テ相當デアルト信ジテ居リマス、此ノ程度  
デ宜カラウト思ツテ居リマス  
○議長(小山松壽君) 是ニテ質疑ハ終了致  
シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ  
選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、會計検査  
院法中改正法律案委員ニ併セ付託サレンコ  
トヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異  
議アリマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ  
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第  
七、損害保險國營再保險法案ノ第一讀會ヲ  
開キマス——加藤商工政務次官

第七 損害保險國營再保險法案(政府  
提出) 第一讀會

損害保險國營再保險法案 第一讀會

第一條 政府ハ戰爭其ノ他ノ變亂ニ際シ  
保險料ノ昂騰ヲ抑制シ又ハ保險ノ圓滑  
ナル引受ヲ確保スル爲必要アリト認ム  
ルトキハ本法ニ依リ保險會社ノ引受ク  
ル損害保險ノ再保險ヲ行フ戰爭其ノ他  
ノ變亂終了後ノ狀況ニ依リ保險會社ノ  
外國ノ保險者ニ對スル再保險取引ヲ困  
難又ハ不適當トスル事由アル場合ニ於  
テ政府保險ノ圓滑ナル引受ヲ確保スル  
爲特ニ必要アリト認ムルトキ亦同ジ

前項ノ損害保險ノ種類及保險事故ニ關  
シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法ニ依リ再保險ノ引受ヲ爲ス期間ノ  
始期及終期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第二條 本法ニ依リ再保險ヲ行フ損害保  
險ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ目  
的トスルモノトス  
一 帝國法令ニ依ル日本船舶但シ命令  
ヲ以テ定ムルモノヲ除ク  
二 帝國(關東州及南洋群島ヲ含ム以  
下之ニ同ジ)ヨリ輸入シ又ハ帝國ニ  
輸入スル積荷但シ命令ヲ以テ定ムル  
モノヲ除ク  
三 其ノ他政府ノ定ムルモノ  
第三條 保險會社ハ再保險金ノ支拂ヲ受  
クベキ事由發生シタル場合其ノ他命令  
ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ命令ノ定ム  
ル所ニ依リ必要ナル事項ヲ政府ニ通知  
スベシ  
第四條 政府ハ保險會社ノ保險契約ニ基  
ク填補ノ責任發生シタル場合ニ於テ再  
保險金額ノ保險金額ニ對スル割合ニ依  
リ填補ノ責ニ任ズ  
保險事故發生シタル場合ニ於テ保險會  
社ノ負擔シタル費用ニシテ勅令ヲ以テ  
定ムルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政  
府之ヲ負擔ス  
第五條 左ノ場合ニ於テハ政府ハ命令ノ  
定ムル所ニ依リ再保險金ノ全部又ハ一  
部ノ支拂ノ責ニ任ゼズ  
一 保險會社ガ法令上又ハ保險契約上  
ノ義務ナクシテ填補ヲ爲シタルトキ

二 保險會社ガ填補額ヲ不當ニ認定シ  
テ填補ヲ爲シタルトキ  
三 保險會社ガ不正ノ目的ヲ以テ第三  
條ノ規定ニ依リ通知ヲ怠リ又ハ不實  
ノ通知ヲ爲シタルトキ  
四 其ノ他勅令ヲ以テ定ムル場合  
第六條 政府ハ保險會社ガ法令又ハ保險  
契約ニ依リ保險料ノ全部又ハ一部ヲ返  
還シタルトキハ再保險金額ノ保險金額  
ニ對スル割合ニ依リ再保險料ヲ還付ス  
第七條 再保險金ノ支拂ヲ受ケタル保險  
會社ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ委  
付ニ因リテ取得シタル一切ノ權利ヲ行  
使シ又ハ處分スベシ但シ其ノ權利ノ行  
使又ハ處分ニ要スル費用ガ其ノ權利ノ  
行使又ハ處分ニ因リテ得ベキ金額ヲ超  
ユルモノト認メラルル場合其ノ他特別  
ノ事情アル場合ニ於テ政府ノ認可ヲ受  
ケタルトキハ其ノ權利ノ全部又ハ一部  
ヲ行使セズ又ハ處分セザルコトヲ得  
保險會社ハ前項ノ權利ノ行使又ハ處分  
ニ因リテ得タル金額ヨリ之ガ行使又ハ  
處分ニ要シタル費用ヲ控除シタル殘額  
ノ中再保險金額ノ保險金額ニ對スル割  
合ニ依リテ算出シタル金額ヲ遲滞ナク  
政府ニ還付スベシ  
政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ規  
定ニ依リ還付金ニ付保險會社ヲシテ相  
當ノ擔保ヲ供託セシムルコトヲ得  
政府ハ前項ノ規定ニ依リ供託セラレタ  
ルモノノ上ニ質權ヲ有ス  
前四項ノ規定ハ保險會社ガ商法第六百

前項ノ損害保險ノ種類及保險事故ニ關  
シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法ニ依リ再保險ノ引受ヲ爲ス期間ノ  
始期及終期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第二條 本法ニ依リ再保險ヲ行フ損害保  
險ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ目  
的トスルモノトス  
一 帝國法令ニ依ル日本船舶但シ命令  
ヲ以テ定ムルモノヲ除ク  
二 帝國(關東州及南洋群島ヲ含ム以  
下之ニ同ジ)ヨリ輸入シ又ハ帝國ニ  
輸入スル積荷但シ命令ヲ以テ定ムル  
モノヲ除ク  
三 其ノ他政府ノ定ムルモノ  
第三條 保險會社ハ再保險金ノ支拂ヲ受  
クベキ事由發生シタル場合其ノ他命令  
ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ命令ノ定ム  
ル所ニ依リ必要ナル事項ヲ政府ニ通知  
スベシ  
第四條 政府ハ保險會社ノ保險契約ニ基  
ク填補ノ責任發生シタル場合ニ於テ再  
保險金額ノ保險金額ニ對スル割合ニ依  
リ填補ノ責ニ任ズ  
保險事故發生シタル場合ニ於テ保險會  
社ノ負擔シタル費用ニシテ勅令ヲ以テ  
定ムルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政  
府之ヲ負擔ス  
第五條 左ノ場合ニ於テハ政府ハ命令ノ  
定ムル所ニ依リ再保險金ノ全部又ハ一  
部ノ支拂ノ責ニ任ゼズ  
一 保險會社ガ法令上又ハ保險契約上  
ノ義務ナクシテ填補ヲ爲シタルトキ

前項ノ損害保險ノ種類及保險事故ニ關  
シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法ニ依リ再保險ノ引受ヲ爲ス期間ノ  
始期及終期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第二條 本法ニ依リ再保險ヲ行フ損害保  
險ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ目  
的トスルモノトス  
一 帝國法令ニ依ル日本船舶但シ命令  
ヲ以テ定ムルモノヲ除ク  
二 帝國(關東州及南洋群島ヲ含ム以  
下之ニ同ジ)ヨリ輸入シ又ハ帝國ニ  
輸入スル積荷但シ命令ヲ以テ定ムル  
モノヲ除ク  
三 其ノ他政府ノ定ムルモノ  
第三條 保險會社ハ再保險金ノ支拂ヲ受  
クベキ事由發生シタル場合其ノ他命令  
ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ命令ノ定ム  
ル所ニ依リ必要ナル事項ヲ政府ニ通知  
スベシ  
第四條 政府ハ保險會社ノ保險契約ニ基  
ク填補ノ責任發生シタル場合ニ於テ再  
保險金額ノ保險金額ニ對スル割合ニ依  
リ填補ノ責ニ任ズ  
保險事故發生シタル場合ニ於テ保險會  
社ノ負擔シタル費用ニシテ勅令ヲ以テ  
定ムルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政  
府之ヲ負擔ス  
第五條 左ノ場合ニ於テハ政府ハ命令ノ  
定ムル所ニ依リ再保險金ノ全部又ハ一  
部ノ支拂ノ責ニ任ゼズ  
一 保險會社ガ法令上又ハ保險契約上  
ノ義務ナクシテ填補ヲ爲シタルトキ

前項ノ損害保險ノ種類及保險事故ニ關  
シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法ニ依リ再保險ノ引受ヲ爲ス期間ノ  
始期及終期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第二條 本法ニ依リ再保險ヲ行フ損害保  
險ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ目  
的トスルモノトス  
一 帝國法令ニ依ル日本船舶但シ命令  
ヲ以テ定ムルモノヲ除ク  
二 帝國(關東州及南洋群島ヲ含ム以  
下之ニ同ジ)ヨリ輸入シ又ハ帝國ニ  
輸入スル積荷但シ命令ヲ以テ定ムル  
モノヲ除ク  
三 其ノ他政府ノ定ムルモノ  
第三條 保險會社ハ再保險金ノ支拂ヲ受  
クベキ事由發生シタル場合其ノ他命令  
ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ命令ノ定ム  
ル所ニ依リ必要ナル事項ヲ政府ニ通知  
スベシ  
第四條 政府ハ保險會社ノ保險契約ニ基  
ク填補ノ責任發生シタル場合ニ於テ再  
保險金額ノ保險金額ニ對スル割合ニ依  
リ填補ノ責ニ任ズ  
保險事故發生シタル場合ニ於テ保險會  
社ノ負擔シタル費用ニシテ勅令ヲ以テ  
定ムルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政  
府之ヲ負擔ス  
第五條 左ノ場合ニ於テハ政府ハ命令ノ  
定ムル所ニ依リ再保險金ノ全部又ハ一  
部ノ支拂ノ責ニ任ゼズ  
一 保險會社ガ法令上又ハ保險契約上  
ノ義務ナクシテ填補ヲ爲シタルトキ

六十一條又ハ第六百六十二條ノ規定ニ依リ權利ヲ取得シタル場合ニ之ヲ準用ス

第八條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ再保險ニ依ル收入金額ヨリ本法ノ再保險ニ依ル支出金額ヲ控除シタル殘額ノ一部ヲ保險會社ニ交付スルコトヲ得

第九條 本法ニ定ムルモノノ外再保險金額、再保險料其ノ他本法ノ再保險ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 商法第六百二十九條、第六百三十一條、第六百三十四條、第六百三十七條、第六百四十二條乃至第六百四十五條、第六百五十七條、第六百六十條

第一項本文及第六百六十三條ノ規定ハ本法ノ再保險ニ之ヲ準用ス

第十一條 政府ハ保險料ノ昂騰ヲ抑制シ又ハ保險ノ圓滑ナル引受ヲ確保スル爲メ必要アリト認ムルトキハ本法ニ依リ再保險ヲ行フ保險ニ付保險會社ニ對シ保險料其ノ他保險契約ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ保險ノ引受ヲ命ズルコトヲ得

政府ハ前項ノ規定ニ依リ保險ノ引受ヲ命ジタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ保險ノ再保險ヲ引受クルモノトス

第十二條 政府ハ本法ノ再保險事業ノ經營上特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保險會社ニ對シ其ノ引受ケタル保險ヲ本法ノ再保險ニ付ス

ベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十三條 政府ハ本法ノ再保險ニ關シ必要アリト認ムルトキハ保險會社ヲシテ其ノ事業ニ關スル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

政府ハ本法ノ再保險ニ關シ必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ保險會社ノ營業所、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十四條 保險會社ガ本法ノ再保險ニ關スル事項ニ付政府ニ對シテ民事訴訟ヲ提起スルニハ損害保險國營再保險審查會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ審査ノ請求ハ時効ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

損害保險國營再保險審查會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 保險會社第十一條第一項又ハ第十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルトキハ其ノ保險會社ノ取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員ヲ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 保險會社第十三條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタルトキハ其ノ保險會社ノ取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第十三條第二項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ

忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第十五條及第十六條ノ罰則ハ保險會社ニ付業務及財産ノ管理ノ委託アリタル場合ニ於テ其ノ委託アリタル業務ニ付テハ管理ノ受託會社ノ取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員ニ、業務及財産ノ管理ノ命令アリタル場合ニ於テハ保險管理人(保險管理人會社ナルトキハ其ノ取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員)ニ之ヲ適用ス

第十九條 本法施行地内ニ支店、從タル事務所又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ム外國人又ハ外國法人ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ全部又ハ一部ヲ準用スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(政府委員加藤錄五郎君登壇)

○政府委員(加藤錄五郎君) 只今議題ト相成リマシタ損害保險國營再保險法案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、

火災保險、海上保險其ノ他ノ損害保險ガ國民生活ヲ安定セシメ、又貿易、海運其ノ他國民經濟ノ運行ヲ圓滑ナラシメマスル爲メ、必要缺クベカラザル制度ガアルコトハ申上ゲルマデモアリマセヌ、然ルニ一朝戰爭變亂等ノ勃發致シマシタ際ニ於キマシテハ、是等保險ノ對象トスル危險ノ程度ガ著シク上昇致シマスルガ爲メ、之ニ對スル保險料モ亦急激ニ昂騰スルコトヲ免レズ、更ニ危險ガ或ル程度以上ニ上昇致シマスル時ハ、遂

ニ保險ノ引受ヲ爲スコトヲ得ザルニ至ルノデアリマス、隨テ斯ル場合ニ於キマシテハ、國家ガ保險會社ノ引受ケタル保險ノ再保險ヲ爲ス等ノ方法ニ依リマシテ、實質的ニ國家ノ責任ニ於テ、保險制度ノ效用ヲ保持シ、以テ貿易、海運ノ保護其ノ他ニ遺憾ナキヲ期スルコトハ、多數ノ國ニ於テ採用セラルル方策デアリマシテ、我國ニ於キマシテモ、既ニ第一次歐洲大戰當時、戰時海上再保險法ノ制定ニ依リマシテ實施シタ所デアリマス

近時我國ノ民營損害保險事業ハ、國力ノ發展ト保險思想ノ普及トニ依リマシテ、逐年顯著ナル發展ヲ遂ゲ來ツテ居ルノデアリマシテ、支那事變ノ勃發竝ニ一昨年秋季歐洲政治情勢ノ緊迫等ニ際シマシテモ、專ラ當業者ノ努力ニ依リマシテ、保險料ノ抑制ヲ圖リ、保險ノ引受ニ支障ナカラシメ來ツタノデアリマスルガ、昨年九月歐洲大戰ノ勃發ニ際會スルニ至リマシテ、海上危險ノ急激ナル上昇ハ、歐洲向其ノ他ノ海上保險料ヲ著シク昂騰セシメマシタルノミナラズ、延イテハ保險ノ引受ニモ相當ノ不安ヲ感ズルノ情勢ニ立至ツタノデアリマス、而シテ斯ル情勢ヲ放置致シマスル時ハ、我國ノ貿易海運ニ支障ヲ來スヤウナ虞モ感ゼラレマシタノデ、政府ニ於キマシテハ、應急ノ措置トシテ、第一次歐洲大戰當時ノ例ニ倣ヒマシテ、戰時海上保險補償制度ヲ實施シ、之ニ依ツテ當業者ノ損失ヲ補償スル一方、比較的低廉ナル料率ヲ以テ保險ノ引受ヲ確保シ、以テ貿易、海運ノ遂行ニ對スル障礙ノ

除去ヲ圖リ、今日ニ立至ツタノデアリマス、併シナガラ此ノ補償制度ハ、固ヨリ臨時應急ノ措置タルニ止マリマスル關係上、帝國議會ノ開會ヲ待ツテ、速急ニ之ヲ更ニ有效適切ナル制度ニ引直サナケレバナラヌト云フコトハ、當初ヨリ政府ノ考ニ入レテ居タ所デアリマシテ、是ガ爲保險會社ノ引受クル損害保險ノ再保險國營ヲ行ハントスルノガ、本法提案ノ主タル理由トスル所デアリマス

以上述べマシタ如キ必要ハ、戰時ニ於テ最モ痛感セラレルモノデアリマスルガ、其ノ外戰時ニ準ズベキ變亂ノ場合、或ハ戰爭ノ終了後ト雖モ、事態ガ平靜ニ復スルマデノ間ニ於キマシテハ、戰爭ノ場合ト同様、依然トシテ國際情勢ノ緊迫等ノ爲、保險會社ノ外國再保險取引ヲ困難トシ、或ハ之ヲ不適當トスル場合ガ豫測セラレマスルノデ、是等ノ場合ニ於キマシテモ、必要ニ應ジ再保險ノ國營ヲ行フコトニ依リマシテ、保險ノ引受ニ支障ナカラシメ得ルヤウ、豫メ其ノ根據ヲ設ケ置カントスルノガ、併セテ本法提案ノ理由トスル所デアリマス

尙又戰爭、變亂其ノ他ノ非常時局ニ於キマシテ、常ニ此ノ制度ノ必要ヲ生ジマスルコトハ、過去ノ經驗ニ徴シテ明カデアリマスルカラ、本法ハ其ノ都度必要ニ應ジ、何時ニテモ發動シ得ルヤウ、恆久的ノ制度トシテ之ヲ立案シタ次第デアリマス  
本法ノ制定ニ依リマシテ、戰爭其ノ他ノ場合ニ於ケル保險制度ノ效用ニ遺憾ナカラシメ、以テ國民生活ノ安定並ニ貿易、海運

其ノ他國民經濟ノ運行ヲ圓滑ナラシムル上ニ、資スル所ガ少クナイデアラウト信ズル次第デアリマス、何卒十分御審議ノ上速ニ御協賛アラントヲ希望致シマス(拍手)  
○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、輸出資金及輸出品製造資金融通損失補償法案委員ニ併セ付託サレンコトヲ望ミマス  
○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)  
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ  
日程第八、有機合成事業法案ノ第一讀會ヲ開キマス——加藤商工政務次官

第八 有機合成事業法案(政府提出)

第一讀會

有機合成事業法案

第一條 本法ハ國防ノ整備及産業ノ發達ヲ期スル爲本邦ニ於ケル有機合成事業ノ確立ヲ圖ルコトヲ目的トス

第二條 本法ニ於テ有機合成事業ト稱スルハ勅令ヲ以テ定ムル有機合成品ノ製造ヲ爲ス事業ヲ謂フ

第三條 有機合成事業ヲ營メントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ但シ勅令ヲ以テ定ムル有機合成事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

本法ニ定ムルモノノ外前項ノ許可ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
第四條 前條ノ許可ヲ受クルコトヲ得ベキ者ハ帝國法令ニ依リ設立シタル株式會社ニシテ其ノ株主ノ半數以上、取締役ノ半數以上、資本ノ半數以上及議決權ノ過半數ガ帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ屬スルモノニ限ル

前項ノ法人ハ其ノ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半數以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノナルコトヲ要ス  
前條ノ許可ヲ受ケタル者前二項ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第五條 第三條ノ許可ヲ受ケタル會社(有機合成事業會社)ハ政府ノ指定スル期間内ニ其ノ事業ヲ開始スベシ

政府ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得  
有機合成事業會社前二項ノ期間内ニ其ノ事業ヲ開始セザルトキハ第三條ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第六條 有機合成事業會社其ノ設備ヲ増設シ又ハ變更セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

第七條 勅令ヲ以テ指定スル有機合成事業(指定有機合成事業)ヲ營ム有機合成事業會社政府ノ認可ヲ受ケ勅令ヲ以テ

定ムル期間内ニ於テ政府ノ指定スル時期迄ニ勅令ヲ以テ定ムル設備ヲ新設シ又ハ増設シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ新設シ又ハ増設シタル設備ヲ以テ營ム指定有機合成事業ニ付所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除ス

前項ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ同項ノ規定ヲ適用セズ但シ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ新設シ又ハ増設シタル設備ヲ以テ營ム指定有機合成事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ  
前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ有機合成事業會社其ノ設備ノ完成前其ノ一部ヲ以テ指定有機合成事業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除ス但シ同項ノ規定ニ依リ政府ノ指定シタル時期迄ニ設備ヲ完成セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除セラレタル有機合成事業會社ニハ同條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業稅ノ附加稅ヲ除クノ外其ノ免除セラレタル事業ニ對シ課稅スルコトヲ得ズ但シ

特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 第七條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人税及營業税ノ免除ヲ受クベキ事業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムベキ事實アル者ハ前事業者ガ同條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人税及營業税免除期間内ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ承繼ス

第十條 指定有機合成事業ヲ營ム有機合成事業會社其ノ事業ノ爲ニ必要ナル器具又ハ機械ヲ政府ノ認可ヲ受ケ輸入スルトキハ勅令ヲ以テ定ムル期間内勅令ノ定ムル所ニ依リ輸入税ヲ免除ス

第十一條 有機合成事業會社ノ營ム有機合成事業ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス

第十二條 政府ハ有機合成事業會社ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造シタル有機合成品ニ付豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第十三條 詐欺ノ行爲ヲ以テ前條ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ金額ヲ返還セシム

第十四條 有機合成事業會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用

ニ充ツル爲商法第二百九十七條ノ規定ニ依リ制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル純財産額ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ關スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ政府其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 有機合成事業會社其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止セントスルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケベシ

有機合成事業會社ノ合併又ハ解散ノ決議ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十六條 有機合成事業會社ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ政府ニ之ヲ届出ツベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

政府必要アリト認ムルトキハ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十七條 政府ハ有機合成事業會社ニ對シ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

政府ハ有機合成事業會社ニ對シ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル勅令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

政府ハ監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ有機合成事業會社ノ事務所、營業所、工場、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務若ハ財産ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第十八條 政府公益上必要アリト認ムルトキハ有機合成事業會社ニ對シ有機合成品ノ製造又ハ販賣ニ關シ有機合成品ノ需給ノ圓滑又ハ價格ノ公正ヲ圖ル爲ニ必要ナル勅令ヲ爲スコトヲ得

政府公益上必要アリト認ムルトキハ有機合成事業會社ニ對シ其ノ設備ノ擴張若ハ改良又ハ製造方法ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十九條 政府軍事上必要アリト認ムルトキハ有機合成事業會社ニ對シ有機合成品ノ製造ニ關スル特殊事項ノ研究又ハ特殊設備ノ施設其ノ他軍事上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第二十條 第十八條第二項又ハ前條ノ規定ニ依リ爲シタル勅令ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ勅令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協贊ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十一條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定スル有機合成品ノ製造ニ關スル研究又ハ試驗ヲ爲ス者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第十三條ノ規定ハ前項ノ獎勵金ニ之ヲ準用ス

第二十二條 勅令ヲ以テ定ムル有機合成品又ハ之ト同一若ハ類似ノ性状ヲ有シ且之ト同種ノ用途ヲ有スル物品ノ輸入ガ有機合成事業ノ確立ヲ妨グルノ虞アルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ當該物品ノ輸入ヲ制限スルコトヲ得

第二十三條 勅令ヲ以テ定ムル有機合成品又ハ之ト同一若ハ類似ノ性状ヲ有シ且之ト同種ノ用途ヲ有スル物品ノ輸入ニ因リ有機合成品ノ市價ノ低落ヲ來シ有機合成事業ノ確立ヲ妨グルノ虞アルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關稅調査委員會ノ議ヲ經テ期間及物品ヲ指定シ關稅定率別表輸入稅表ニ定ムル輸入税ノ外其ノ物品ノ價格ノ五割ニ相當スル金額以下ノ輸入税ヲ課スルコトヲ得

第二十四條 政府第三條若ハ第六條ノ許可、第十八條ノ規定ニ依リ勅令、第二十條ノ規定ニ依リ補償金額ノ決定又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ制限ヲ爲サントスルトキハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外有機合成事業委員會ノ議ヲ經ベシ

有機合成事業委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ政府ハ其ノ業務ヲ停止シ若ハ制限シ、第三條ノ許可ヲ取消シ又ハ取締役若ハ其ノ職務ヲ行フ監査役ノ解任ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ有機合成事業ヲ營ミタル者

二 第二十二條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ有機合成品又ハ之ノ同一ノ若ハ類似ノ性狀ヲ有シ且之ト同種ノ用途ヲ有スル物品ノ輸入ヲ爲シタル者

第二十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第六條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ設備ヲ増設シ又ハ變更シタル者

二 第十五條第一項ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止シタル者

三 第十六條第一項ノ規定ニ違反シ事業計畫ノ届出ヲ爲サズ又ハ届出デタル事業計畫ヲ實施セザル者

四 第十六條第二項ノ規定ニ依ル變更命令ニ違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタル者

五 第十八條又ハ第十九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第二十八條 第十七條第二項ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金

ニ處ス  
第二十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十七條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

二 第十七條第三項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

第三十條 當該官吏又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル個人又ハ法人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第二十六條乃至第二十八條又ハ第二十九條第一號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十二條 第二十六條乃至第二十八條及第二十九條第一號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法施行ノ際現ニ第三條ノ規定ニ依ル許

可ヲ受クベキ有機合成事業ヲ營ム者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

前項ノ者ニシテ本法施行ノ際現ニ第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ設備ノ増設又ハ變更ノ工事中ニ在ルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ有機合成事業ヲ營ム爲ニ本法施行ノ際現ニ其ノ設備ノ建設工事中ニ在ル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

前二項ノ規定ニ該當スル者ノ當該設備ニ關シテハ第七條及第八條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

〔政府委員加藤鐵五郎君登壇〕

○政府委員(加藤鐵五郎君) 最近ノ我國化學工業ノ躍進ハ目覺シイモノガアルノデアリマスガ、「アセチレン」瓦斯及ビ水性瓦斯原料ヲトスル有機合成事業ニ關スル技術ノ進歩ハ、特ニ見ルベキモノガアルノデアリマス、是等有機合成事業ハ、比較的近年ノ發達ニ係ルモノデアリマスガ、其ノ範圍ハ極メテ廣汎多岐ニ互ツテ居リ、將來化學工業ノ一重要部門トシテ、大イナル發展ヲ期待サレテ居ルノデアリマシテ、天然資源ニ乏シイ我國ニ於キマシテハ、是等有機合成事業ノ力ニ俟ツ所、甚ダ大イナルモノガアルノデアリマス、是等有機合成事業ノ中、「醋酸」「アセトン」、「ブタノール」、「メタノール」等ノ製造事業ハ、現在既ニ企業化ヲ見

テ居ルノデアリマシテ、事變以來著シク需要ノ増加ヲ來シマシタ爲ニ、急速ナル生産擴充ノ必要ニ迫ラレテ居ル實情ニアルノデアリマスルガ、未ダ其ノ基礎ハ十分確立致シテ居ルモノトハ申サレナイノデアリマス

又最近論議セラレテ居リマスル合成機燃料ノ原料トナル所ノ高級「アルコール」類、爆藥、染料、醫藥等ノ重要原料タル「ベンゾール」及ビ「トルオール」金屬、硝子、天然樹脂等ニ代リ、特殊ナ性質ヲ具備スル各種合成樹脂等ノ製造ニ付キマシテモ、略、其ノ基礎研究ヲ完成致シマシテ、近ク企業化ノ域ニ到ラントシテ居ルノデアリマシテ、更ニ今後「ナイロン」ノ如キ合成纖維其ノ他新ナル有機合成品ノ出現ガ、大イニ期待セラレル次第デアリマス

斯ノ如ク有機合成品ニハ、國防上、産業上必要不可缺ノ物資ガ多クアルノデアリマシテ、隨テ是等有機合成事業ノ振興ハ、直ニ刻下ノ急務デアルト考ヘラレルノデアリマス、而モ是等有機合成品ハ、其ノ製造工程ニ於キマシテ、相互ニ密接ナル關聯ヲ有シテ居リマスルガ故ニ、合成護謨、合成「トルオール」、合成纖維等、新シキ合成事業ノ企業化ヲ促進致シマスルト共ニ、醋酸、「アセトン」、「ブタノール」、「メタノール」等ノ合成事業ヲ併セマシテ、是ガ綜合的發達ヲ圖ルコトハ、極メテ重要且ツ緊切ナルモノアリト存ズル次第デアリマス

而シテ是等有機合成事業ニ於キマシテハ、



特ニ複雑高度ノ技術ガ必要デアリマシテ、合成技術、製造装置等ニ涉リ、幾多ノ研鑽ヲ要シマスルノミナラズ、是ガ企業化ニ當リマシテハ、多額ノ資金ヲ必要ト致シマスルノデ、少クトモ事業ノ初期ニ於キマシテハ、採算的ニ有利ナモノトハ認メラレナイノデアリマス、隨テ國家ガ十分ナ保護ヲ與フルト共ニ、必要ナル指導ト統制ヲ加ヘテ參ラナケレバ、到底所期ノ發達ハ望ミ得ナイト考ヘラレルノデアリマシテ、今回提案致シマシタ有機合成事業法案ハ、以上ノ趣旨ニ基キマシテ、是ガ立案ヲ致シタ次第デアリマス

本法律案ノ大要ハ、重要ト認メラルル有機合成事業ヲ許可事業ト致シ、無統制ナル企業ノ濫設ヲ防止シ、技術的ニモ企業的ニモ能力アル者ニ事業ヲ營マシムルト共ニ、所期ノ生産ヲ遂行セシムルコトニ努ムルコト、國家的ニ特ニ重要ナル有機合成品ニシテ、未ダ其ノ製造ノ企業化セラレザルモノニ對シテハ、豫算ノ範圍内ニ於テ製造試験費ノ補助、製造獎勵金ノ交付ヲ行ヒ得ル途ヲ開クト共ニ、是等ノ事業ニ付テハ税金ノ免除ヲ爲スコト、必要アル場合ニ於テハ、事業ノ確立ヲ妨グル虞アル物品ノ輸入ヲ制限シ、且ツ之ニ對シ關稅ノ増課ヲ爲シ得ルノ途ヲ開クト等デアリマス、何卒十分御審議ノ上御協賛アラントヲ希望致シマス

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、鑛業法中改正法律案外一件委員ニ併セ付託サレシコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

△異議ナシ(下呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

日程第九、自動車交通事業法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス——松野鐵道大臣

第九 自動車交通事業法中改正法律案 (政府提出) 第一讀會

自動車交通事業法中改正法律案 第一章中「自動車運輸事業」ヲ「旅客自動車運輸事業」ニ、「自動車運輸事業者」ヲ「旅客自動車運輸事業者」ニ改ム

第一條中「又ハ物品」ヲ削ル

第四條ノ二 旅客自動車運輸事業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ旅客ノ運送ニ附隨シテ物品ヲ運送スルコトヲ得

第八條 削除

第十條第一項第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 他ノ運送事業者ト設備ノ共用、連絡運輸、運賃協定其ノ他運輸ニ關スル協定ヲ爲サシムルコト

第十三條ノ二 旅客自動車運輸事業ノ管理ノ委託及受託ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ管理ノ受託ハ旅客自動車運輸事業者ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第一項ノ管理ノ委託及受託ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條第七號ヲ削ル

第十六條 第四條第一項、第四條ノ二、第七條、第十條(第一項第二號、第三號及第五號ヲ除ク)及第十一條乃至第十三條ノ規定ハ旅客自動車運輸事業ニ非ズシテ一般ノ需用ニ應ジ自動車ヲ使用シテ旅客ヲ運送スル事業(旅客自動車運送事業)ニ之ヲ準用ス但シ第四條第一項、第七條、第十條、第十二條及第十三條中主務大臣トアルハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監トス)トシ

第十條第一項第四號中路線トアルハ主タル事業區域トス

本法ニ規定スルモノノ外免許ノ失效、免許ノ全部又ハ一部ノ取消、事業ノ全部又ハ一部ノ停止其ノ他旅客自動車運送事業ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

旅客自動車運輸事業又ハ旅客自動車運送事業ニ非ズシテ自動車ニ依リ旅客ヲ運送スル事業ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二章ヲ第四章トシ以下順次第二章宛線下

第二章 貨物自動車運送事業

第十六條ノ二 本法ニ於テ貨物自動車運送事業トハ一般ノ需用ニ應ジ自動車ヲ使用シテ物品ヲ運送スル事業ヲ謂フ

第十六條ノ三 貨物自動車運送事業ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ運賃其ノ他ニ關スル事業計畫ヲ定メ主務大臣又ハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監トス)以下本章中之ニ同ジ)ノ免許ヲ受クベシ

第十六條ノ四 貨物自動車運送事業經營ノ免許ヲ受ケタル者ハ主務大臣又ハ地方長官ノ指定スル期間内ニ其ノ事業ヲ開始スベシ

天災其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ前項ノ期間内ニ事業ヲ開始スルコト能ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣又ハ地方長官ハ期間ヲ伸長スルコトヲ得

第十六條ノ五 事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業ノ爲ニ專用自動車道ヲ開設セントスル者ハ工事方法ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ工事方法ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ專用自動車道ノ工事方法ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十六條ノ六 主務大臣又ハ地方長官ハ公益上必要アリト認ムルトキハ貨物自動車運送事業者ニ對シ左ニ掲グル事項ヲ命ズルコトヲ得

一 運賃其ノ他ニ關スル事業計畫ヲ變更セシムルコト

二 他ノ運送事業者ト設備ノ共用、連絡運輸、運賃協定其ノ他運輸ニ關スル協定ヲ爲サシムルコト

三 全部又ハ一部ノ事業區間又ハ主タル事業區域ヲ共通ニスル數人ノ貨物自動車運送事業者アル場合ニ共同經營

營ヲ爲サシムルコト

四 物品ノ運送ニ關スル損害ニ付保險ニ付セシムルコト

五 前各號ノ外事業ノ改善ヲ爲サシムルコト

前項第二號及第三號ノ場合ニ於テ其實施方法又ハ各事業者ノ收得シ若ハ負擔スベキ金額ニ付協議調ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣又ハ地方長官之ヲ裁定ス

第十六條ノ七 政府ハ貨物自動車ノ整備ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ貨物自動車運送事業者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第十六條ノ八 第七條(專用自動車道ノ工事方法ノ變更ニ關スル部分ヲ除ク)、第九條、第十一條乃至第十四條及第十五條第六號ノ規定ハ貨物自動車運送事業ニ之ヲ準用ス但シ第七條、第十一條第三項ニ於テ準用スル第十條第二項及第十二條乃至第十四條中主務大臣トアルハ主務大臣又ハ地方長官トス

第十六條ノ九 貨物自動車運送事業ニ非ズシテ自動車ニ依リ物品ヲ運送スル事業及自動車ニ依リ物品運送ノ運送取扱業又ハ運送代辦業ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三章 自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會  
第十六條ノ十 旅客自動車運輸事業、旅客自動車運送事業又ハ貨物自動車運送

事業(以下自動車運送事業ト總稱ス)ノ事業者ハ各其ノ事業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲自動車運送事業組合ヲ設立スルコトヲ得但シ特別ノ事情アルトキハ二種以上ノ事業者ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

自動車運送事業組合ハ法人トス  
第十六條ノ十一 自動車運送事業組合ハ左ニ掲グル事業ヲ行フコトヲ得  
一 組合員ノ事業ニ必要ナル物ノ購入、共同設備ノ設置其ノ他組合員ノ事業ニ關スル共同施設  
二 運賃、運輸其ノ他組合員ノ事業ニ關スル統制

三 組合員ノ事業ニ關スル指導、研究及調査  
四 前各號ニ掲グルモノノ外組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業  
組合ハ前項ノ事業ノ外組合員ニ對シ其ノ事業ニ必要ナル資金ノ貸付、組合員ノ爲ニスル其ノ事業上ノ債務ノ保證又ハ組合員ノ貯金ノ受入ヲ併セ行フコトヲ得

第一項ニ掲グル組合ノ施設ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限り組合員ニ非ザル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得  
第十六條ノ十二 自動車運送事業組合ヲ設立セントスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項

ヲ定メ役員ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ但シ第十六條ノ十第一項但書ノ場合ニ於テハ各事業毎ニ組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス  
前項ノ同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ特別ノ事由アルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受テ創立總會ヲ開クコトヲ得  
第十六條ノ十三 主務大臣ハ自動車運送事業ノ統制ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ地區及組合員タル資格ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ自動車運送事業組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者主務大臣ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ主務大臣ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十六條ノ十四 自動車運送事業組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

第十六條ノ十五 第十六條ノ十三ノ規定ニ依ル自動車運送事業組合成立シタルトキハ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其ノ組合ノ組合員トス

第十六條ノ十六 自動車運送事業組合ノ定款ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ但シ第十六條ノ十三ノ規定ニ依ル自動車運送事業組合ニ在リテハ第六號乃至第九號ニ掲グル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

一 目的  
二 名稱  
三 地區  
四 事務所ノ所在地  
五 組合員タル資格ニ關スル規定  
六 組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定  
七 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法  
八 剩餘金ノ處分及損失分擔ニ關スル規定  
九 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法  
十 組合員ノ權利義務ニ關スル規定  
十一 事業及其ノ執行ニ關スル規定  
十二 役員ニ關スル規定  
十三 會議ニ關スル規定  
十四 會計ニ關スル規定  
十五 存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由  
第十六條ノ十七 自動車運送事業組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ  
理事ハ組合ノ業務ニ付組合ヲ代表ス  
監事ハ組合ノ業務ヲ監査ス  
理事ト監事トハ相兼スルコトヲ得ズ  
組合ト理事ト利益相反スル事項ニ付テハ監事組合ヲ代表ス  
理事缺ケタルトキハ監事其ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三月ヲ超ユルコトヲ得ズ

車運送事業組合ニ在リテハ第六號乃至第九號及第十五號、第十六條ノ二十第三項ノ規定ニ依リ自動車運送事業組合ニ在リテハ第七號乃至第九號ニ掲グル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

理事ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ主務大臣ハ假理事ヲ選任シ理事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得  
第十六條ノ十八 左ニ掲グル事項ハ總會ノ議決ヲ經ベシ

一 定款ノ變更

二 收支豫算及經費ノ分賦收入方法

三 財産目録、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分案ノ承認

四 第十六條ノ二十四ノ規程ノ制定及變更

五 自動車運送事業組合聯合會ノ設立、加入及脫退

六 役員ノ選任及解任

七 合併及解散

前項第一號、第四號、第六號及第七號ニ掲グル事項ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ  
第十六條ノ十九 組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第十六條ノ二十 組合員ハ出資一口以上ヲ有スベシ  
組合員ノ有スベキ出資口數ハ五十口ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ增加スルコトヲ得

第十六條ノ十一 第一項第一號及第二項ノ事業ヲ行ハザル組合ニ在リテハ第一

項ノ規定ニ拘ラズ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノト爲スコトヲ得

第十六條ノ二十一 第十六條ノ十三ノ規定ニ依リ自動車運送事業組合ハ左ニ掲グル事項ヲ爲スコトヲ得ズ

一 第十六條ノ十一 第一項第一號及第二項ノ事業ヲ行フコト

二 組合員ヲシテ出資ヲ爲サシムルコト

三 合併ヲ爲スコト

第十六條ノ二十二 自動車運送事業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ分賦シ過當金ヲ課スルコトヲ得

第十六條ノ二十三 組合員ノ責任ハ前條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス

自動車運送事業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハザル場合ニ於テ組合員ノ全員ガ其ノ出資額ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔スルモノト爲スコトヲ得

第十六條ノ二十四 自動車運送事業組合ハ組合員ノ事業ノ統制ヲ行フ場合ニ於テハ之ニ關スル規程ヲ定ムベシ

主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ前項ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十六條ノ二十五 主務大臣ハ自動車運送事業ノ經營ニ關スル弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲メ又ハ其ノ健全ナル發達ヲ

圖ル爲必要アリト認ムルトキハ自動車運送事業組合ニ對シ必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十六條ノ二十六 主務大臣ハ自動車運送事業ノ經營ニ關スル弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲メ又ハ其ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ自動車運送事業組合ノ組合員又ハ其ノ組合ノ組合員ニ非ズシテ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十六條ノ二十七 主務大臣ハ自動車運送事業ノ統制ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ第十六條ノ二十第三項ノ規定ニ依リ自動車運送事業組合ノ地區内ニ於テ其ノ組合ノ組合員ニ非ズシテ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ組合ニ加入スベキコトヲ命ズルコトヲ得但シ其ノ組合ノ組合員數ガ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ノ數ノ三分ノ二以上ナル場合ニ限ル

前項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキハ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其ノ組合ノ組合員トス

第一項ノ規定ニ依ル命令アリタル自動車運送事業組合ハ合併ヲ爲スコトヲ得ズ

第十六條ノ二十八 政府ハ自動車運送事業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト

認ムルトキハ自動車運送事業組合ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第十六條ノ二十九 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ自動車運送事業組合ニ對シ定款、收支豫算又ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十六條ノ三十 自動車運送事業組合ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲シタル處分若ハ定款ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 總會ノ決議ヲ取消

二 役員ノ解任

三 事業ノ停止

四 解散

第十六條ノ三十一 自動車運送事業組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ定款ヲ以テ總會ニ代ハルベキ總會ヲ設クルコトヲ得

總會ニ關スル規定ハ前項ノ總會ニ之ヲ準用ス但シ總會ニ於テハ合併及解散ノ決議ヲ爲スコトヲ得ズ

第十六條ノ三十二 自動車運送事業組合聯合會ハ所屬ノ自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會ノ共同ノ目的ヲ達スル爲メ之ヲ設立スルコトヲ得

自動車運送事業組合聯合會ハ自動車運

送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス

自動車運送事業組合聯合會ハ法人トス  
第十六條ノ三十三 自動車運送事業組合聯合會ヲ設立セントスルトキ又ハ第十六條ノ三十四ニ於テ準用スル第十六條ノ十三ノ規定ニ依リ其ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ各組合及聯合會ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十六條ノ三十四 自動車運送事業組合ニ關スル規定ハ第十六條ノ二十八及第十六條ノ三十一ノ規定ヲ除クノ外自動車運送事業組合聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第十六條ノ十一中組合員トアルハ所屬ノ組合、聯合會及組合員トス

第十六條ノ三十五 主務大臣ハ自動車運送事業ノ統制ノ徹底ヲ期スル爲メ特ニ必要アリト認ムルトキハ自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會ニ對シ他ノ自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會ト運賃ノ統制其ノ他事業ノ實施ニ關シ協定ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ運賃、事業ノ實施方法其ノ他必要ナル事項ニ付協議調ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第十六條ノ三十六 自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會ハ勅令ノ

定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス  
前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十六條ノ三十七 本法ニ規定スルモノノ外自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會ノ管理、合併、解散、清算其ノ他組合及聯合會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條ノ三十八 自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セズ

第十七條中「自動車運送事業者」ヲ「旅客自動車運送事業者又ハ貨物自動車運送事業者（事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業者ノ事業者ニ限ル以下本章中之ニ同ジ）」ニ改ム

第二十二條及第三十一條中「又ハ自動車運送事業者」ヲ「旅客自動車運送事業者又ハ貨物自動車運送事業者」ニ改ム

第二十七條中「其ノ事業ニ屬スル一般自動車道ノ全部又ハ一部ノ供用」ヲ「其ノ事業ノ全部又ハ一部」ニ改ム

第三十條第四號中「一般自動車道ノ供用」ヲ「事業」ニ改メ同條第五號ヲ削ル

第三十三條中「自動車道事業及自動車運送事業ノ兼營」ヲ「自動車道事業ト自動車運送事業トノ兼營」ニ改ム

第三十四條中「又ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム、以下同ジ）」ヲ「地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム以下之ニ同ジ）又ハ鐵道局長」ニ改ム

「自動車運送事業者」ヲ「自動車運送事業ノ事業者、自動車運送事業組合、自動車運送事業組合聯合會」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

監査員其ノ職務ヲ執行スル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯スベシ

第三十五條中「地方長官」ノ下ニ「又ハ鐵道局長」ヲ加フ

第三十六條中「又ハ地方長官」ヲ「地方長官又ハ鐵道局長」ニ改ム

第三十七條第一項中「自動車運送事業」ヲ「旅客自動車運送事業、事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業」ニ、第九條（會計ニ關スル規定ヲ除ク）、第十四條ノ二、第十六條ノ八ニ於テ準用スル場合ヲ含ム、第十六條ノ二、ニ、同條第二項中「自動車運送事業者」ヲ「旅客自動車運送事業者、事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業者」ニ、同條第三項中「自動車運送事業」ヲ經營シタル爲之ト路線ヲ共通ニスル自動車運送事業者ガ其ノ區間ニ付「旅客自動車運送事業者又ハ事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業者」ヲ經營シタル爲之ト路線ヲ共通ニスル旅客自動車運送事業者ガ其ノ部分ニ付「殘存路線」ヲ「殘存路線又ハ殘存事業區間」ニ改ム

第三十八條第一項ヲ左ノ如ク改メ同條第二項中「自動車運送事業及自動車道事業」ヲ「第一項ニ掲グル事業」ニ改ム

旅客自動車運送事業、旅客自動車運送事業、貨物自動車運送事業又ハ自動車道事業ヲ營ム株式会社ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲旅客自動車運送事業、事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業又ハ自動車道事業ニ在リテハ其ノ事業ノ全部又ハ一部ニ付、旅客自動車運送事業又ハ事業區間ヲ定メザル貨物自動車運送事業ニ在リテハ其ノ事業ノ全部ニ付自動車交通事業財團ヲ設定スルコトヲ得

前項ニ掲グル株式会社自動車交通事業財團ヲ設定セントスルトキハ當該株式會社ニ屬シ且其ノ事業ニ關スル自動車ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ登録ヲ受クベシ自動車交通事業財團設定後新ニ其ノ財團ノ所有者ニ屬シ又ハ其ノ事業ニ關スルニ至リタル自動車ニ付亦同ジ

第三十九條中「同一自動車運送事業者又ハ同一自動車道事業者」ヲ「同一旅客自動車運送事業者、旅客自動車運送事業者、貨物自動車運送事業者又ハ自動車道事業者」ニ、「自動車運送事業者」ノ爲登録ヲ受ケタル」ヲ「前條第二項ノ規定ニ依リ登録ヲ受ケタル」ニ改ム

第四十條中「自動車運送事業者」ヲ削ル

第四十一條 第三十八條第一項ノ規定ニ依リ事業ノ一部ニ付自動車交通事業財團ヲ設定スル場合ニ於テハ旅客自動車運送事業ニ在リテハ獨立ノ路線ニ付、事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業ニ在リテハ獨立ノ事業區間ニ付、自動車道事業ニ在リテハ獨立ノ一般自動車

「自動車運送事業者」ヲ「自動車運送事業ノ事業者、自動車運送事業組合、自動車運送事業組合聯合會」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

監査員其ノ職務ヲ執行スル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯スベシ

第三十五條中「地方長官」ノ下ニ「又ハ鐵道局長」ヲ加フ

第三十六條中「又ハ地方長官」ヲ「地方長官又ハ鐵道局長」ニ改ム

第三十七條第一項中「自動車運送事業」ヲ「旅客自動車運送事業、事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業」ニ、第九條（會計ニ關スル規定ヲ除ク）、第十四條ノ二、第十六條ノ八ニ於テ準用スル場合ヲ含ム、第十六條ノ二、ニ、同條第二項中「自動車運送事業者」ヲ「旅客自動車運送事業者、事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業者」ニ、同條第三項中「自動車運送事業」ヲ經營シタル爲之ト路線ヲ共通ニスル自動車運送事業者ガ其ノ區間ニ付「旅客自動車運送事業者又ハ事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業者」ヲ經營シタル爲之ト路線ヲ共通ニスル旅客自動車運送事業者ガ其ノ部分ニ付「殘存路線」ヲ「殘存路線又ハ殘存事業區間」ニ改ム

第三十八條第一項ヲ左ノ如ク改メ同條第二項中「自動車運送事業及自動車道事業」ヲ「第一項ニ掲グル事業」ニ改ム

旅客自動車運送事業、旅客自動車運送事業、貨物自動車運送事業又ハ自動車道事業ヲ營ム株式会社ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲旅客自動車運送事業、事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業又ハ自動車道事業ニ在リテハ其ノ事業ノ全部又ハ一部ニ付、旅客自動車運送事業又ハ事業區間ヲ定メザル貨物自動車運送事業ニ在リテハ其ノ事業ノ全部ニ付自動車交通事業財團ヲ設定スルコトヲ得

前項ニ掲グル株式会社自動車交通事業財團ヲ設定セントスルトキハ當該株式會社ニ屬シ且其ノ事業ニ關スル自動車ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ登録ヲ受クベシ自動車交通事業財團設定後新ニ其ノ財團ノ所有者ニ屬シ又ハ其ノ事業ニ關スルニ至リタル自動車ニ付亦同ジ

第三十九條中「同一自動車運送事業者又ハ同一自動車道事業者」ヲ「同一旅客自動車運送事業者、旅客自動車運送事業者、貨物自動車運送事業者又ハ自動車道事業者」ニ、「自動車運送事業者」ノ爲登録ヲ受ケタル」ヲ「前條第二項ノ規定ニ依リ登録ヲ受ケタル」ニ改ム

第四十條中「自動車運送事業者」ヲ削ル

「自動車運送事業者」ヲ「自動車運送事業ノ事業者、自動車運送事業組合、自動車運送事業組合聯合會」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ  
監査員其ノ職務ヲ執行スル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯スベシ  
第三十五條中「地方長官」ノ下ニ「又ハ鐵道局長」ヲ加フ  
第三十六條中「又ハ地方長官」ヲ「地方長官又ハ鐵道局長」ニ改ム  
第三十七條第一項中「自動車運送事業」ヲ「旅客自動車運送事業、事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業」ニ、第九條（會計ニ關スル規定ヲ除ク）、第十四條ノ二、第十六條ノ八ニ於テ準用スル場合ヲ含ム、第十六條ノ二、ニ、同條第二項中「自動車運送事業者」ヲ「旅客自動車運送事業者、事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業者」ニ、同條第三項中「自動車運送事業」ヲ經營シタル爲之ト路線ヲ共通ニスル自動車運送事業者ガ其ノ區間ニ付「旅客自動車運送事業者又ハ事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業者」ヲ經營シタル爲之ト路線ヲ共通ニスル旅客自動車運送事業者ガ其ノ部分ニ付「殘存路線」ヲ「殘存路線又ハ殘存事業區間」ニ改ム  
第三十八條第一項ヲ左ノ如ク改メ同條第二項中「自動車運送事業及自動車道事業」ヲ「第一項ニ掲グル事業」ニ改ム  
旅客自動車運送事業、旅客自動車運送事業、貨物自動車運送事業又ハ自動車道事業ヲ營ム株式会社ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲旅客自動車運送事業、事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業又ハ自動車道事業ニ在リテハ其ノ事業ノ全部又ハ一部ニ付、旅客自動車運送事業又ハ事業區間ヲ定メザル貨物自動車運送事業ニ在リテハ其ノ事業ノ全部ニ付自動車交通事業財團ヲ設定スルコトヲ得  
前項ニ掲グル株式会社自動車交通事業財團ヲ設定セントスルトキハ當該株式會社ニ屬シ且其ノ事業ニ關スル自動車ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ登録ヲ受クベシ自動車交通事業財團設定後新ニ其ノ財團ノ所有者ニ屬シ又ハ其ノ事業ニ關スルニ至リタル自動車ニ付亦同ジ  
第三十九條中「同一自動車運送事業者又ハ同一自動車道事業者」ヲ「同一旅客自動車運送事業者、旅客自動車運送事業者、貨物自動車運送事業者又ハ自動車道事業者」ニ、「自動車運送事業者」ノ爲登録ヲ受ケタル」ヲ「前條第二項ノ規定ニ依リ登録ヲ受ケタル」ニ改ム  
第四十條中「自動車運送事業者」ヲ削ル  
第四十一條 第三十八條第一項ノ規定ニ依リ事業ノ一部ニ付自動車交通事業財團ヲ設定スル場合ニ於テハ旅客自動車運送事業ニ在リテハ獨立ノ路線ニ付、事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業ニ在リテハ獨立ノ事業區間ニ付、自動車道事業ニ在リテハ獨立ノ一般自動車

道ニ付之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十二條 同一事業者が第三十八條第一項ニ掲グル事業ノ二以上ヲ兼營スル

場合ニ於テハ此等ノ事業ノ中ニ以上ノ事業ニ關スルモノヲ合シテ一個ノ自動車交通事業財團ヲ設定スルコトヲ得

但シ此等ノ事業ノ何レカニ付自動車交通事業財團ノ設定アリタル後ハ其ノ事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ事業者ガ自動車道事業ト其ノ他ノ事業トニ付各別ニ自動車交通事業財團ヲ設定スル場合ニハ一般自動車道ノ敷地其ノ他專ラ自動車道事業ニ關スルモノハ他ノ事業ノ爲ノ自動車交通事業財團ニ屬スルコトナシ

第四十四條 第四十八條、第五十條及第五十一條中「自動車運輸事業又ハ自動車道事業」ヲ「第三十八條第一項ニ掲グル事業」ニ改ム

第四十七條第三項第二號中「自動車運輸事業」ヲ「旅客自動車運輸事業」ニ改メ同號ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ

二ノ二 事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業ノ爲ノ自動車交通事業財團ニ在リテハ其ノ事業ノ行ハルル事業區間ノ表示

二ノ三 旅客自動車運送事業又ハ事業區間ヲ定メザル貨物自動車運送事業ノ爲ノ自動車交通事業財團ニ在リテハ其ノ事業ノ行ハルル主タル事業區域ノ表示

第四十九條第二項中「自動車運輸事業又

ハ自動車道事業」ヲ「第三十八條第一項ニ掲グル事業」ニ改メ「主務大臣」ノ下ニ「又ハ地方長官」ヲ加フ

第五十二條中「自動車運輸事業者」ヲ「旅客自動車運輸事業者、旅客自動車運送事業者、貨物自動車運送事業者」ニ「本法ニ基キテ爲シタル處分」ヲ「本法ニ基キテ爲シタル處分(第十六條ノ十三第一項ノ規定ニ基キテ爲シタル處分ヲ除ク)」ニ、「第八條ノ規定ニ依ル登録ヲ受ケザル自動車ヲ自動車運輸事業ノ用ニ供シタルトキ又ハ自動車ニ付」ヲ「第三十八條第二項ノ規定ニ依ル自動車ノ登録ニ付」ニ改ム

第五十三條中「自動車運輸事業者」ヲ「旅客自動車運輸事業者、旅客自動車運送事業者、貨物自動車運送事業者」ニ改ム

第五十五條中「自動車運輸事業」ヲ「旅客自動車運輸事業」ニ改ム

第五十八條 自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業聯合會ノ理事、監事、假理事又ハ清算人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第五十九條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付シ、提供シ又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得

第六十條 左ノ場合ニ於テハ自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業聯合會ノ理事、監事、假理事又ハ清算人ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 行政官廳又ハ總會若ハ總代會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二 本法ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告ヲ差出サズ又ハ監査員ノ監査ヲ妨ゲ其ノ他行政官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハザルトキ

三 法令又ハ定款ニ違反シテ剩餘金ヲ處分シタルトキ

四 組合又ハ聯合會ノ目的ニ非ザル營利事業ヲ爲シタルトキ

五 第十六條ノ三十六ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

六 第十六條ノ三十七ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ違反シタルトキ

附 則

第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 從前ノ規定又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テ自動車交通事業財團登記簿ニ登記セラレタル事項ニ付變更アリタルトキハ登記

所ハ主務大臣ノ囑託ニ依リテ變更ノ登記ヲ爲スベシ

第三條 本法施行ノ際現ニ存スル商業組合又ハ商業聯合會ニシテ從前ノ第一條ノ自動車運輸事業者又ハ從前ノ第十六條ノ運送事業者ノ事業者ノミヲ其ノ組合員又ハ其ノ所屬ノ組合員若ハ其ノ所屬ノ聯合會ヲ組織スル組合員トスルモノハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依ル自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業聯合會ト爲リタルモノトス

第四條 本法施行前從前ノ規定ニ依リテ處罰スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第五條 小運送業法第一條中「鐵道、軌道若ハ自動車運輸事業」ヲ「鐵道若ハ軌道」ニ、「鐵道、軌道又ハ自動車運輸事業」ヲ「鐵道又ハ軌道」ニ改ム

第六條 陸上交通事業調整法第一條中「自動車運輸事業」ヲ「旅客自動車運輸事業」ニ改ム

第七條 帝國鐵道會計法中左ノ通改正ス

第三條中「又ハ自動車運輸事業」ヲ「旅客自動車運輸事業又ハ事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業」ニ改ム

第七條中「及地方鐵道補助金」ヲ「地方鐵道補助金及自動車運送事業補助金」ニ改ム

第八條 商工組合中央金庫法中左ノ通改正

正ス

第一條中「及貿易組合聯合會」ヲ「貿易組合聯合會、自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會」ニ改ム

第三條第一項中「貿易組合聯合會」ノ下ニ「自動車運送事業組合聯合會」ヲ加ヘ同條第二項及第四項中「又ハ貿易組合聯合會」ヲ「貿易組合聯合會又ハ自動車運送事業組合聯合會」ニ改ム

第七條及第二十九條中「又ハ貿易組合聯合會」ヲ「貿易組合聯合會、自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會」ニ改ム

第二十七條中「及貿易組合」ヲ「貿易組合及自動車運送事業組合」ニ改ム

第二十八條中「貿易組合聯合會」ノ下ニ「自動車運送事業組合、自動車運送事業組合聯合會」ヲ加フ

第九條 登録稅法第十九條中「又ハ肥料製造業組合」ヲ「肥料製造業組合、自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會」ニ、「又ハ重要肥料業統制法」ヲ「重要肥料業統制法又ハ自動車交通事業法」ニ改ム

第十條 印紙稅法第四條中「又ハ貿易組合聯合會」ヲ「貿易組合聯合會、自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會」ニ改ム

第十一條 特別法人稅中左ノ通改正ス  
第二條中第七號ヲ第八號トシ第八號ヲ第九號トシ第六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

第七 自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會(所屬ノ組合員、組合又ハ聯合會ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)  
第六條中「及蠶絲共同施設組合」ヲ「蠶絲共同施設組合及自動車運送事業組合」ニ改ム  
○國務大臣(松野鶴平君) 只今議題トナリマシタ自動車交通事業法中改正法律案提出ノ理由ヲ申上ゲマス、自動車ニ依ツテ旅客貨物ヲ運送スル事業ガ、産業上將又國民生活上、極メテ重要ナ役割ヲ有シテ居リマスコトハ、改メテ申上ゲルマデモナイ所デアリマスガ、事變勃發以來、或ハ生産力擴充、或ハ物價政策、更ニ又國防強化等ノ見地カラ致シマシテ、一層其ノ重要性ヲ加ヘテ参リマシテ、自動車運送事業、就中貨物自動車運送事業ノ發達ヲ圖ルコトハ、目下ノ急務デアルト信ズルノデアリマス、仍テ現行自動車交通事業法ヲ一部改正致シマシテ、自動車運送事業ノ健全ナル發達ヲ促進シタイト考ヘマシテ、本改正法律案ヲ提出シタ次第デアリマス

本改正法律案ノ要點ニ付テ申上ゲマスルニ、第一ニ貨物運送事業ノ區分ヲ實情ニ合フヤウニ改メタノデアリマス、次ニ自動車運送事業組合ノ制度ヲ新ニ設ケマシテ、之ニ依リ事業者ノ利益ノ増進並ニ運賃輸送等ノ適正ヲ圖ラシムルコトトシタノデアリマス、第三ニハ自動車交通事業抵當ノ制度ヲ擴張シテ、自動車運送事業ノ全般ニ及ボスコトト致シマシタ、第四ニ貨物自動車ノ整備ヲ圖ル爲、貨物自動車運送事業者ニ對シ補助金ヲ交付シ得ルコトト致シタノデアリマス、以上申上ゲマシタル事項ノ外、現行法ノ不備トスル諸點ニ付キ改正スルコトト致シマシテ、此ノ改正法律案ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協贊アラントラ希望致ス次第デアリマス  
○議長(小山松壽君) 質疑ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許シマス——山田清君  
(山田清君登壇)  
○山田清君 私ノ質問ハ出來ルダケ縮メマシテ、大體四ツニ纏メテ、其ノ要點ヲ御伺致シタイト考ヘマス  
第一點ハ、是ハ總理大臣若クハ企畫院總裁カラ御答ヲ願ヒタイ、自動車事業ノ重要性ニ鑑ミ、行政機構ノ統一ヲ爲ス考ガアルカ、第二點ハ、是ハ鐵道大臣及ビ商工大臣兩方面カラ御答ヲ願ヒタイ、自動車自給自足ノ根本方針ニ付デアリマス  
(議長退席、副議長著席)  
第三點ハ、是ハ商工大臣ニ御尋フスルト共ニ、更ニ鐵道大臣カラ御答ガ願ヘルノデハナイカト思フ、現在ノ國情ニ對シ自動車事業ノ應急對策如何、第四點ハ、是ハ鐵道大臣、本法案ニ依ル統制ハ商業組合統制カ或ハ其ノ他ノ組合統制カ、其ノ運用ニ當ツテ官僚獨善ニ陥ラナイ確信ガアルカ、此ノ四點デアリマス  
自動車事業ハ只今鐵道大臣ヨリ御説明ニ相成リマシタ通り、國防上ノ點カラ、又産業上ノ點カラ、運輸ノ各方面ノ點カラ見マ

シテ、營利事業デナイト云フコトハ、是ハハツキリ致シテ居リマス、即チ公益事業トシテ極メテ重要性ヲ持ツテ居ルノデアルカラ、國家トシテハ是ガ發達ニハ保護助長ノ政策ヲ執ルノガ本當デアアル、然ルニ保護助長政策ニ對シテハ甚ダ徹底シテ居ラナイ、ノミナラズ今日マデ自動車事業ノ發達ニ關シテハ、寧ロソレヲ阻碍スベキ幾多ノ惡イ條件ノミガアツタ、例ヘバ本事業ノ主ナル燃料、車輛其ノ他部分品等ハ、悉ク之ヲ輸入ニ仰グノ現狀デアアル、自動車國策ヲ樹立シテ自給自足ヲ圖ルコトハ、極メテ是ハ困難ナ仕事デアアル、隨テ是ガ重要性ヲ考ヘテ保護助長政策ヲ執ラネバナラナイガ、此ノ方針ヲ確立シテ國策ヲ樹立スルニハ、ドウ云フ觀點カラ考ヘテ見タラ宜シイカ、此ノ點ニ於テ第一ニ考ヘルコトハ、現在ノ行政ノ狀態デハ果シテドウデアアルカ、洵ニ是ハ區々雜多デアアル、譬ヘテ申シマスルナラバ自動車ノ製造事業ニ關シテハ商工省ガ扱ツテ居ル、交通其ノ他ノ取締ニ付テハ內務省及ビ地方廳ガ扱ツテ居ル、稅制問題ハ勿論大藏省デアアル、運輸事業ノ監督ハ鐵道省デアアル、殊ニ各府縣ノ警察ニ委任セラレテ居ル所ノ運送事業ノ大部分ノ取締ニ於テハ、取締偏重デアツテ、保護助長ハ殆ド見ルベキモノガナイト云フ實情デアアル、殊ニ其ノ取締ノ細則ノ如キハ、各地方勝手バラバラデアアル、又稅金ノ如キモ、中央地方ヲ通ジテ不當且ツ不公平デアアルコトハ贅言ヲ要シナイ、即チアノ二万圓モ三万圓モスル自動車デモ、使切ツタ古クナツタ二



三百圓ノ自動車デモ、等シク物件稅トシテ馬力數ニ依ツテ之ヲ取扱フト云フヤウナコトハ、改制ノ根本ニ於テ不當且ツ不公平デアルト云フ證據デアル、更ニ又運轉手ニ對スル取締ノ如キハ苛酷ヲ極メテ居ル、殊ニ運轉手試驗制度ノ問題ニ付テハ、必要ナラザルコトヲ試驗シテ居ツテ、今回事變ガ始ツテ以來實ニ國家トシテハ大ナル損失ヲ與ヘテ居ルコトハ、第七十三帝國議會ニ、當議場ニ於テ私ガ議論ヲ致シタ、貴重ナル車ヲ持ツテ行ツテ戰ヲヤツテ、快速部隊ノ運轉手ガ砲彈ニ墮レル、外國ノ如キハ國民悉ク運轉ガ出來ルガ、日本ハ運轉手試驗制度ガ非常ニ嚴重デアルカラ中々運轉手ニナレナイ、隨テ軍トシテハ兵隊トシテ應召シタ者ヲ、極メテ短期間ニ養成スルノデアルカラ、十分使ヘル車ヲ使フコトガ出來ナクテ棄テテ行ツテ、敵軍ノ利用ニ任セルト云フコトハ、物資愛護ノ上カラ見テ、又國軍ノ作戰用兵ノ上カラ考ヘテ見テ、運轉手ノ試驗制度ノ改正ノ如キヲ、現狀ノ儘デ保護助長ノ政策ヲ執ラナイト云フコトハ、國家國防上大ナル影響ガアルト云フコトハ固ヨリ明デアアル(拍手)是ハ一ツノ例デアアル、殊ニ今次事變以來自動車燃料ハ、從來ノ五分ノ一強ニ規正ヲ行ハレテ居ル、此ノ尊イ車ヲ持ツテ居ツテモ、一往復致シマスルト、既ニ運行ガ出來ナクナルト云フヤウナ實情デアアル、諸物資ハ益々窮乏致シテ、此ノ儘デハ自動車ハ國內ニ於テ既ニ死ニ瀕スルト云フ實情ニ著シテ居ルガ、只今政府ノ提案ニナリマシタル自動車事業ニ付テ、保護助長

ト云フ細則ノ御話ガアリマシタガ、是ハ天井カラ目藥ヲ垂レルヤウナモノデアツテ、根本的ニ此ノ保護助長政策、國策ヲ樹立スルト云フコトニ付テハ、深く思フ致サネバナラヌト痛感ヲ致シテ居ル次第デアリ、今回提出ノ本法案ハ如上ノ所見ニ立ツテ根本的ニ國策遂行ノ觀點カラドウ云フ狙ヒ所ヲ持ツテ居ルノデアルカ、即チ政府ハ速ニ自動車事業ニ關スル行政機構ノ綜合統制ヲ單一化シテ、是ガ完成ヲ期シテ、或ハ交通省ノ設置ヲ速ニ實現スルカ、若シ已ムヲ得ズンバ改善ノ策トシテ自動車局ヲ作ツテ、サウシテ是ガ根本的對策ヲ爲スコトガ急務デアルト思フガ、此ノ點ニ付テ行政機構ノ統一ヲ爲スコトガアルカドウカ、更ニ本法案ニ於テ、只今申述ベマシタ私ノ考ヘテ居ル目的達成ノ爲ニ、自動車關係全部ノ統制ヲ企圖スル前提ト爲スベキデアルカドウカト云フコトヲ、是ハ鐵道大臣ニ御伺ヲ致ス次第デアリマス

第二點ハ、現在マデ日本デハ自動車ガ國內ニ於テ自給自足ノ程度マデ製造能力ハナカツタ、殊ニ事變發生以來外國カラハ車ガ來ナイ、而モ自動車ノ負フ任務ハ極メテ重要デアリ、此ノ場合ニ處シテ自動車ノ自給自足ノ大方針ニ對シテ、製造方面ニ付テハドウ云フ抱負經綸ヲ持ツテ居ルカ、是ハ商工大臣カラ御答ヲ願ヒタイノデアリマスガ、第一ニハ規格ノ統一ノ必要ガアル、第二ニハ澤山ノ良イ車ヲ十分國內ニ於テ製造スルノニハ、現在ノ日本ノ國內ノ自動車製造會社ノ方針デ宜イノデアルカドウカ、小會社

ガ分立シテ其ノ儘ヤツテ宜イノデアルカドウカ、規格ヲ統一スルト云フ點ニ付テハ、國內ニ於テ散在スル所ノ各會社ヲ合同シテ、一ツノ大ナル國策ノ會社ヲ樹立シテ、日本ノ自動車ノ規格方法等ヲ、日本ノ國情ニ照シタル日本國風ノ自動車ヲ確立スルコトガ必要デアリ、例ヘバ日本ノ國ハ如上ニ申上ラシク、道路ハ狹隘デアリ、殊ニ從來ノ實績ニ徴シテ一・七人ダケガ平均ノ自動車ニ乗ル人ノ數字デアリ、デアリマスカラ、ソノナ範棒ナデカイ車ヲ此ノ現狀ノ儘デ置クコトガ宜イデアアルカドウカ、性能、機械其ノ他ノ點ニ於テ無駄ヲ排除シテ、國情ニ即シタル自動車ヲ確實ニ確保スル爲ニ此ノ儘デ宜シイノデアアルカドウカ、之ニ對スル根本對策如何ト云フ問題デアリマス

第三ハ、現在ノ國情ニ於テ自動車事業ハ、モウ是ハ死ニ瀕シテ居ル、モウ保護助長ノ國策ヲ執ルニハ執ツテ居ルガ、是デハ死ス、是ガ應急對策ハドウスル、例ヘバ燃料ガナイカラ薪炭自動車ヲ政府ノ獎勵ニ依ツテ九千圓附ケタ、三百圓ノ補助金ヲ出シテ貰ウタ、併シ取付ケニ對シテハ千圓位掛ル、四千萬圓ノ薪炭ヲ必要トスル、此ノ薪炭ニ對シテ農林省ハ配給ノ圓滑ヲ期スルト言ウタガ、一向配給ノ圓滑ガナイ、薪炭自動車ノ發生爐ヲ取付ケルト云フコトモ出來ナイ、「カーバイト」ヲ獎勵シテモ「カーバイト」ノ資源ガ出來ナイ、天然瓦斯モ亦出來ナイ、斯ウ云フ狀態ニ對シテドウナルノデアアルカ、「ガソリン」ハ五分ノ一強ニ規正ヲサレテ、

一往復スレバモウ運輸ガ出來ナイ、税金ハ從來ノ儘ノ範棒ニ高イ、而モ不當、不衡平デアリ、取締ハ極メテ嚴重デ親心ガナイ、斯ウ云フ狀態デアリ、是デ一體ドウナルノデアアルカ、此ノ點ニ付テ第一ニ應急對策トシテ薪炭瓦斯發生爐ノ補助金ヲ増額スル考ガアルカ、第二點ハ薪炭ノ圓滑ナル配給ヲ爲ス確信ガアルカ、第三ハ「ガソリン」規正ヲ現在ノ儘以上ニ規正シナイカ、是レ以上規正スレバ死スガ、此ノ儘デ居ルカドウカ、若シ規正ヲスルト云フノデアレバ、自動車全體ヲモツト少イモノニシテ、今ノ儘デハ實ニ立派ナ車ガ無駄ニ動イテ、一日ノ中一時間カ二時間動ケバモウナクナツテシマツテ動ケナクナルノデアアルガ、之ヲドウスルノデアアルカ、又「カーバイト」其ノ他ノ代用燃料ノ保護助長ヲドウシテ行クノデアアルカ、運轉者試驗制度ニ付テ根本的ニドウスルノデアアルカ、斯フ云フ問題ニ付テ現狀ニ即シタル所ノ應急對策ヲ爲サナケレバ、鐵道省御示ノ國策ニ順應シタルモノハ、ソレダケデアリハ到底出來得ナイト考ヘテ居ルガ、應急對策ニ付テドウダ、斯ウ云フコトヲ承リタイ

第四點ハ、本法案ハ其ノ内容ハ主トシテ貨物自動車事業ト旅客自動車ニ大別シテ、特ニ組合ニ對スル所ノ規定ガ其ノ大部分デアリ、是ガ運用ニ對シテ全國ノ自動車業者ヲ壓迫シテ無用ノ統制ヲ期スルコトガナイカドウカ、此ノ運用ニ當ツテ如何ナル心構ヘヲ持ツテ居ルカト云フコトヲ承リタイ、從來ノ實績ニ徴シテ見マスルト、鐵道省ハ一方ニハ監督權ヲ持チ、一方ニハ商賣ヲ營

業致シテ居ル、營業ト監督ト兩方面ヲ持ツテ居ル、デアリマスカラ從來ハ國內到ル處ニ鐵道省ト業者ト摩擦軋轢ノ甚シイモノガアツテ、又現在千葉縣ノ一角ニアリツツアル、此ノ本法案ノ提出ニ當ツテ、全國業者ハ監督權ト營業ヲ持ツ鐵道省ガ商工省カラ一ツノ引繼ヲ以テ鐵道省デ統制シテ行クト云フノデアルガ、ドウ云フ統制ノ方法ヲヤラウトスルノデアルカ、商業組合ヲ中心トシテ統制スルノデアルカ、或ハ又從來既設ノ政治的組合ノ組合ヲモ其ノ中ニ入レテ統制ヲシヨウトスルノデアルカ、更ニ又松野鐵道大臣ハ能ク御承知ノ筈デアルガ、日本通運株式會社ノ如ク半官半民ノ會社ヲ作ツテ、洵ニ方針ハ良イヤウデアリマスルガ、其ノ重役ハ悉ク古手官吏ヲ連レテ來テ、官僚獨善ヲヤツテ居ルガ、將來ノ組合統制ニ當ツテ業者ノ極メテ心配致シテ居ル問題ハ、又官僚獨善ヲ此ノ機會ニヤラントスル傾向ガアルト心配致シテ居ルガ、苦勞人デアアル鐵道大臣ハ左様ナコトヲシマイト考ヘテ居リマスルガ、之ニ對スル肚ヲ打明ケテノ御説明ヲ願フコトガ出來レバ結構デアアル、其ノ他詳細ノ問題ニ付テハ委員會ニ讓リマシテ、以上四點ヲ以テ私ノ質問ヲ終リマス（拍手）

〔國務大臣松野鶴平君登壇〕  
 ○國務大臣（松野鶴平君） 山田君ノ質疑ニ御答申上ゲマス、自動車運送業ガ極メテ重要ナ役割ヲ持ツコトニナリマシテ、段々之ノ統制發達ヲ助長シタイ、此ノ意味ニ於テ本改正案ヲ提出シマシヤウナ趣意デアリマス、

先ツ第一ニ組合法デアリマスガ、現在御承知ノ通り商工省ニ於ケル商業組合法ニ依ツテ組合ガ認可サレテ居ルノデアリマス、今度本法ヲ提出致シマス當時ニ於キマシテ、關係法律デアリマス爲ニ、商工省ノ諒解ノ下ニ將來ハ本法案ノ下ニ於ケル所謂鐵道省關係ノ組合ニ依ツテ之ヲ監督スル、今マデ商工省ニアツタ組合ハ之ヲ認メマスガ、之ヲ監督スルノモ鐵道省デアリマシテ、隨テ將來ハ鐵道省デ統一シタル認可ヲスル、斯ウ云フコトニナリマシテ、是ハ一面カラ申シマスト所謂機構改革ハ致シマセスケレドモ、實際ノ運用ノ上ニ於キマシテ機構改革ト同様ナ意味ニ於ケル效果ヲ舉ゲル、斯ウ云フコトノ出來ルマア第一歩ニ入ツタ、斯ウ考ヘテ居リマス

ソレカラ此ノ組合ヲ監督スルニ對シテモ、統制、即チ監督上ノ統制、要スルニ監督ヲ官僚的ニヤルカドウカ、斯ウ云フ意味デアリマスガ、是ハ主トシテ自治的ニヤリマシテ、決シテ組合ヲ壓迫シタリ何カシナイヤウニ、十分ノ監督ノ下ニ自然ニ自治的ニ組合ノ發達スルガ如ク指導シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス

ソレカラ色々ノ意味ニ於キマシテ目下ノ燃料ノ不足其ノ他カラ申シマシテ、地方廳ニ於キマシテ、或ハ燃料問題カラ統制制限ニ對シマシテ多少ノ苦心ヲ加ヘテ居ツテ、業者ニ對シテ不便ヲ與ヘテ居タカモ分ラナイト考ヘマススケレドモ、斯ウ云フコトハ、即チ組合ヲ作ラセルニ致シマシテモ、地形的ニ成ベク無理ノナイヤウニ、サウシテ斯

ウ云フ問題ニ對シマシテハ出來ルダケ無理ヲ生ゼナイヤウニ指導シテ行キタイト考ヘテ居ル次第デアリマス（拍手）

〔政府委員加藤鐵五郎君登壇〕  
 ○政府委員（加藤鐵五郎君） 山田君ヨリ自動車ニ對シテモ自給自足ノ方針ヲ執ラナケレバナラヌガ、政府ハドウ考ヘルカト云フ御質疑ノヤウデアツタト思ヒマス、自動車ノ政策ハ山田君ノ御説ノ如ク自給自足ノ方針ヲ執ラナケレバナラヌノデアリマシテ、先年政府ハ「トヨタ」、日産、兩會社ヲ許可會社ト致シマシテ、國家ガ御承知ノ如ク之ニ多大ノ援助、助力ヲ致シテ居ルノ、デゴザイマス、今後ト雖モ此ノ方針ニ依リマシテ、成ベク外國車ヲ入レナイヤウニ、只今モ入ツテ居リマセヌガ、今後ト雖モ内國產ヲ以テ補フヤウニ努メタイト思ウテ居ル次第デアリマス、而シテ、山田君ハ外ノ許可シナイ弱小ノ會社ガアルガ、之ヲ統一スル考ハナイカト云フ御質疑デアツタノ、デゴザイマスガ、政府ト致シマシテ出來ルダケ之ヲ統制スルヤウニ目下考究致シツツアルノ、デゴザイマス

其ノ次ニ山田君ハ小型自動車ノコトニ付テ「ガソリン」節約ノ今日小型自動車ヲ普及セシムル方ガ宜イデハナイカト云フヤウナ御質疑デアリマシタガ、固ヨリ私共モ左様ニ存ズルノ、デゴザイマスルガ、只今自動車政策ノ使命ハ、單リ交通ト云フコトノミナラズ、軍事ノ重要ナル使命ヲ持ツテ居リマスルガ故ニ、小型自動車ノ方ニノミ全力ヲ注グト云フ譯ニハ參ラナイノ、デゴザイマス

ルガ、併シナガラ平時ニナリマスレバ、當然サウ云フ方ニモ努力シナケレバナラヌノ、デゴザイマシテ、商工省ニ於キマシテモサウ云フ方面ニ付テ試作ヲ致シテ居リマシテ、研究モ相當出來テ居ルコトデゴザイマス、又商工省内ニハ自動車技術委員會ナルモノガ出來テ、サウ云フ方面ノ考究モ只今致シツツアルヤウナ次第デゴザイマス

其ノ次ニ薪炭瓦斯發生爐ヲ附ケルコトニ付テノ御質問ガアツタヤウデゴザイマスガ、代用燃料ヲ使用スル今日ニ於キマシテ、殊ニ薪炭瓦斯發生爐ヲ附ケマスルコトハ必要デアアルノデアリマシテ、政府ト致シマシテハ來年度ノ豫算、只今提出致シマシタル豫算ニ於テモ獎勵金トシテ二百九十餘萬圓ヲ計上致シテ御協賛ヲ仰イダヤウナ次第デアリマス、今後ト雖モ山田君ノ御説ノ如ク一層此ノ方面ハ努力ヲ致シタイト存ズル次第デゴザイマス（拍手）

〔政府委員竹内可吉君登壇〕  
 ○政府委員（竹内可吉君） 自動車ノ行政機構改革ニ付テノ御尋ニ御答申上ゲマス、自動車ニ關スル行政ガ二三ノ省ニ跨ツテ居リマスコトハ、自動車事業ノ發達、又自動車製造事業ノ進行上ニモ不便ナコトデアリマシテ、隨テ自動車ニ關係ノアリマスル行政ヲ整備統一スルト云フコトノ必要デアリマスルコトハ、全く只今御述ニナツタ如クデゴザイマス、之ニハ自動車事業ノ保護助長ノ觀點カラ、現在ノ機構ヲ檢討スル必要ガアルト考ヘテ居ルノ、デゴザイマシテ、政府ニ於キマシテモ只今研究中デゴザイマスガ、交通省ノ

ルガ、併シナガラ平時ニナリマスレバ、當然サウ云フ方ニモ努力シナケレバナラヌノ、デゴザイマシテ、商工省ニ於キマシテモサウ云フ方面ニ付テ試作ヲ致シテ居リマシテ、研究モ相當出來テ居ルコトデゴザイマス、又商工省内ニハ自動車技術委員會ナルモノガ出來テ、サウ云フ方面ノ考究モ只今致シツツアルヤウナ次第デゴザイマス

設置ト云フヤウナコトニ付キマシテ、今後、尙ホ十分慎重ニ研究ヲシテ参リタイト思ヒマス

### ○副議長(田子一民君) 小串清一君

(小串清一君登壇)

○小串清一君 只今上程中ノ自動車交通業法中改正法律案ニ付キマシテ二三ノ質疑ヲ致シタイト思ヒマスガ、専門家ノ山田君ガ只今自動車業全般ニ付テ御質問ガアリマシタノデ、私ハ本法案ニ直接關係ノアル問題ニ付テ御尋ヲシテ見タイト思フノデアリマス

自動車ノ交通事業ガ此ノ事變ニ際シテ如何ニ重大デアルカト云フコトハ、只今大臣ノ御説明ニモアツクヤウニ、サウシテ其ノ運送量竝ニ運賃ガ國有鐵道ニ匹敵スル點、又貨物自動車ガ國防上重大ノ使命ヲ有スル點ニ見テモ、論ヲ俟タナイノデアリマスガ、而モ此ノ貨物自動車ノ問題ニ付キマシテハ、最近ニ是ガ不備ノ爲ニ諸君モ御記憶ノ重大ナ問題ガ起ツテ居リマス、即チ先般大阪、神戸ヲ始メ東京其ノ他ノ都市ニ米穀ノ不足ヲ來シ、危機一髪ノ状態ニナツタ時ニ、此ノ配給機構ノ不備ガ主ナル原因トシテ、貨物自動車ガ思フヤウニ利用ガ出來ナカッタコトガ非常ナ缺陷デアッタノデアリマス、事變以來自動車ハ多數徴發セラレマシテ、現在殘存ノ自動車ニ付キマシハ、其ノ營業ガ亂脈無統制ノ状態デアル、貸切自動車運送事業、就中「トラック」業ニ對シテハ、ドウシテモ此ノ法案ノ如ク特ニ之ヲ取上ゲテ國家統制ヲ布カレタト云フコトハ、是ハ時弊ヲ

匡救スル上ニ於テ適當ナルモノデアルト思フノデアリマス、併シシナガラ本法ニ於テ規定セラレタ自動車運送事業組合及ビ聯合會ハ政府ノ認メマスル一定ノ地域内ニ於テ、又其ノ業種ニ於テ、命令ヲ以テ加入ヲ強行スル、即チ強制加入ノ制度デアリマス、斯ル統制ガ現下ノ戰時體制ニ於テ、各種ノ事業ニ於テ見ルガ如ク、強度ノ官治統制ニ陥ツテ、民衆ヲ強壓シ、其ノ結果ハ却テ事業ノ發達ヲ害シ、能率ヲ減ズルノミナラズ、失業率ヲ増加スルガ如キ弊害ガ伴ツテ居ルノデアリマス、昨年ノ議會ニ小運送業及ビ日本通運株式會社法ノ實施ニ付テ、此ノ議場ニ於テ深刻ノ御質疑ガアツクヤウニ考ヘテ居リマスガ、兎ニ角此ノ統制ニ對シテハ、表面政府ハ手ヲ下サナクテモ、政府ト一體ニアル所ノ大ナル會社ガ小運送業者ヲ壓迫シテ、サウシテ是等ガ非常ニ苦境ニ立ツテ居ルト云フヤウナ不平ヲ能ク聞クノデアリマス、是ト同ジヤウナヤリ口デ此ノ運送事業組合ヲ通シテ官治統制ガ自動車事業ニ加ヘラレル、サウシテ資本主義「トラス」ノ強壓ト、是等業界ニ對シテ鐵道省ノ古イ人達ガ澤山入り込シテ來ルノデヤナイカト云フヤウナコトヲ非常ニ業者ハ慮レテ居ルノデアリマス、只今大臣ノ御答辯ニ依ツテ、此ノ點ニ付テハ非常ニ大臣ハ苦勞ヲシテ居ラレテ、ハツキリト御答辯ガアツタコトヲ私ハ非常ニ感謝シテ居ル者デアリマスガ、兎ニ角戰時體制ニ於テ計畫經濟ノ上カラ、有ニル産業ガ統制ヲセラレ、其ノ能率ヲ進メ、生産力ヲ擴充ヲ圖ルベキデアリマスガ、其ノ統制

ハ地方々々ノ實情ニ即シテ當業者ノ自治ヲ助長シ、所謂流行言葉デアアル所ノ官僚獨善ノ弊ヲ除カケレバ相成ラヌト存ジマス、此ノ自動車組合ニ付キマシテハ、昭和十三年ノ暮頃カラ、所謂「ガソリン」ノ消費規正ノ強化ニ伴フ所ノ對策トシテ、鐵道省ノ發シタル通牒ニ基イテ、各府縣ハ積極的ニ企業業ノ合同ヲ發願シ、現ニソレ以來各地ニ自動車運輸業ノ合同ガ行ハレテ居リマス、サウシテ是等ノ合同及ビ組合ニ於テ頗ル佳良ナル成績ヲ擧ゲテ居ルモノモアリマスケレドモ、又ソレト反對ノ事實ガ非常ニアル、殊ニ此ノ大ナル資本ヲ背景トシテ各地ノ合同運送業者ヲ巧ニ利用シ、「トラック」業ノ吸收合併ヲシヨウトシテ、現ニ只今大阪、神戸、京都、名古屋等ニ於テハ既ニ此ノ「トラス」ノ魔手ガ實行ニ移ツテ居ル、東京ニ於テモ此ノ大規模ノ吸收合併工作ガ只今計畫中デアルト云フコトデアリマス、無論此ノ大都市ニ於テ斯様ナ大會社ノ出來ルコト、若ハ「トラス」的大企業ノ生ズルコトヲ私ハ絶對ニ反對スルモノデアリマセケレドモ、政府ヲ背景トシテ斯様ナ問題ガ起ツテ來ルト云フコトニ付テハ餘程考ヘナクチャナラス、殊ニ其ノ役員ガ舊鐵道官吏デアツタ場合ニハ、先刻御指摘ニナツタヤウニ、營業ト監督トヲ混同スルト云フ非難ハ免レナイイダラウト思フノデアリマス、又「トラック」業ハ元來必ズシモ大企業制ヲ採ル必要ハナイト思フノデアリマス、寧ろ其ノ組織ハ中小企業ヲ以テ經營スルコトガ能率増進ノ上ニ非常ニ效果ガアル、サウシテ

又斯ル方法ニ依ツテ民間ノ業者ノ生活ガ此ノ戰時ニ於テ、殊ニ最モ經濟難ト稱セラレル此ノ業態ニ對シテ安定シ得ラレルノデハナイカ、一體此ノ吸收合併ノ問題ニ付テハ莫大ニ權利金ヲ計上シテ、サウシテ自由經濟時代ノ獨占的企業化ヲ目標トスルヤウナ状態デ、サウシテソレガ爲ニ合同會社ノ内容ガ不健全ニナリ、買収ニ應ジタル業者ヲ救済スル爲ニモナラナイ、何トナレバ營業權ハ會社ノ架空ナル資産トシテ其ノ會社ノ經營ニ重壓ヲ加ヘルコトニナリ、又買収ニ應ジタル業者ハ所得稅、臨時利得稅ヲ課セラレテ、結局蛇蜂取ラズニナルノデアルト云フコトガ、此ノ大企業ニ對スル非常ナ缺陷デハナイカ、故ニ私ハ中小組合ヲ助長シテ、サウシテ又今大臣ノ仰セラレタヤウナ風ニ、實情ニ即シテ官治ノ弊害ヲ改メ、何處マデモ自治的ニヤツテ貫ヒタイ、先刻大臣ハアア云フ御答辯ヲナサイマシタケレドモ、前內閣以來ノ鐵道ノ方針ハ、一ツノ大會社デ之ヲ押ヘテ進ンデ行クト云フ方針ガ長ク續イテ居ツタノデアリマスカラ、私ハ此ノ點更ニモウ一應御考慮ヲ煩ハシタイト云フノガ私ノ質疑ノ第一點デアリマス

次ニ自動車業ニ對シマシテハ、先刻モ申シタ通りニ商業組合ノ設立ガ積極的ニ出來上ツテ、今日デハ此ノ六大都市ヲ始メトシマシテ全國ニ多數ノ組合ガ出來、此ノ組合ノ有スル車輛ハ、全車輛數ノ半分ニモ及ンデ居ツテ、著々國策協力ノ態勢ヲ整ヘテ居ル、然ルニ今回ハ此ノ商業組合ヲ改組シテ、之ヲ自動車運送組合ニ變更シ、其ノ變更シタト

云フコトハ、即ち單ナル名稱ノ變更デハナクシテ、實際ハ商工省ノ管轄ヲ離レテ鐵道省ニ入ツタノデアリマスガ、此ノ商工省ヨリ鐵道省へ移管シタ方法ガ全部デナクシテ、即ち商業組合ノ方面ニ最モ商工省トシテ指導若クハ監督ヲシテ居ツタ、即ち、資材ノ配給「ガソリン」「タイヤ」「メーター」其ノ他ノ物資ノ割當及ビ斡旋等ハ、依然トシテ商工省ガ之ヲ扱ツテ居ル、然ル時ニ此ノ自動車運送組合ハ前ニ商業組合トシテ、非常ニ商工省ノ御世話ニナツテ居ツタコトガアツテ、業者ハ二重ノ監督ヲ受ケル、今マデ大部分ガ一ツノ舅ヲ持ツテ居ツタノガ、今度ハ二ツノ舅ヲ持ツテ行クト云フコトニナルカラ、自然業務ノ澁滞ヲ免レズ、敏速ヲ缺クト云フ缺點ガアルノデハナイカ、一體本法ノ制定ニ當ツテ、兩省ニ於テ意見ガ對立シテ、結局商工省ガ鐵道省ニ讓歩シテ移管シタト云フヤウナ噂ガアリマスガ、既ニ斯ウナツタ以上——自動車商業組合ハ元ハ任意ニ設立シタノデハナクテ、政府ノ政策遂行上之ヲ作レト云フコトデ、漸ク組織ガ出來上ツテ、將ニ其ノ運用ヲ整備シヨウトスル時ニ、又再ビ政府ガ方針ヲ變ヘタト云フコトニ付テハ、當業者ハ多大ノ犠牲、迷惑ヲ餘儀ナクサレテ居ルト思フノデアリマス、其ノ理由トシテハ、商業組合ハ經濟組合デアルカラ、統制ニ無力デアル、故ニ變更スルノダト云フコトデアルガ、私ハ若シソコマデ氣ガ付イテ兩省ノ話ガ付イタノデアラナラバ、先刻山田君ノ言ハレタヤウニ、鐵道省デモ構ハナイト思フ、鐵道省ガ

モツト徹底的ニ、此ノ自動車組合ノ有ユル問題ヲ扱フヤウニ、即ち一元的ニ之ヲ爲スベキ理由ガアルト思フ、是ガ私ノ重大ナル心配ノ點デアリマス、詰リ今マデヨリモ却テ業者ガ迷惑ヲ感ズルヤウニナツテハナラヌ、故ニ私ハ之ヲ一元的ニ統制スルコトヲ特ニ希望スル者デアリマスガ、政府ハドウ云フ御考デアリマスカ、是ガ第二デアリマス

次ニ自動車ノ組合、即ち自動車ノ統制上、一昨年來各府縣ニ於テ自動車業者ヲ企業合同セシメル爲ニ、政府ノ方針トシテ各府縣ノ地方長官ガ、警察署長ニ依ツテ是等ノ業者ヲ集メテ、此ノ企業合同ヲ強ヒタ實例ニ對シテ、一言御尋ヲシヨウト思フノデアリマス、自動車ノ業態ガ、今日ノヤウニ資材モ不足シ、燃料モ不足スル場合ニ、適當ニ是ガ合同ヲ致シマシテ、資本ヲ合同シ、企業ヲ合同シテ、サウシテ自分ノ無益ヲ消費ヲ防ギ、お互ニ助合フト云フコトハ、全く其ノ通りデアリマスガ、而モ之ヲ各府縣區々ノ方法ニ依ツテ、此ノ合同ヲ強制シタ事實ハ、今回鐵道省ニ移管サレテカラ、殊ニ私ハ鐵道當局ニ御考ヲ願ハナケレバナラスト存ジマシテ、茲ニ私ノ所ニ報告シテ來タニ二三ノ例ヲ申上ゲテ見ヨウト思ヒマス、其縣ノ郡部デハ警察署長ガ當業者ヲ召集シテ、一警察署管内一會社ト云フコトニ統一スベキ方針ヲ示シテ、即時參加ノ調印ヲ求メ、之ニ應ゼザル者ニ對シテハ、國策ノ違反者ト稱シテ、揮發油配給量ノ削減、或ハ營業免許ノ取消等ノ威嚇的言辭ヲ弄シテ、營業ニ

關シテハ警察ニ絕對ノ權利ヲ握ラレテ居ル弱キ當業者ハ、何レモ泣寝入り的ニ之ニ應ジタト云フヤウナコトガアル、又他ノ某縣デハ、同様ノ手段ヲ用ヒテ合同ヲ強要シ、現實ニ揮發油ノ配給量ヲ、其ノ命令ニ應ゼザル者ニ對シテハ、三割方削減ヲシ、或ハ免許更新ノ手續ヲ拒ンダト云ツタヤウナ例ガアル、其ノ他斯ウ云フ報告ガ非常ニ各地カラ來テ居リマス、今後此ノ自動車運送業統制法ニ依ツテ鐵道省ガ統制スルト共ニ、各地方廳ニ向ツテソレノ企業ノ合同ヲ進メラレルノデアリマセウガ、是ハ先刻モ大臣ノ言ハレタ通り餘程考ヘテ、大都市ノ如キハ相當大キイ合同ガ出來テモ宜シイノデアルガ、サモナイ地方ニ於テハ、却テ其ノ爲ニ非常ナ混亂ヲ來シテ居ル事實ガアル、即チ山間部ニ於ケル實情ヲ考慮セズシテ、地域的ノ合同ヲ爲サシメタガ爲ニ、各部落ニ點在シテ、其ノ部落ノ需要ニ應ジテ發達シテ來タ自動車ガ、其ノ合同ノ結果、其ノ土地ノ中心ノ町ニ集ツテシマツテ、荷主ガ非常ナ不便ヲ感ジテ居ルト云フ地方ガアル、私ガ特ニ其ノ場所ヲ言ハナイノハ、少シ事情ガアツテ、其ノ處ヲ言ハスノデアリマスルガ、其ノ次ニ又集約ノ結果事業ガ獨占的トナツテ、運賃ハ却テ非常ニ高クナツテ、サウシテ又營利會社デアルカラ、有利ナ運送ニハ車ヲ集中スルケレドモ、部落ノ地方ノ今マデ之ヲ利用シテ居ツタ者ハ、殆ド此ノ利用ガ出來ナイ、假ニ自動車ヲ頼ミニ行ク爲ニモ、二里モ三里モ自轉車ヲ行カナレバ「トラック」ガ見付カラナイト云フ所ガ

アルノデアリマス、又村落ニアル自動車ガ中心ノ町ニ集リマスガ爲ニ、村落ノ財政、即チ小サナ町村ニ於テハ、其ノ負擔ノ稅其ノ他ガナクナツテシマツテ、其ノ村デサウ云フコトノ爲ニ困ツテ居ル、或ハ又山間地方ニ於ケル所ノ「トラック」運送ト云フモノハ、從來カラ往復運送デアツタモノガ、此ノ合同ノ結果トシテ片々ノミノ運送ニナツテ居ル、或ハ又企業合同ノ斯ウ云フ場合ニ際シテハ、往々ニシテ一部搾取ノ策謀ヤ、或ハ資本家ノ株式ノ買収ト云フヤウナコトガ行ハレテ、ソレガ爲ニ失業者ガ非常ニ出來テ、既存ノ小サイ業者ノ生活ヲ脅スト云フヤウナ實例ガ今日アルノデアリマス、以上ノヤウナ弊害ハ、即チ此ノ取締官憲ガ能ク其ノ事情ヲ明ニセズシテ、唯中央ノ統制ト云フ話ヲ聞イテ、直チニ實情ヲ無視シタ机上計畫ニ依ツテ、合同企業ノ結成ヲ強行スルト云フコトノ爲ニ、斯ウ云ツタヤウナ弊害ガ澤山ニアツタト思フノデアリマス、是等ノ點ニ付テハ、今回ノ此ノ法令改正ニ對シテ最モ御留意ニナリマシテ、サウシテ適當ニ之ヲ釐革訂正ヲシテ貰ヒタイ、而モ此ノ事ハ元來鐵道省ト申シマスルヨリモ、内務省ノ仕事デアリマスガ、其ノ主管デアル鐵道省ニ於テ十分御注意ニナリ、又内務省モ私ノ此ノ質疑ニ對シテ御考慮ヲ仰ギタイト思フノデアリマス

ソレカラ次ハ先刻御話ノ、ヤハリ自動車運送事業ニ一番關係ノアルノハ燃料ノ問題デアリマスガ、此ノ燃料ノ問題ハ、目下代用燃料ニ對シテ當局モ非常ナ苦心ヲ拂ツテ

居ラレケレドモ、而モ木炭モ十分ニナイ、

薪モ思フヤウニ集ラナイ、ソレデ其ノ燃料

資源ノ缺乏ト云フコトガ、此ノ業態ヲ非常

ナ苦況ニ陥レルノミナラズ、即チ生産力擴

充ノ目的ニ最モ大害ヲ持ツテ居ルノデアリ

マスカラ、今後燃料ノ資源ノ擴張ニ付テハ、

國家ハ今ノヤウナバラ／＼ノ考デハナク、

統一アル方針ニ依ツテ、十分ニ此ノ資源ヲ

培養セナケレバナラヌト同時ニ、我國ニ於

テ最モ乏シイ所ノ「ガソリン」ニ對シテハ、更

ニ其ノ利用ヲ節約ヲ考ヘテ貰ハナケレバナ

ルマイト思フ、現在ハ東京デモサウデアリマ

スガ、辻待ノ自動車ノ如キハ、殆ド遠距離

ノ御客ハ之ヲ斷ル者ガ多イ、サウシテ又貨

物自動車ノ如キモ、有利ナ仕事ナラバ引受

ケルト云フヤウナ風デ、殆ド所謂公益事業

トシテノ任務ヲ果シテ居ナイヤウナコトガ

澤山ニアル、又同時ニ盛ニ闇取引ガ行ハレ

テ居ル、本法ノ實施ニ當ツテハ、特ニ是等

ノ點ニ御注意ニナランコトヲ希望スルノデ

アリマス、歐羅巴開戰以來、英吉利、佛蘭

西、獨逸等ハ、我國ニ比ベテ石油ノ供給ガ

更ニ潤澤デアアルノデアリマスケレドモ、而

モ強度ノ規正ヲ斷行シテ、現ニ今ハ自家用

自動車ハ全部配給ヲ止メテ居ルト云フヤウ

ナコトヲ聞イテ居ルノデアリマス、我國デ

モサウ云フコトヲ望ム譯デハアリマセヌケ

レドモ、此ノ燃料ノ利用ヲ大ニ圖ルト共

ニ、戰爭ニドウシテモナクテハナラヌ「ガ

ソリン」ノ節約ノ爲ニハ、政府ニ於テモ更ニ

思フ致サレナケレバナラヌノデハナイカ、

此ノ點ニ付テモ御考ヲ承ツテ見タイ

尙ホ次ハ今回ノ法令ニ依ツテ、即チ強制

監督ヲ爲ス結果トシテ、從來ノ補助制度ヲ

擴張シテ、車體ニ對シ或ル規格ノモノニ補

助ヲ與ヘル外ニ、此ノ統制事務費用ノ爲ニ、

其ノ半額ヲ補助セラルルト云フコトデアリ

マスガ、斯ウ云ツタ補助ハ、ヤハリ大キイ

會社ニ利用セラレテ、中小ノ統制企業者ニ

ハドウシテモ均霑ノ割合ガ少イト云フノガ

實際デアリマスガ、此ノ戰時ノ重要産業ニ從

事スル場合デアリマスカラ、小サイモノニ

對シテ、特ニ其ノ補助ノ點ニ付テモ御注意

ヲ十分ニ御拂ヒニナリ、サウシテ又都市ト

地方トノ業態ヲ顧ミテ、寬嚴宜シキヲ得ル

ヤウニ願ヒタイノデアリマス

以上五點ニ付テ、意見ト申シマスガ、希

望ト申シマスガ申上ゲテ、當局ノ善處ヲ

促シ、且ツ御質問ヲ致シ次第デアリマス

(拍手)

〔國務大臣松野鶴平君登壇〕

○國務大臣(松野鶴平君) 小串君ノ御質疑

ニ對シテ御答致シマス、小串君ハ能ク御諒

解下サツテ居ルト思ヒマスガ、大體御意見

トシテ承ツテ見マス、要スルニ新シイ法

律ガ出テ、總テノ事業ガ統制ニナル場合ハ、

殆ド民業ヲ壓迫シテシマフデハナイカ、斯

ウ云フコトヲ、根本的ニ統制ト云フ問題ニ

對シテ、御心配ニナツテ居ルガ如ク大體

ニ於テ感ジマス、ソレデ今回ノコトハ、成

ベク自治的ニ組合ヲ統制シヨウト云フ意味

デアリマシテ、決シテ強制的ノ意味ニ於テ

組合ヲ拵ヘサセル、斯ウ云フ意味デハナイ

ノデアリマス、其ノ事ハ既ニ御承知ノ通り

デアリマス

次ニ商業組合ガ現ニアルニ拘ラズ、之ヲ

又更ニ本改正法律案ニ依ツテ、鐵道省ノ方

ニ拵ヘルコトハドウカ、斯ウ云フコトデア

リマスガ、是ハ小串君モ御承知ノ通りニ、

今度ノ改正案ガ成立致シマス、現在商工

省ノ方ニアル商業組合ハ、其ノ儘鐵道省ニ持

ツテ來マスノデ、別ニ商工省ノ方ニ是ガ殘

ル譯デハナイノデアリマス、サウシテ商業

組合トシテ、今マデ極メテ健全ニ發達シテ

居ツタニ拘ラズ、ソレヲ鐵道省ニ持ツテ來

テ統一スルコトニ依ツテ、其ノ鐵道省ノ統

一セル監督權ノ下ニ於テ、又何カ業者ヲ壓

迫スルヤウナ感ジラ與ヘハシナイカ、斯ウ

云フ點モ、私ノ聽ク所デハ御不安ノヤウニ

考ヘマシタガ、今回ノ改正案ニ依ツテ、商

工省ノ方ノ商業組合ヲ鐵道省ノ方ニ一元化

サレマスガ、是ハ兩省間ノ諒解ノ下ニ、其ノ

運用ノ上ニ於テ、所謂機構改革ノ一助トモ

ナルベク一新紀元ヲ開イタノデアリマシテ、

商工省カラ之ヲ鐵道省ニ移シタ方ガ、寧ロ

總テノ點カラ考ヘテ宜カラウ、斯ウ云フ意

味ニ於テ、舊來アリマシタ商業組合ヲ今回

ノ改正法律案ニ依ツテ鐵道省ノ方ニ移ス、

斯ウ云フコトニナリマシタノデアリマスガ

ラ、此ノ點ハ、商業組合トシテハ現在營業

シテ居ル時ヨリモ、寧ロヨリ良キ諒解ノ下

ニ業務ノ統制ガ付ク、斯ウ云フ意味ニ於テ

御安心下サツテ差支ナイト考ヘマス、

ソレカラ今マデアリマス所ノ「パス」トカ、

「トラック」、斯ウ云フモノヲ過去ニ於テ合

同スル場合ニ、業者ハ如何ニモ所謂監督權

ノ下ニ壓迫ヲ受ケテ、サウシテ其ノ本意ナ

イ點マデモ仕方ナク之ニ同意シタ、斯ウ云

フ風ノコトガ始終感ゼラレルカラ、斯ウ云

フコトニ對シテハ十分ニ當局トシテモ考ヘナ

ケレバナラヌノデハナイカ、斯ウ云フ御趣

旨ト拜聽致シマシタガ、此ノ點モ極メテ御

尤モダト思ヒマス、サウ云フ專ガ假ニアツ

タト致シマスレバ、サウ云フコトノナイヤ

ウニ十分ニ監督シナケレバナラヌ譯デアリ

マス、唯合同其ノモノハ、何トシマシテモ、

經濟的ノ點カラ考ヘマシテモ、或ハ經營上

ノ點カラ考ヘマシテモ、監督ノ上ニ於キマ

シテモ、合同其ノモノハ適當ニ指導シテ行

カナケレバナラヌ、斯ウ考ヘマスケレドモ、

此ノ事アル爲ニ、業者ガ所謂自分ノ業ヲ奪

ハレルガ如キ壓迫ヲ感ズルヤウナコトハ、

是ハ斷ジテ致スベキモノデハナイ、斯ウ云

フ意味カラ考ヘマシテ、此ノ點ニ付キマシ

テハ、所謂監督行政ノ上カラ、十分ニ注意

ヲ拂フベキモノダト考ヘテ居リマス

次ニ商工省監督ノ下ノ商業組合デアツタ

時分ハ、自動車ノ資材、即チ「タイヤ」ノ如キ

モノハ、自然ニ便利好ク扱フコトガ出來タ

ケレドモ、今度鐵道省ニ移サレルト、サウ

云フコトニ對シテ不便ナコトニナルノデハ

ナイカ、斯ウ云フ御懸念モアルヤウニ考ヘ

マスガ、監督官廳タル鐵道省ト致シマシテ

ハ、物資ノ配給關係ニ付キマシテハ、能ク

商工省ト連絡ヲ取リマシテ、斯ウ云フ自然

ニ出來マシタ組合デ、成ベク圓滑ニ取扱フ

コトノ出來ルヤウニ致シタイト考ヘテ居リ

マス、大體以上ヲ以テ御答ト致シマス

○副議長(田子一民君) 是ニテ質疑ハ終了致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、金華山軌道株式會社及朝倉軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(田子一民君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、是ニテ議事日程ハ議了致シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後四時二十八分散會

衆議院議事速記録第十五號中  
正誤

頁 段 行 誤 正  
三一六 二七 二千六百萬圓 一千六百萬圓

衆議院議事速記録第十八號中  
正誤

頁 段 行 誤 正  
四一四 二一八 時變 事變  
四一五 二二三 生産 生活